

学校法人 埼玉医科大学

埼玉医科大学短期大学

Saitama Medical University College

令和 4 年度自己点検・評価報告書

(2022 年度年報)



埼玉医科大学短期大学

令和 5 年 3 月 31 日発行

学校法人 埼玉医科大学

埼玉医科大学短期大学

Saitama Medical University College

令和 4 年度自己点検・評価報告書

(2022 年度年報)

埼玉医科大学短期大学

令和 5 年 3 月 31 日発行



適格認定証

埼玉医科大学短期大学

貴短期大学は令和元年度
認証評価の結果 適格と認定する



ACCREDITED
2019

令和2年3月17日

一般財団法人 短期大学基準協会

理事長

関口 修



目次

大項目	中項目	小項目	ページ
埼玉医科大学 短期大学の 概要	1.自己点検・ 評価の基礎資料	1)学校法人及び短期大学の沿革	1
		2)学校法人の概要	1
		3)学校法人・短期大学の組織図	4
		4)立地地域の人口動態・学生の入学動向・地域社会のニーズ	5
	2.自己点検・評価 の組織と活動	1)自己点検・評価委員会（担当者・構成員）	12
		2)自己点検・評価の組織図	13
		3)組織が機能していることの記述	14
		4)自己点検・評価報告書完成までの活動記録	14
I.建学の精 神と教育の 効果	1.建学の精神	1)建学の精神の確立	15
		2)高等教育機関として地域・社会への貢献	16
	2.教育の効果	1)教育目的・目標の確立	21
		2)学習成果の策定	
		3)三つの方針の一体的な策定と公表	
		4)教育の効果の課題	
3.内部質保証	1)自己点検・評価活動等の実施体制の確立と内部質保証への 取り組み	33	
	2)教育の質の保証		
	3)内部質保証の課題		
	4)内部質保証の特記事項		
	5)建学の精神と教育の効果の改善状況・改善計画		
II.教育課程 と学生支援	1.教育課程	1)看護学科・専攻科の DP の明確化	52
		2)看護学科・専攻科の CP の明確化	55
		3)短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう 編成する教育課程	55
		4)職業又は實際生活に必要な能力を育成する教育課程と職業 教育の実施	66
		5)看護学科・専攻科の AP の明確化	73
		6)短期大学及び看護学科・専攻科の学習成果の明確化	73
		7)学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する 仕組み	73
		8)学生の卒業後評価への取り組みの実施	76

	2. 学生支援	1) 学習成果の獲得に向け教育資源の有効活用	76
		2) 学習成果の獲得に向けた学習支援の組織的な取り組み	92
		3) 学習成果の獲得に向けた学生への生活支援の組織的な取り組み	104
		4) 進路支援の実施	109
Ⅲ. 教育資源 と財的資源	1. 人的資源	1) 教育課程編成・実施の方針に基づいた教員組織の整備	110
		2) 専任教員による教育課程編成・実施の方針に基づいた教育研究活動の実施	116
		3) 学生の学習成果の獲得が向上するような事務組織の整備	174
		4) 労働基準法等の労働関係法令を遵守した人事・労務管理の適切な実施	177
	2. 物的資源	1) 教育課程編成・実施の方針に基づいた校地、校舎、施設整備、その他の物的資源の整備と活用	177
		2) 施設整備の維持管理の適切な実施	179
	3. 技術的資源をはじめとするその他の教育資源	1) 教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるための技術的資源の整備	180
	4. 財的資源	1) 財的資源の適切な管理	180
Ⅳ. リーダー シップとガ バナンス	1. 理事長の リーダーシップ		181
	2. 学長の リーダーシップ		181
	3. ガバナンス		181

注：本学では「学修成果」という表現を使用しているが、目次および本文中における項目では大学・短期大学基準協会に準じて「学習成果」と表記している。

埼玉医科大学短期大学の概要

1. 自己点検・評価の基礎資料

1) 学校法人及び短期大学の沿革

(1) 認可申請から現在まで

昭和62年 6月	埼玉医科大学短期大学設置認可申請 第一次申請
昭和63年 6月	埼玉医科大学短期大学設置認可申請 第二次申請
昭和63年 12月22日	埼玉医科大学短期大学設置認可
平成元年 4月1日	埼玉医科大学短期大学開学
平成 8年 12月19日	埼玉医科大学短期大学専攻科設置認可
平成 9年 4月1日	埼玉医科大学短期大学専攻科開設(地域看護学専攻・母子看護学専攻)
平成20年 3月31日	埼玉医科大学短期大学臨床検査学科 閉学科
平成21年 3月31日	埼玉医科大学短期大学理学療法学科 閉学科
平成21年 3月31日	埼玉医科大学短期大学専攻科地域看護学専攻 閉攻

(2) 短大看護学科の母体校

埼玉医科大学附属看護専門学校（学校法人 埼玉医科大学）

設立	昭和51年4月
閉校	平成 3年3月
入学者総数	718名
卒業生総数	701名

(昭和54年より専修学校)

2) 学校法人の概要

(1) 所在地：埼玉県入間郡毛呂山町大字毛呂本郷 38 番地

(2) 校舎

埼玉医科大学短期大学校舎	地下1階 地上7階	6,789.4m ²
同専攻科校舎	9号館 6階	383.3m ²

(3) 看護学科・専攻科入学定員、修学年限

看護学科入学定員、修学年限

	定員	修学年限
看護学科	100名	3年

専攻科入学定員、修学年限

	定員	修学年限
母子看護学専攻	20名	1年

(4) 図書

① 埼玉医科大学短期大学図書館（令和5年3月31日現在）

延面積		187.2 m ²
総蔵書冊数		23,242冊
年間受け入れ冊数		431冊
雑誌数	国内誌	155誌
	国外誌	4誌
年間入館者数		3,052人

② 埼玉医科大学附属図書館（令和4年3月31日現在）

延面積		4,238 m ²
総蔵書冊数		252,645冊
年間受け入れ冊数		2,557冊
雑誌数	国内誌	414誌
	国外誌	22誌
年間入館者数		11,047人

(5) 関連施設

① 学校法人 埼玉医科大学

埼玉医科大学医学部（毛呂山町）
埼玉医科大学保健医療学部（日高市・毛呂山町）
埼玉医科大学病院（毛呂山町）
埼玉医科大学総合医療センター（川越市）
埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子センター（川越市）
埼玉医科大学国際医療センター（日高市）
埼玉医科大学ゲノム医学研究センター（日高市）
埼玉医科大学かわごえクリニック（川越市）
埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校（川越市）
埼玉医科大学訪問看護ステーション（毛呂山町）
埼玉医科大学介護支援センター（毛呂山町）
埼玉医科大学総合医療センター訪問看護ステーション（川越市）
埼玉医科大学総合医療センター介護支援センター（川越市）
埼玉医科大学在宅介護支援センター（川越市）
保育園めぐみ（毛呂山町）
埼玉医科大学つばさ保育園（川越市）
託児所あすなろ（日高市）

② 社会福祉法人 埼玉医療福祉会

丸木記念福祉メディカルセンター（毛呂山町）
障害者自立支援施設やすらぎ（毛呂山町）
デイケアセンター・地域活動支援センターのぞみ（毛呂山町）
ケアハウス薫風園（毛呂山町）
介護老人保健施設薫風園（毛呂山町）
地域包括支援センター薫風園支所（毛呂山町）
特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ本郷（毛呂山町）
老人福祉センター 山根荘（毛呂山町）
光の家療育センター（毛呂山町）
埼玉医療福祉会看護専門学校（毛呂山町）

③ 社会福祉法人 育心会

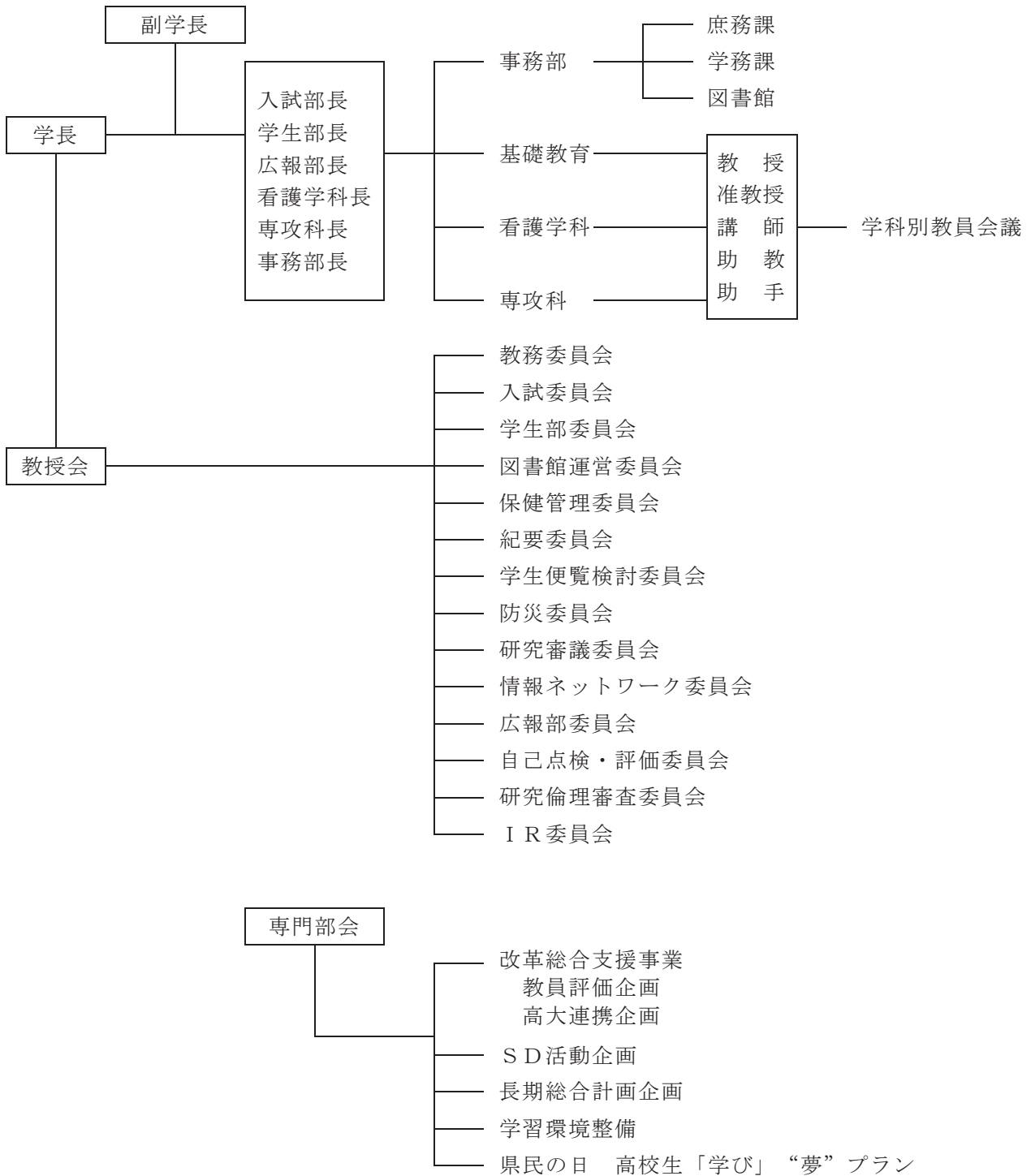
障害児入所施設 障害者支援施設 育心寮（毛呂山町）
救護施設 育心寮（毛呂山町）
特別養護老人ホーム 悠久園（毛呂山町）
悠久園 短期入所支援センター（毛呂山町）
悠久園 居宅介護支援センター（毛呂山町）
悠久園 デイサービスセンター（毛呂山町）
障害者支援施設 光風寮（毛呂山町）
障害者支援施設 第2光風寮（毛呂山町）
障害者支援施設 第3光風寮（毛呂山町）
障害者支援施設 松山荘（毛呂山町）
障害者支援施設 報恩施設（毛呂山町）
生活支援センター 向陽（毛呂山町）

④ 社会福祉法人 埼玉医大福祉会

医療型障害児入所施設 カルガモの家（川越市）

3) 学校法人・短期大学の組織図

(1) 学校法人・短期大学の組織図



(2) 法人役員（令和4年度）

学校法人埼玉医科大学

理事長：丸木 清之

理事：丸木 清之、別所 正美、相木 七良右エ門、池澤 俊幸、池田 一義、江利川 毅、
小山 勇、塩川 修、篠塚 望、田島 賢司、棚橋 紀夫、堤 晴彦、原 敏成、
武藤 光代、茂木 明、吉本 信雄

監事：香西 敏男、三和 彦幸

(3) 短期大学役職者（令和4年度）

学 長	丸木 清之
学長特別補佐	所 ミヨ子
副学長	久保かほる
入試部長	久保かほる
学生部長	今野 葉月
図書館長	内田 貴峰
広報部長	蒲生 澄美子
看護学科長	霜田 敏子
専攻科長	稲井 洋子
看護学科教務主任	浅見 多紀子

4) 立地地域の人口動態・学生の入学動向・地域社会のニーズ

毛呂山町は東経139度、19時8分、北緯35度、56時8分に位置している。秩父連峰を望み緑豊かな自然に恵まれ中央部をJR八高線と東武越生線が走り沿線を中心に住宅地が広がっている。

毛呂山町は昭和30年に旧毛呂山町と川角村が合併して誕生した。合併時、約11,000人だった人口はその後増加し、平成半ばの4万人弱の人口をピークに近年は人口減少傾向にある。令和4年4月1日現在、毛呂山町の人口は約32,757人である。

少子高齢による人口減少のため、子育て支援や高齢者の介護予防地域の大きなニーズである。子育て支援金制度や教育環境整備、高齢者の健康長寿のための、ゆずっこ元気体操やかかりつけ医と埼玉医科大学病院の連携などを推進している。

学生の入学動向は以下の通りである。

(1) 入学者の受け入れ

① 学生募集の広報

令和4(2022)年度も引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしながら広報活動を行った。

i. オープンキャンパス【令和4年度】

令和4年度		3/25(金)	5/28(土)	6/19(土)	7/9(土)	8/20(土)	10/20(土)	合計
	看護学科	1名	57名	15名	58名	23名	12名	166名
	母子看護学専攻				21名	16名		37名
	合計	1名	57名	15名	79名	39名	12名	203名

内容：学科紹介、入試概要、実習病院紹介、校舎内キャンパスツアー、
教職員および学生による個別相談など ※3/25、8/20、10/20はオンライン開催

ii. オープンキャンパス参加登録者数

看護学科 令和2年度 332名、 令和3年度 371名、 令和4年度 327名
専攻科 令和2年度 34名、 令和3年度 149名、 令和4年度 40名

iii. オンラインによるオープンキャンパス：動画の再生回数【令和2年度～令和3年度】（単位：回）

動画タイトル	看護学科		専攻科	
	令和2年	令和3年	令和2年	令和3年
1. 学科紹介	491	250+α	30	115
2. 入試説明(看護)・入試概要(母子)	367	175+α	66	130
3. 学生生活紹介	277	264	33	132
4. 実習病院紹介	292	232	—	—
5. 現役ナースからのメッセージ	394	211	—	—
6. 受験対策	—	194	—	—
7. 学生寮紹介	285	218	—	—
8. キャンパス紹介	*1	159+α	—	—

*1：配信方法が1-7と異なるため、再生回数の確認ができなかった。

*2：令和4年度はコロナウイルス感染防止のため、8月開催のみオンラインとなり、再生回数の確認ができなかった。

a.動画は原則としてオープンキャンパスの参加登録者に対する限定配信であるが、令和3年10月より看護学科の「学科紹介」「入試説明」「キャンパス紹介」はホームページ上で公開を開始した。

b.配信期間：令和2年度 7/10-7/12, 8/6-8/22, 10/1-10/14, 12/1-12/14.
令和3年度 5/20-6/2, 6/29-7/12, 8/12-8/23, 10/13-10/25.

iv. オンラインによるオープンキャンパス：グループ相談会【令和2年度～令和3年度】

令和 2年度		7/12(日)	8/22(土)	12/12(土)	—	—	—	合 計
	看護学科	31名	27名	1名	/	/	/	59名
	母子看護学専攻	6名	9名	—				1名
	合 計	37名	36名	1名				74名
令和 3年度		3/26(金)	5/29(金)	7/10(土)	7/11(日)	8/22(日)	10/23(土)	合 計
	看護学科	2名	4名	7名	9名	28名	9名	59名
	母子看護学専攻	—	—	15名	—	23名	—	38名
	合 計	2名	4名	22名	9名	51名	9名	97名

相談会：オンラインビデオ会議システムを用いてグループ相談・個別相談を行った。

グループは、参加者が1グループに2～3人の配置になるように編成した。

※令和4年度は8月20日(土)開催がコロナウイルス感染防止のため、オンライン開催となった。

参加者は23名だった。

v. ミニオープンキャンパス（午前・午後の2回実施）

	開催日	参加高校生等
令和2年度	実施せず	—
令和3年度	実施せず	—
令和4年度	実施せず	—

内容：学科紹介、入試概要、校舎内キャンパスツアー、個別相談（教職員が対応）

vi. 本学への個別見学（ミニオープンキャンパス以外の来学者）

	看護学科	母子看護学専攻	合 計
令和2年度	実施せず		—
令和3年度	実施せず		—
令和4年度	5名	0名	5名

内容：学科紹介、校舎内キャンパスツアー（教職員が対応）

vii. 本学への団体見学（高校単位：令和2年度～令和4年度）

	件 数	参加高校生等	本学参加教員延べ数
令和2年度	実施せず		—
令和3年度	実施せず		—
令和4年度	1件	3名	1名

内容：学科紹介、模擬授業、校舎内キャンパスツアー（教職員が対応）

viii. 学外説明会（高校生・予備校生等対象：令和2年度～令和4年度）

	件数	参加高校生等	本学参加教員延べ数
令和2年度	2件	13名	2名
令和3年度	12件	92名	12名
令和4年度	16件	158名	16名

内容：模擬授業またはブース対応（教員が出張もしくはオンラインにて対応）

ix. 高校訪問（令和2年度～令和4年度）

	訪問高校延べ数	訪問延べ日数	本学訪問教職員延べ数
令和2年度	12校	8日	1名
令和3年度	17校	6日	3名
令和4年度	40校	11日	5名

②選抜方法（学校推薦型選抜，一般選抜，社会人選抜）

学校推薦型選抜・一般選抜・社会人選抜の選抜方法は下記である。

	定員	学校推薦型選抜	一般選抜	一般選抜／社会人選抜
看護学科	100名	○	○	
専攻科	20名	○*		○

*専攻科の推薦は学内推薦のみ

i. 看護学科 入学者の選抜

	学校推薦型選抜 A 日程	学校推薦型選抜 B 日程	一般選抜 I 期	一般選抜 II 期
募集人員	70名	10名	18名	若干名
試験日	令和4年11月27日9:30～	令和4年12月11日 9:30～	令和5年1月15日 9:30～	令和5年2月26日 9:30～
試験会場	埼玉医科大学短期大学			
出願資格	2023年度 学生募集要項（別冊子）を参照			
出願期間	令和4年11月8日 ～11月24日	令和4年12月2日 ～12月9日	令和4年12月12日 ～令和5年1月12日	令和5年1月23日 ～2月24日
試験科目	科目・時間等(A 日程・B 日程 共通)		科目・時間等（I 期・II 期 共通）	
	小論文 9:30～10:30 面接 11:00～15:00 頃		国語総合（古・漢文を除く） 9:30～10:20 コミュニケーション英語I・II 数学I・Aより1科目選択 10:50～11:40 面接 13:00～15:00 頃 その他：書類選考（入学者の選抜は試験の成績および調査書による総合的選抜を行う。）	
合格者発表	令和4年12月1日 10:00	令和4年12月13日 10:00	令和5年1月17日 10:00	令和5年2月27日 16:00
	埼玉医科大学短期大学校舎前 及び 本学ホームページに掲載 本学ホームページ： http://www.saitama-med.ac.jp/tandai/			
入学手続期間	令和4年12月2日 ～12月9日	令和4年12月14日 ～12月21日	令和5年1月18日 ～1月27日	令和5年2月28日 ～3月8日

ii. 看護学科 入学者の選抜結果

	志願者	受験者(A)	合格者(B)	競争率(A/B)
学校推薦型選抜 A 日程	78名	77名	76名	1.0倍
学校推薦型選抜 B 日程	8名	8名	8名	1.0倍
一般選抜 I 期	25名	25名	20名	1.3倍
一般選抜 II 期	3名	2名	2名	1.0倍

iii. 専攻科 入学者の選抜

	学内推薦選抜	一般選抜・社会人選抜
募集人員	6名	14名（社会人選抜4名程度を含む）
試験日	令和4年11月27日 9:30～	令和5年1月8日 9:30～
試験会場	埼玉医科大学短期大学	
出願期間	令和4年11月8日～11月24日	令和4年12月12日～令和5年1月6日
試験科目	書類選考	科目等 時間
		小論文 9:30～10:30
		学力試験 11:00～12:00
		面接 13:15～17:00頃
合格発表	令和4年12月1日	令和5年1月12日 10時
	埼玉医科大学短期大学校舎前 及び本学ホームページ(http://www.saitama-med.ac.jp/tandai/)に掲載	
入学手続期間	令和4年12月2日～12月9日	令和5年1月13日～1月27日
一般選抜・社会人選抜：入学者選抜は、小論文・学力試験（専門基礎分野・専門分野）・面接による総合的選抜を行う		
出願資格（令和5年度入学者）		
＜学内推薦選抜＞ 埼玉医科大学短期大学 看護学科 を2023年3月卒業見込みの者		
＜一般選抜＞		
1. 大学・短期大学の看護に関する学科を卒業した者、または2023年3月卒業見込みの者		
2. 看護に関する養成所を卒業した者、または2023年3月卒業見込みの者		
3. 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者で、その最終の課程において看護に関する課程を修了した者、または2023年3月までに修了見込みの者		
＜社会人選抜＞		
1. 埼玉県内の産婦人科を標榜する病院、または産婦人科の診療所に常勤職員で1年以上勤務し施設長の推薦を受けた看護師で、合格した場合入学を確約できる者		
2. 修了後は、推薦を受けた施設長の産婦人科を標榜する病院、または産婦人科の診療所に勤務できる者		

iv. 専攻科 入学者の選抜結果

	志願者	受験者(A)	合格者(B)	競争率(A/B)
学内推薦選抜	6名	6名	6名	1.0倍
一般選抜/社会人選抜	46名	44名	14名	3.1倍

③学生定員充足状況

i. 学生数（留年生を含む；括弧内は定員充足率）：令和4年5月1日現在

	1年生	2年生	3年生	計
看護学科	94(94%)	101(101%)	108(108%)	303(101%)
専攻科 母子看護学専攻	21(105%)	—	—	21(105%)

ii. 男女比：令和4年5月1日現在

		1年生	2年生	3年生	計
看護学科	男	4(4.3%)	4(4.0%)	4(3.7%)	12(4.0%)
	女	90(95.7%)	97(96.0%)	104(96.3%)	291(96.0%)
専攻科 母子看護学専攻	女	21(105%)	—	—	21(105%)

iii. 学生出身地一覧（令和4年度）

令和4年5月1日現在

都道府県名	看護学科				専攻科母子看護学専攻 (出身養成所)	合計
	1年生	2年生	3年生	小計		
北海道			1	1	1	2
青森		2		2		2
岩手	1	1	1	3		6
宮城	1		2	3	1	3
秋田						
山形		2	1	3		4
福島	2		1	3		3
茨城		3		3		3
栃木	2	4	2	8		9
群馬	2	2	4	8	1	10
埼玉	67	57	67	191	12	194
千葉	1		1	2		2
東京	9	11	10	30	1	34
神奈川		1	1	2		2
新潟	1	2	5	8	1	9
富山	1	1		2		2
石川						
福井						
山梨	2		1	3		5
長野	2	7	4	13	2	14
岐阜						
静岡	2	5	1	8	1	8
愛知			2	2		2
三重			1	1		1
滋賀						
京都						
大阪					1	1
兵庫						
奈良						
和歌山						
鳥取						
島根						
岡山		1		1		1
広島			2	2		2
山口	1			1		1
徳島						
香川						
愛媛						
高知						
福岡						1
佐賀						
長崎		1		1		1
熊本						
大分						
宮崎						
鹿児島			1	1		1
沖縄		1		1		1
その他						
合計	94	101	108	303	21	324

④これまでの受け入れ状況

看護学科

i. 志願者：()は男子内数（令和3～令和5年）

	募集(A)	推薦入学	一般入試	志願者計(B)	倍率(B/A)
令和3年度	100名	89(3)名	61(4)名	150(7)名	1.5倍
令和4年度	100名	72(4)名	36(1)名	108(5)名	1.1倍
令和5年度	100名	86(7)名	28(5)名	114(12)名	1.1倍

ii. 推薦入学の結果（令和3年～令和4年）

	募集	志願者	受験者(A)	合格者(B)	入学者	倍率(A/B)
令和3年度	70名	89名	89名	80名	80名	1.1倍
令和4年度	70名	72名	72名	72名	72名	1.0倍

推薦入学の結果（令和5年）

	募集	志願者	受験者(A)	合格者(B)	補欠入学者	入学者	倍率
令和5年度	80名	86名	85名	84名	0名	84名	1.0倍
A日程	70名	78名	77名	76名	0名	76名	1.0倍
B日程	10名	8名	8名	8名	0名	8名	1.0倍

iii. 一般入学試験の結果（令和3年～令和5年）

	募集	志願者	受験者(A)	合格者(B)	補欠入学者	入学者	倍率
令和3年度		61名	56名	37名	2名	22名	1.5倍
I期	28名	49名	47名	35名	2名	21名	1.3倍
II期	若干名	12名	9名	2名	0名	1名	4.5倍
令和4年度		36名	34名	31名	0名	22名	1.1倍
I期	28名	31名	31名	29名	0名	29名	1.1倍
II期	若干名	5名	3名	3名	0名	2名	1.1倍
令和5年度		28名	27名	22名	0名	14名	1.2倍
I期	18名	25名	25名	20名	0名	14名	1.3倍
II期	若干名	3名	2名	2名	0名	0名	1.0倍

専攻科母子看護学専攻

i. 志願者：(令和3年～令和5年)

	募集	学内推薦	一般選抜・社会人選抜
令和3年度	20名	5名	29名
令和4年度	20名	6名	52名
令和5年度	20名	6名	46名

ii. 学内推薦の結果（令和3年～令和5年）

	募集	合格者	入学者
令和3年度	6名	5名	5名
令和4年度	6名	6名	6名
令和5年度	6名	6名	6名

iii. 一般選抜・社会人選抜の結果（令和3年～令和5年）

	募集	志願者	受験者(A)	合格者(B)	補欠	入学者	倍率(A/B)
令和3年度	15名	29名	29名	15名	1名	15名	1.9倍
令和4年度	14名	52名	52名	14名	0名	14名	3.7倍
令和5年度	14名	46名	44名	14名	0名	14名	3.1倍

2. 自己点検・評価の組織と活動

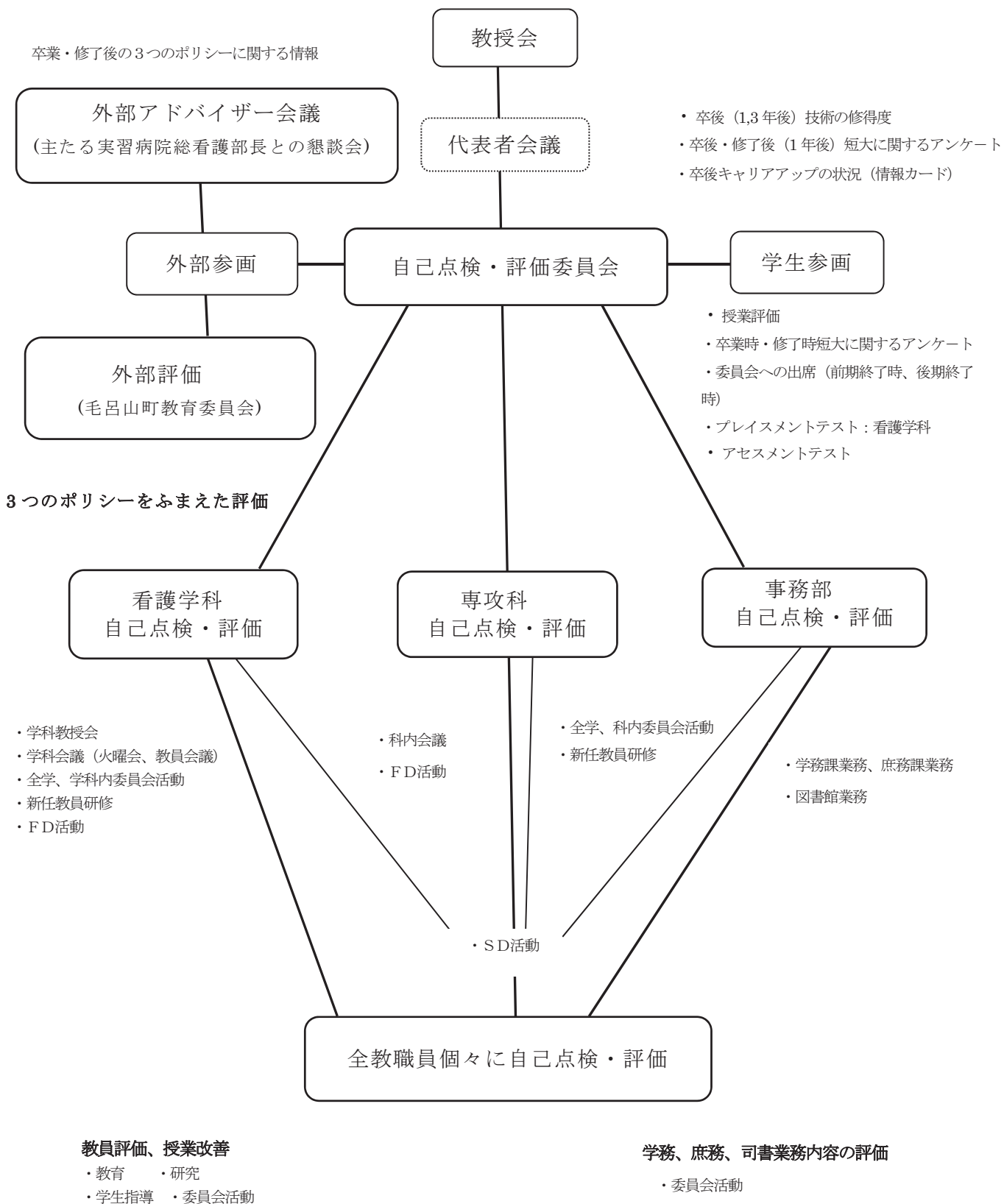
1) 自己点検・評価委員会(担当者・構成員)

①令和4年度自己点検・評価委員

丸木 清之 (学長)
 久保 かほる (副学長・委員長)
 小室 秀樹 (短大事務部顧問)
 内田 和利 (学校群統括部長)
 相田 香 (事務部長)
 霜田 敏子 (看護学科長)
 稲井 洋子 (専攻科長)
 今野 葉月 (SD活動企画代表)
 鈴木 夕岐子 (看護学科)
 持田 奈穂美 (看護学科)
 島田 典明 (学務課)
 佐藤 真 (庶務課)

2) 自己点検・評価の組織図

① 本学における自己点検・評価体制



3) 組織が機能していることの記述

当該短期大学では平成5年に教育・研究の向上を図るために、自己点検・評価委員会を置き、毎年発行する自己点検・評価報告書を作成してきた。通常はこの委員会が毎年の自己点検・評価を実施している。一般社団法人大学・短期大学基準協会が実施する自己点検・評価を受審する際は評価の趣旨を理解し、資料などの準備を行うため受審2年前から準備委員会を設置し取り組んでいる。認証評価は7年に1回の受審が義務化されている。当該短期大学は平成17年度に第1回、平成24年度に第2回、令和元年度に第3回の受審を受け、それぞれ適格と判定されている。

4) 自己点検・評価報告書完成までの活動記録

令和4年度自己点検・評価活動の詳細は本誌33～38ページの通りである。

I 建学の精神と教育の効果

1. 建学の精神

1) 建学の精神の確立

(1) 建学の精神

- 一、 真に求められる、人間性、技術共に優れた医療技術者の育成
- 二、 自ら学び、努め、以て病める者への労りと奉仕心の育成
- 三、 師弟同行の学風の育成

(2) 目的

本学は、教育基本法及び学校教育法に従い、医療技術に関する高度の理論と技能を教授研究し、あわせて豊かな教養と人格を備えて、ひろく国民の保健医療の向上に寄与することのできる医療技術者を育成することを目的とする。

設立の趣旨

現代社会の目ざましい進歩発展は、医学の分野にも著しい進歩をもたらした。医療の内容もますます高度化し、複雑化し、かつ専門分化し、医療技術者が医療チームの一員として、医師と共に果たす役割は一段と重要性を増している。より高度な専門知識と技術、そして人類愛に燃える豊かな人間性を備えた医療技術者が切実に求められている。また単に知識や技術のみでなく、人間に対する深い洞察力を発揮し得る資質の高い人材も強く求められる。

そこで、本法人において、既設の看護専門学校、医学技術専門学校ならびに本法人設立の母体である、社会福祉法人毛呂病院が設立する埼玉リハビリテーション専門学校の三専門学校を母体として、「看護学科、臨床検査学科、理学療法学科」の三学科を置き『埼玉医科大学短期大学』を開設した。その後、専攻科を設置し、地域看護学専攻、母子看護学専攻を開設した。保健医療学部の開設に伴い、臨床検査学科と理学療法学科、専攻科地域看護学専攻は閉学科・閉攻となった。

(3) 本学の三つの方針・学修成果

i. ディプロマポリシー（卒業・修了認定・学位授与の方針）

本学は「人間性、技術共に優れた医療技術者の育成」、「自ら学び、努め、以て病める者への労りと奉仕心の育成」、「師弟同行の学風の育成」という建学の精神のもと、医療技術に関する高度の理論と技術を教授研究し、豊かな教養と人格を備えて、国民の保健医療の向上に寄与することのできる医療技術者を育成することを目的として教育課程を編成している。このカリキュラムを履修し医療技術者として必要な次の「知識・技能」、「思考・判断力・表現力」、「主体性・協働性」を身につけた学生には卒業・修了を認定し、看護学科は短期大学士（看護学）の学位を授与する。

学修成果

【知識・技能】

1. 人間を総合的に理解できる
2. 科学的な知識・技術を身につける

【思考力・判断力・表現力】

1. 知識・技術・態度を統合して看護が実践できる

【主体性・協働性】

1. 高い倫理観をもって看護者として自己成長できる
2. 社会の変化に対して適応できる
3. 自己の責任を自覚し、問題解決のために積極的にさまざまな立場の人と協働できる

ii. カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

豊かな教養と看護の専門的知識を身につけ、地域の保健医療に貢献できるよう、教養教育の充実、双方向型教育、早期からの臨地実習、臨床指導教員の配置などきめ細かな学習支援を心がけた教育を実施している。

iii. アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

看護の対象となる人々の信頼を得られる看護師・助産師の育成を目的としているため、専門的な知識・技術と同時に高い倫理観や人の痛みがわかるような人間愛を兼ね備えた医療人を目指す学生の入学を希望している。

2) 高等教育機関として地域・社会への貢献

(1) ボランティア活動

Plan

東日本大震災に対して、もしくは同規模の災害の発生に対して、被災地に向け短期大学看護学科として支援する目的で平成 23 年度に結成した。今年度も情報収集と必要な支援を行う。さらに、SDGs を意識して、リデュース・リユース・リサイクル活動も行う。

Do

- ①支援活動を目的に情報収集を行った結果、今年度はアメリカで心臓移植を受けるための資金として「あおちゃんを救う会」に短期大学教職員の有志で募金 67,000 円を寄付した。
- ②リデュース・リユース・リサイクル活動として、下記のことを実施した。
 - i. 今年度は 4 月・10 月の 2 回、6 階ロビーに文房具や衛生用品を設置した。衛生用品など必要なものを学生が持参している様子であったが、文房具などその他の用品は徐々に残るものが多くなった。残ったものの一部を買取業者に持参して得た買取金を、ボランティアチームの支援金とした。

- ii. 今年度はペットボトルキャップの寄付は実施しなかった。
- iii. 教職員と学生の忘れ物から古本(教科書など)を回収し、「ありがとうブック」を通して 4,612 円を「The Egg Tree House」というグリーンケアに携わる活動をしている団体に寄付した。

Check

- ①災害以外の情報も収集することで、支援活動として寄付することができたため、今後も情報収集を継続する必要がある。
- ②6階ロビーの文房具等の設置については、教員からのリサイクル品のみでは学生が求めているものと違ってきている。学生からは「ユニフォーム」や「教科書」のリユースの要望があるため、リデュース・リユース・リサイクル活動の内容を見直し、学生の活動参加も検討する。
- ③ペットボトルキャップの回収は今年度実施しなかったが、寄付できる量を収集でき次第、継続していく。
- ④古本だけでなく使用しなくなったゲームや DVD も回収可能であるため、学生の参加を検討する。今年度利用した業者「ありがとうブック」については、他の団体を検討する。

Action

- ①支援活動を目的に、東日本大震災をはじめとする災害に見舞われた人（地域）や支援が必要な人のニーズを把握する情報を継続して収集し、必要時対応する。
- ②SDGs の理念を意識した活動であることを教職員や学生に周知し、学生とともに活動できる内容を検討する。
- ③ペットボトルキャップの回収と寄付を継続する。業者を検討した上で、古本・ゲーム・DVD の回収と寄付を継続する。

(2) 高校生「学び」「夢」プラン

Plan

高校生「学び」「夢」プランは、高校生が将来の学校や学部選択の参考にし、将来の生き方や職業を考える機会となることをねらいとし、2014年(平成26年)の埼玉県民の日(11月14日)に第1回目を開始した。2019年度(令和元年度)までに6回実施してきたが、2020年度(令和2年度)は、新型コロナウイルス感染症の影響から中止となった。2021年度(令和3年度)は、主催者側の指定日ではなく、受け入れ側の大学・短期大学の設定日(9月～11月)に実施することになったため、本学も趣旨に賛同し参加することにしたが、参加申し込みはなかった。2022年度(令和4年度)も短期大学の設定日で実施可能であったため、10月に1年次の「看護倫理」と2年次の「小児看護Ⅱ」を受講できるように計画した。

Do

上記、計画を各加盟高等学校へ配信したが、期日までに参加申し込みはなかった。

Check

学校や学部に関する情報は、オープンキャンパス、パンフレット、インターネット上のホームページ等で容易に得られるようになっているが、大学・短期大学で普段行われている授業を在学生とともに受講し学習する機会は多くない。本学は看護系の短期大学であるため、専門科目である看護学の講義や技術習得の演習等を体験し職業選択の参考にして欲しいが、授業設定日が高校の授業と重なることから、参加が難しいのではないかと考える。

Action

高校生の希望があれば、本学のカリキュラム上可能である限り主催者の企画のねらいを達成できるように、準備をしていく。

(3) 公開講座

Plan

- ①看護学科カリキュラム委員会企画として、短期大学の特性を活かし、地域貢献を目的とした公開講座を実施する（表1）。
- ②公開講座「第一印象が未来を変える」
受験を控えた高校生を対象に、オンラインで公開講座の動画配信を行う。

Do

表1. 令和4年度公開講座

テーマ	第一印象が未来を変える
対象	受験を控えた高校生
日時	令和4年11月7日（月）～12月11日（日）
方法	オンラインでの動画配信（参加者に限定公開）
講師	成人看護学 鈴木夕岐子
担当領域	成人看護学領域

- ①広報活動として情報を、本学のホームページに掲載し参加者を募集した。
- ②公開講座の参加を希望した高校生に、動画を公開した。
- ③公開講座の参加者に、アンケートの協力を依頼した。

Check

- ①公開講座参加人数：29名（内訳・高校3年生：23名 高校2年生：3名 高校1年生：3名）
- ②アンケート集計結果：回収数17枚（回収率57%）
 - i. 公開講座を知ったきっかけ
本学のホームページをみた 14名（82.4%）
他者（両親、学校の先生、友人等）からの情報で知った 3名（17.6%）
 - ii. 公開講座を視聴した理由
受験に役立つと思った 14名（82.4%）
興味を持った 2名（11.8%）
印象をよくするため 1名（5.9%）

iii. 公開講座の内容について（満足度）

満足 16名（94.1%） まあまあ満足 1名（5.9%）

iv. 公開講座の内容について（難易度）

少し簡単 10名（58.8%） 簡単 5名（29.4%） 少し難しい 2名（11.8%）

v. 公開講座を視聴した感想

公開講座は自分のためになった 6名（35.3%）

笑顔で対応をすることをこころがけようと思った 4名（23.5%）

好印象を与える方法が分かった 4名（23.5%）

その他 3名（17.6%）

Action

新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮し、対面ではなくオンラインによる動画配信で公開講座の実施をした。アンケートの結果より、参加者の多くが公開講座の情報をホームページより得ていることが分かった。そのため、広報活動としてホームページによる情報発信の時期等を検討していく必要がある。参加者の満足度は高く公開講座の目的は果たせたと思われる。次年度は、講座の開催方法を対面で行えるように準備を行いつつ、状況に応じてオンラインを使用しても実施ができるように検討する。

(4) 高大連携事業

Plan

- ①高校生に対して、看護に関する学習の機会を設け、大学及び看護への関心を高めることを目的とし、協定を結んでいる3校を対象校に高大連携事業を計画する。
- ②高等学校と短期大学の教職員間で、学習者の学力の三要素（1. 十分な知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力等の能力、3. 主体性を持って協働して学ぶ態度）を身につけ、さらに向上・発展させて社会人として成長できるようにすることを目的とし、教育上の情報交換を計画する。

Do

- ①高校生対象の事業は、新型コロナウイルス感染防止のため、実施を見送った。
- ②高等学校と短期大学の教職員間における情報交換は、2022年6月8日(水)～9日(木)に、協定を結んでいる高等学校(坂戸西高等学校、埼玉平成高等学校、武蔵越生高等学校)へ事務部長が訪問し行った。今年度、担当者が変更となった高等学校に対しては、高大連携事業の概要について説明し質問にも答えた。3校共に医療看護系を目指す生徒に対応できるように、高等学校と短期大学の教職員間で教育上の情報交換を行う必要があると確認しあった。

Check

- ①新型コロナウイルス感染防止対策の為、高校生対象の事業の実施を見送ったことは適切だったと考える。

②高等学校へ短期大学の事務部長が訪問する事で情報交換が行えた。

Action

①高校生対象の事業は。コロナ禍における開催を目指して企画する。

②高等学校と短期大学の教職員間における情報交換も、コロナ禍においても継続できる様に計画する。

(5) 正課授業の開放

Plan

①地域貢献の一つとして、看護学科の授業に参加する機会をつくる。また、主に高校生を対象に本学の授業の雰囲気や大学の授業を体験してもらうことで看護に興味関心を寄せていただくことを目的とする。

②開講時期は前期 5 月下旬～7 月下旬、後期 10 月上旬～11 月下旬とする。

③2022 年度は来校対面授業を基本とする。コロナ感染状況をみてオンライン授業への変更を検討する。

④看護学科カリキュラム委員が企画し、事務部の協力を得て短大事業として取り組む。

⑤受講者募集と取りまとめ、参加者の当日の体調確認と教室への案内は事務部が実施する。授業担当者は授業実施後、参加者アンケートを回収する。カリキュラム委員がアンケート結果を集計する。

Do

①年間の授業開放予定回数は前期 29、後期 32 の総計 61 授業で全て対面授業であった。参加者数は前期 2 名、後期 13 名であった（表 2）。

②参加者アンケートの結果、参加のしやすさ、分かりやすさ、達成感、コロナ対策等について、ほぼ全員が総合的にとても良かったと回答していた(前期 2 名、後期 11 名回答)。

表 2. 正課授業参加者数

	前期	後期
	参加者数	参加者数
基礎看護学	1	1
成人看護学	0	5
老年看護学	0	2
小児看護学	0	0
母性看護学	1	1
精神看護学	0	1
在宅看護学	0	1
災害救急看護		2

Check

①年間の授業開放予定回数が昨年度より 28 回増加し参加の機会が広がった。

②前期参加者は昨年度より 12 名減少し、後期は 2 名増加した。高校 3 年生の前期は授業や補習講義などで過密になりやすく参加の機会を得にくいと考える。来校対面授業によって本学の雰囲気を感じたり看護の学習に興味をもつ機会になったと考える。

Action

次年度もコロナ感染対策のもと授業開放の機会を多く持てるようにする。申し込み時の情報に参加高校生の学年を記載してもらうことを追加する。

2. 教育の効果

- 1) 教育の目的・目標の確立
- 2) 学習成果の策定
- 3) 三つの方針の一体的な策定と公表
- 4) 教育の効果の課題

上記の 1)～4) について看護学科・専攻科別に述べる。

看護学科

Plan

- 1) 建学の精神を基盤として看護学科の教育理念・教育目的・教育目標を設定しており、今年度もこれらを学内外へ明確に表明する。看護学科の教育理念、教育目的、教育目標は次の通りである。

教育理念

看護学科の教育は、優れた看護専門職業人の育成を目指している。看護専門職には生命に対する深い畏敬の念とそれに基づく確かな看護観、教養ある社会人としての豊かな人間性と良識を持って社会に貢献する姿勢が望まれる。また、科学技術や医療の著しい伸展に対応しうる、絶え間ない努力が求められている。すなわち、看護の学問的研究を推進する能力、新しい知識と技術に裏づけられた看護実践能力が求められる。

さらに本学は、高度医療機関であり、地域医療の中核的役割を担っている埼玉医科大学病院に併設しているため、学んだ成果を地域に還元することを自らの社会的役割として自覚できる人材を育成しなければならない。以上の観点から、教育目的・目標を以下のように設定している、

教育目的

看護専門職として、看護に関する専門的知識と技術の教育研究活動を通じ、生命に対する深い畏敬の念とそれに基づく確かな看護観を持ち、また、教養ある社会人として、豊かな人間性と、また、良識をもって積極的に社会に貢献できる看護師を養成する。

教育目標

- a. 幅広く豊かな教養を身につけた社会人になる。

豊かな感受性と幅広い教養を身につけるだけでなく、科学的に問題を解決する能力を持つことや、倫理的判断能力があること、自らの社会的役割を認識して自主的に行動し、社会的責任を担う能力を持つことが含まれる。

b.社会の変化に対応しつつ、生涯に亘って社会に貢献できる看護の専門職業人になる。

看護を実践するための専門的な知識や技術を修得することはもちろんのこと、社会における医療や看護の役割を認識し、その責任を果たす能力を身につけることが含まれる。また、看護の専門職業人として研究的態度を培い、看護の発展に寄与するため生涯に亘って学習を継続していく姿勢を身につけることを意味する。

c.看護の専門家として地域の医療水準の向上に貢献できる人となる。

本学の社会的役割は優秀な人材の育成によって、地域の医療水準の向上に貢献することである。この理念に沿って、地域の医療に関心と情熱をもって対処する姿勢と実践能力を身につけることを意味する。

2) 教育理念・教育目的・目標をもとに看護学科の三つの方針(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)に基づいて教育を実行する。

Do

1) 学生に対しては、学生便覧や教室、掲示板にこれらを明示し、入学時及び新年度時にオリエンテーションを行い教育目標と各授業科目との関連を説明している。教員に対しては様々な会議で定期的に教育目的・目標を確認した。FD活動での新カリキュラム学習会等や新任教員に対しては、新任教員研修に組み入れて周知できるようにした。学外に向けてはWEBページ上やパンフレットへの掲載を行った。

2) 三つの方針

A. ディプロマポリシー (学位授与の方針・卒業認定の方針)

【令和4年度入学生より適用のカリキュラム】

看護学科の課程を修め、授業科目区分ごとの所定の単位105単位以上の単位を修得したうえで、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」〔学修成果(1)～(7)表3〕を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

表3. [学修成果]

知識・技能	(1) 人間を総合的に理解できる。
	(2) 科学的な思考ができる。
思考力・判断力・表現力	(3) 専門的な知識・技術・態度を統合して看護実践できる。
主体性・協働性	(4) 高い倫理観をもち、他者の尊厳と権利を擁護できる。
	(5) 看護者として自己成長できる。
	(6) 社会の変化に対応できる。
	(7) 保健医療福祉チームの一員として自分の役割を認識し、協働できる。

【令和3年度入学生まで適用のカリキュラム】

看護学科の課程を修め、授業科目区分ごとの所定の単位101単位以上の単位を修得したうえで、下記のような知識・技術・態度を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

〔学修成果〕

(1)社会の変化に対応できる能力

- ①社会情勢の変化に関心を持つ。 ②社会の変化に対応する。

(2)人間を総合的に理解できる能力

- ①他者を尊重し共感的に理解する。 ②人間を多角的な視点で理解する。

(3)科学的な思考ができる能力

- ①論理的に思考する。 ②物事を系統的に考える。

(4)専門的な知識・技術・態度を統合して看護実践できる能力

- ①専門的知識を活用し、健康状態をアセスメントする。
- ②あらゆる健康レベルに対応した看護を計画・実施・評価する。
- ③高い倫理観をもち、他者の尊厳と権利を擁護する。

(5)保健医療福祉チームメンバーとして地域に貢献する能力

- ①継続看護（支援）の重要性を理解する。
- ②保健医療福祉チームの一員としての役割を自覚し遂行する。
- ③地域の医療水準の向上に貢献する。

(6)看護者として自己成長ができる基盤を身につける能力

- ①自分自身を客観視する。
- ②主体的に行動し、建設的な人間関係を構築する。
- ③自分が置かれている立場・役割を認識し行動する（リーダーシップ・メンバーシップ）。
- ④継続的に学習し、新しい知見を得る。

B. カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

【令和4年度入学生より適用のカリキュラム】

ディプロマポリシーに示した学修成果を、学生が修得できるように以下の教育内容と教育方法を取り入れた授業を実施し、学修成果の評価を行う。教育内容については、カリキュラムマップに示し、順次性に配慮し体系的かつ効果的に教育課程を編成する。

(1)教育内容

- ①3年間で105単位以上を履修する。
- ②学修成果を獲得するための内容は、カリキュラムマップの通りである。
- ③看護専門職の責任を自覚し、自ら学ぶ力を高めるために早期から臨地実習を設定する。

(2)教育方法

- ①講義・演習は、学生の主体的な学びを促進するために、双方向型教育を実践する。
- ②参加型授業形態の工夫として、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。
- ③臨地実習は、実践の機会を多く持てるように、指導教員および臨地実習指導者が連携する。
- ④シラバスに、卒業認定・学位授与の方針に基づく学習の到達目標、授業内容、評価方法、予習・復習の内容と学習時間の目安を具体的に記載する。
- ⑤授業評価アンケートを実施し、授業内容や教授方法の改善、組織全体として授業が円滑に運営されているかを検証する。

(3)学修成果の評価

- ①授業科目の到達目標に応じて到達基準を明確化し、その到達状況を適切に評価する。
- ②授業科目の学修成果は、授業内容に応じて筆記試験、レポート、実技試験、学習態度などを総合して評価する。
- ③学修成果はフィードバックを行い、学生が自身の学修成果と課題を把握できるようにする。
- ④GPA を用いてフィードバックを行い、学生が自身の学修成果を把握できるようにする。
- ⑤毎年、アセスメントテスト、学修成果ルーブリック評価表（表4）を用いた自己評価を実施し、学生・教員の双方が学修成果を確認する。

表 4. 学修成果のルーブリック評価表

評価 観点	看護学科 学修成果	評価基準		
		Level I	Level II	Level III
知識・ 技能	1. 人間を総合的に理解できる	<input type="checkbox"/> 人間は身体的・精神的・社会的側面を統合した生活者であることを理解している	<input type="checkbox"/> 対象のさまざまな側面を統合し、生活者としてとらえている	<input type="checkbox"/> さまざまな立場から総合的に対象をとらえ、生活者を理解している
	2. 科学的な思考ができる	<input type="checkbox"/> 科学的根拠の基盤となる専門的な知識・技術の活用方法を理解している	<input type="checkbox"/> 科学的根拠の基盤となる専門的な知識・技術を活用し課題を見出している	<input type="checkbox"/> 科学的根拠の基盤となる専門的な知識・技術を活用し課題を解決している
思考力・ 判断 力・表現 力	3. 専門的知識・技術・態度を統合して看護実践できる	<input type="checkbox"/> 専門的知識・技術・態度を統合し対象の健康レベルに応じた看護を実践する方法を理解している	<input type="checkbox"/> 専門的知識・技術・態度を統合し対象の健康レベルに応じた看護を実践している	<input type="checkbox"/> 専門的知識・技術・態度を統合し対象の健康レベルと個別性に応じた看護を実践している
主体性・ 協働性	4. 高い倫理観をもち他者の尊厳と権利を擁護できる	<input type="checkbox"/> 看護者として倫理観をもって行動しようと努めている	<input type="checkbox"/> 看護者として倫理観をもって行動している	<input type="checkbox"/> あらゆる場面において常に倫理観をもち、他者の尊厳と権利を擁護している
	5. 看護者として自己成長できる	<input type="checkbox"/> 自分の立場や役割を自覚し計画的に学習している	<input type="checkbox"/> 自分の課題を見出し成長する努力をしている	<input type="checkbox"/> 探求心をもって継続的に学習している
	6. 社会の変化に対応できる	<input type="checkbox"/> 社会の出来事に関心をもっている	<input type="checkbox"/> 社会の変化に関心をもち、看護師の役割を提案している	<input type="checkbox"/> 社会の変化を的確にとらえ、行動している
	7. 保健医療福祉チームの一員として自分の役割を認識し、協働できる	<input type="checkbox"/> 地域に貢献する必要性を理解している	<input type="checkbox"/> 保健医療福祉チームの一員として自分の役割を自覚し、行動している	<input type="checkbox"/> 保健医療福祉チームの一員として多職種（他者）と協働している

【令和3年度入学生まで適用のカリキュラム】

ディプロマポリシーに示す学修成果を学生が修得できるように以下の教育内容と教育方法を取り入れた授業を実施し、学修成果の評価を行う。教育内容については、科目構造図と科目進度表に示し、順次性に配慮し体系的かつ効果的に教育課程を編成する。

教育内容

- (1)3年間で101単位以上を履修する。
- (2)指定規則と本学の教育内容の対比は、表1の通りである。
- (3)ディプロマポリシーを修得するための教育内容は、表2の通りである。
- (4)看護専門職の責任を自覚し、自ら学ぶ力を高めるために早期から臨地実習を設定する。

C. アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

(1)ディプロマポリシーに定める「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」の修得を目指し、カリキュラムポリシーに定める教育を受けるための条件として、下記の基礎学力を身につけるための科目を履修していることが望ましい。

①「読む・書く」能力および「論理的思考」能力を必要とする基礎学力

科目：国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ等

②科学的判断・問題解決能力を高める基礎学力

科目：数学Ⅰ・数学A、化学基礎、生物基礎等

③人間・健康・生活・社会(環境)への関心を高める基礎学力

科目：現代社会等

④倫理観を高める基礎学力

科目：倫理等

(2)保健医療福祉の分野で活躍、貢献したいという目的意識をもっている。

(3)豊かな感性、表現力、他者との協調性やコミュニケーション能力を身につけるために、下記のような活動をしていることが望ましい。

①課題への積極的・主体的な取り組み(総合的な学習時間等)

②生徒会活動や部活動

③ボランティア活動

Check

(1)卒業生を対象に実施している当短期大学に関するアンケート結果では、全ての項目の平均が中央値以上ということから教育理念・目的・目標は周知できた。

(2)教員は常に意識しながら教育活動及び委員会活動等を行った。

Action

- (1)看護学科の教育理念や教育目的、教育目標を今後も学内外へ表明することを継続する。
- (2)情報化社会や少子高齢社会、また疾病構造の変化や大災害の発生等に伴い、今日の医療・看護に対する国民のニーズが変化してきているので、時代の変化を見据えながら常に点検、見直しをする。
- (3)看護大学が年々増加し短期大学が激減している現状において、短期大学における教育の特色を出すために、教育内容をさらに精選し、教育方法を工夫しながら質の向上に努める。
- (4)県内の医療・福祉及び医療教育の中核的役割を担う埼玉医科大学病院に併設されている利点を最大限に生かし、病院看護部と協同して学生の教育はもとより地域の医療水準の向上に貢献できるように、卒業生の卒後教育、公開講座等を行う。

専攻科 母子看護学専攻

Plan

短期大学の建学の精神を基に専攻科の教育理念を設定しており、今年度も本学専攻を希望する学生と専攻科生へ明確な教育方針を周知する。下記に専攻科の教育理念を示す。

教育理念

埼玉医科大学短期大学の教育の基本姿勢は、一般社会人としての幅広く豊かな教養と良識を持ち、生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持って、積極的に社会に貢献できる人材を育成することである。母子看護学専攻の教育は医療全般にわたる広範な視野と高い見識を持ち、急速かつ多様に変化しつつある社会状況を的確にとらえ、対象者および家族・地域に対して母子看護専門職としての社会的役割を担う人材を育成することである。さらに、本学は、高度周産期医療機関であり地域医療の中核的役割を担っている埼玉医科大学病院に併設しているため、高い専門性を活かし専門的指導的役割を果たせる人材を育成しなければならない。

Do

学外に対してはホームページへ掲載、パンフレットへの掲載及びオープンキャンパス時に入学を希望する学生と保護者へ説明を行った。専攻科生へは、入学オリエンテーション時と助産学実習開始前に再度説明を行った。その際、助産師の職業アイデンティティとの関連も深いことから、助産師の役割や責務を自覚し、助産師であるということの認識と誇りを持つことも加えて説明した。さらに、近年の周産期医療の変化に伴い、基礎的知識に加え高度周産期医療に対応できる能力として最新の知識と技術さらに周産期医療チームの一員として様々な職種と連携を図り協働できることが求められている旨を強調し説明を行った。

Check

学外への周知については、オープンキャンパスの参加者アンケートや入学選抜の受験者アンケートによると、本学専攻科を知ったのはホームページからであるとの回答が多く、周知効果は高い。今後もインターネットを活用した大学情報の収集機会は多くなることが予測される。また、オープンキャンパス時の Zoom 相談会でも専門的指導的役割を果たせる人材育成への関心は高かった。

専攻科生に対しては、入学時と実習開始時に教育方針を説明した。繰り返し説明する機会を設けたことで、本学で助産師になるために学ぶべき方向性を学生と教員双方で確認し合うことができた。結果、学生は 1 年間モチベーションを維持して計画的に学習課題に取り組むことができ、助産師になろうとした根本的な自己目標を再確認することにも繋がったと考える。

Action

今後も、学内外へ教育方針を周知するとともに、助産師教育の動向を捉えつつ、高い専門性を身につけ、地域貢献できる人材の育成をしていることを周知したい。

短期大学の建学の精神、専攻科の教育理念を基に教育目的・教育目標を設定しており、2020 年より【三つの方針】として下記のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを示している。下記に専攻科の教育目的と教育目標と【三つの方針】を示す。

教育目的

看護基礎教育を基盤として、母子看護学に関する教育研究活動を通し、専門的知識と技術を深く身に付け、社会に貢献できる助産師を養成する。

教育目標

- a. 広範な視野と高い見識を持った社会人になる。
- b. 多様に変化する社会状況及び価値観を的確にとらえ、高い専門性と指導的役割を担い生涯に亘って社会に貢献できる母子看護専門職業人になる。
- c. 母子看護専門職として、周産期医療の水準・向上に貢献できる人となる。

A. ディプロマポリシー（修了認定・修了証書授与の方針）

専攻科の課程を修め、授業科目区分ごとの所定の単位を修得し、且つ修了要件の 32 単位以上を修得したのものには、全ての女性及び周産期にある母子とその家族に対して健康を支援し、地域母子医療・保健の向上に寄与できる助産師に相応したことを認め、修了を認定する。

[学修成果]

1. 広範な視野と高い見識を培う能力
 - (1)生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持つ。
 - (2)倫理観を持った行動ができる。
 - (3)社会情勢の変化を的確にとらえる。
2. 高い専門性を持った実践能力を培う能力
 - (1)女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援する。
 - (2)高度周産期医療に対応する知識を持つ。
 - (3)科学的思考を持ち総合的に判断する。
3. 地域の保健医療福祉水準の発展に貢献する姿勢を培う能力
 - (1)社会資源を活用し、保健医療福祉の向上に貢献する。
 - (2)保健医療福祉チームの一員として多職種と連携し協働できる。
4. 助産師としての専門的自立能力を培う能力
 - (1)生涯学習を行い自己研鑽する。
 - (2)課題意識を持ち研究を行い、成果を活用する。

B. カリキュラムポリシー（教育課程の実践方針）

女性と子どもの健康的な生活を支援するための基本理念と知識、周産期にある母子と家族のケアに必要な助産診断と実践のための基礎的能力を修得し、地域社会に貢献できる助産師を養成する教育課程を編成する。

1. 基礎助産学：女性と子どもの健康を支える基本理念と知識・技術を養う。
2. 助産診断技術学：助産学領域における専門的な実践能力を養う。
3. 地域母子保健：地域の特性を知り、助産師として多職種と協働できる能力・態度を養う。
4. 助産管理：助産管理者として必要な基礎的知識と能力を養う。
5. 助産学実習：知識を統合し、ウェルネスもしくは問題解決の視点で助産過程を展開できる能力を養う。

C. アドミッションポリシー（入学者の受け入れ方針）

1. 人間に対する関心を持ち、生命の尊厳を重視できる人
2. 責任感と倫理観を備え、社会性を兼ね備えた人
3. 生涯学習を行い自己研鑽することができる人
4. 看護師として、基礎学力を有している人
5. 協調性があり、高いコミュニケーション能力を備え、多職種連携に意欲を持つ人
6. 保健医療分野の指導的役割を担う意欲のある人

7. 課題意識を持って科学的に探究し保健・医療に貢献しようとする意欲のある人

Plan

1. 専攻科の教育目的と教育目標、〔三つの方針〕を明確に周知する。
2. 専攻科のディプロマポリシーと教育内容を点検し、学内外へ公表する。
3. ディプロマポリシーに示す学修成果のルーブリック評価表を作成し、学習評価の一助とする。

Do

1. 教育理念同様に、今年度も学外への周知としてホームページへの掲載を継続し、オープンキャンパス時にも説明の機会を持った。専攻科生へは、新カリキュラムでの運用となることから、ホームページやパンフレットを閲覧した時点と内容が異なることをふまえ、丁寧な説明を心がけた。
2. 2022年度（令和4年度）からの新カリキュラムに伴いディプロマポリシーと教育内容の点検を行い、学内外へホームページで公表した（表5）。また、専攻科生へは学生便覧とシラバスに示し周知した。
3. 専攻科のディプロマポリシーに示す学修成果のルーブリック評価表を作成（表6）し、教育効果の可視化と活用を促した。結果として修了直前に学生に自己評価したLevelを総括し、評価が分散している項目「女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援する」、「保健医療福祉チームの一員として多職種と連携し協働できる」、「課題意識を持ち研究を行い、成果を活用する」が明らかになった。コロナ禍で学習が思うようにできなかったことが影響したと考える。

Check

1. 専攻科の教育目的と教育目標、〔三つの方針〕の周知
本学専攻科の情報収集はインターネットの活用が多く、ホームページを活用した周知効果は高い。今後もインターネットを活用した方針の周知を行う。専攻科生へは、学習の節目となる入学時と実習開始時に教育方針を説明する機会を設けることに効果があったと考える。今後も教育方針を再認識する機会を持ち、学習を継続できるよう心がけたい。
2. ディプロマポリシーと教育内容を示したことで、各科目の繋がりと関連性を意識した学習となったと考える。
3. 専攻科のディプロマポリシーに示す学修成果のルーブリック評価表を用いて、修了時に振り返りを行うことができた。学生と教員の双方による評価方法や総括評価だけの活用とまらないよう評価時期の検討が課題となる。

表 5. 専攻科のディプロマポリシーと教育内容

学 修 成 果		教 育 内 容				
		基礎助産学	助産診断・技術学	域母子保健	助産管理	助産学実習
1. 広範な視野と高い見識を培う能力	(1)生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持つ。	○				○
	(2)倫理観を持った行動ができる。	○				○
	(3)社会情勢の変化を的確にとらえる。	○		○		○
2. 高い専門性を持った実践能力を培う能力	(1)女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援する。	○	○	○		○
	(2)高度周産期医療に対応する知識を持つ。	○	○			○
	(3)科学的思考を持ち総合的に判断する。	○	○			○
3. 地域の医療水準の発展に貢献する姿勢を培う能力	(1)社会資源を活用し、保健医療福祉の向上に貢献する。			○	○	○
	(2)保健医療福祉チームの一員として多職種と連携し協働できる。			○	○	○
4. 助産師としての専門的自立能力を培う能力	(1)生涯学習を行い自己研鑽する。	○	○			○
	(2)課題意識を持ち研究を行い、成果を活用する。	○	○			○

表 6. 専攻科 ディプロマポリシーに示す学修成果のルーブリック評価表

評価視点	専攻科 学修成果	評価基準		
		Level I	Level II	Level III
1. 広範な視野と高い見識を培う能力	(1)生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持つ。	<input type="checkbox"/> 助産師として、生命に対して敬意を払い、権利を尊重することを理解している	<input type="checkbox"/> 助産師として、生命に対して敬意を払い、権利を尊重した行動がとれている	<input type="checkbox"/> 助産師として、生命に対して敬意を払い、権利を尊重した行動について提案ができる
	(2)倫理観を持った行動ができる。	<input type="checkbox"/> 助産師として、性と生殖に対し、倫理観をもって行動しようと努めている	<input type="checkbox"/> 助産師として、助成および家族と関わる場面で倫理観をもって行動している	<input type="checkbox"/> 助産師として、あらゆる場面において、倫理観をもって行動している
	(3)社会情勢の変化を的確にとらえる。	<input type="checkbox"/> 変化する社会情勢を理解している	<input type="checkbox"/> 社会情勢の変化が助産活動へ与える影響を捉えている	<input type="checkbox"/> 社会情勢に応じた助産師活動を明確にしている
2. 高い専門性を持った実践能力を培う能力	(1)女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援する。	<input type="checkbox"/> 女性のライフサイクルに応じた健康支援の方法を理解している	<input type="checkbox"/> 女性のライフサイクルに応じた健康支援の方法を部分的に活用している	<input type="checkbox"/> 女性のライフサイクルに応じた健康支援について工夫して活用している
	(2)高度周産期医療に対応する知識を持つ。	<input type="checkbox"/> 高度周産期医療に対応する知識を理解している	<input type="checkbox"/> 高度周産期医療を受ける対象を捉えている	<input type="checkbox"/> 高度周産期医療に対するケアを探索している
	(3)科学的思考を持ち総合的に判断する。	<input type="checkbox"/> 助産師に必要な知識・技術の活用方法を理解している	<input type="checkbox"/> 助産師に必要な知識・技術を活用できる	<input type="checkbox"/> 助産師に必要な知識・技術をあらゆる場面で活用できる
3. 地域の医療水準の発展に貢献する姿勢を培う能力	(1)社会資源を活用し、保健医療福祉の向上に貢献する。	<input type="checkbox"/> 地域で活用できる社会資源を理解している	<input type="checkbox"/> 社会資源を部分的に活用している	<input type="checkbox"/> 社会資源を多角的に捉え活用している
	(2)保健医療福祉チームの一員として多職種と連携し協働できる。	<input type="checkbox"/> 他職種と連携する必要性を理解している	<input type="checkbox"/> 保健医療福祉チームの一員として、助産師の役割を自覚し行動している	<input type="checkbox"/> 保健医療福祉チームの一員として、他職種と協働している
4. 助産師としての専門的自立能力を培う能力	(1)生涯学習を行い自己研鑽する。	<input type="checkbox"/> 助産師として専門的自立能力を維持する必要性を理解している	<input type="checkbox"/> 助産師としての課題を見だし、成長する努力をしている	<input type="checkbox"/> 助産師として課題をもち、継続的に学習している
	(2)課題意識を持ち研究を行い、成果を活用する。	<input type="checkbox"/> 助産師活動の質を補償するために研究する必要性を理解している	<input type="checkbox"/> 自ら行った助産師活動を研究的に検証できる	<input type="checkbox"/> 研究した結果に基づき今後の研究活動を明確にしている

Action

本学専攻を希望する学生へ明確な教育方針の提示をすることは入学後のモチベーションを維持し目標に向かい学ぶための道しるべともなる。そのためにも専攻科独自の三つの方針（ディプロマポリシー／修了認定にあたっての具体的な方針の提示、カリキュラムポリシー／1年課程でのカリキュラム編成と運用の方針の提示、アドミッションポリシー／専攻科で募集する入学者の明確な表現）を意識し、一貫性のある取り組みを継続する。

専攻科生に対しては、学修成果のルーブリック評価表を学生と教員双方で活用し、目標達成に繋がられるよう、形成評価時期の検討を行い、学生個々がより高い Level となるよう務めたい。

令和4年度より新カリキュラムでの教育が開始しているため、策定した教育理念・教育目的・目標をもとに専攻科の三つの方針（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）の単年度毎の評価に加え、継続した長期的な評価により本学専攻科の教育効果を評価したい。また、専攻科では次年度より学修成果のルーブリック評価表（表6）を学生便覧とシラバスへ掲載し、学習評価の機会を増やす予定である。

3.内部質保証

- 1) 自己点検・評価活動等の実施体制の確立と内部質保証への取り組み
- 2) 教育の質の保証
- 3) 内部質保証の課題
- 4) 内部質保証の特記事項
- 5) 建学の精神と教育の効果の改善状況・改善計画

上記の1)～5)についてまとめた内容を(1)～(4)として述べる。

(1) 本学における自己点検・評価体制

Plan

大学が自らの教育研究の理念・目標に照らして、教育活動及び研究活動の状況を点検・評価するという理念の基に、本学は自己点検・評価委員会規則（平成30年11月16日改正）に則って、教育・研究水準の向上を図り、かつ本学の目的及びその使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自己点検・評価を実施する。

2022年度の活動計画は以下の通りである。

- ①令和4年度（2022年度）自己点検・評価報告書の発刊
- ②令和3年度(2021年度)卒業生の卒業時の本学に関するアンケート実施結果（記述内容）の分析
- ③令和2年度(2020年度)卒業生・修了生の卒後・修了後1年目の本学に関するアンケート実施、集計、分析、報告

- ④令和4年度(2022年度)卒業生・修了生の卒業時・修了時の本学に関するアンケート実施、集計、分析、報告
- ⑤3つのポリシーをふまえた教育活動の適切性について学外（毛呂山町教育委員会・関連病院看護部）および学生参画による点検・評価
- ⑥短期大学・看護学科・専攻科の学修成果の学生への意識づけ（ルーブリック評価表の活用）
- ⑦SD活動の実施、報告書の発刊（専門部会SD活動企画部会による）

Do

- ①自己点検・評価委員会を12回開催し、自己点検・評価委員会規則に則って各活動の自己点検・評価を行った。
- ②令和5年4月「埼玉医科大学短期大学 令和4年度自己点検・評価報告書（2022年度年報）」を発行した。
- ③令和4年度も日本私立大学振興・共済事業団の情報公表内容に応じHP上で、「シラバス2022年度」、「学生便覧2022年度」、「令和4年度自己点検・評価報告書（2022年度年報）」を公開した。
- ④2022年度に実施した学生による授業評価の集計結果を「学生による授業評価アンケート集計報告書・2022年度』として令和5年3月に発行した。これは全教員に配付され、これまで通り図書館に配架して学生に閲覧可能とした。
- ⑤令和3年度（2021年度）卒業生の卒業時の本学に関するアンケート実施結果（記述内容）を分析した。
- ⑥令和2年度（2020年度）卒業生・修了生の卒後・修了後1年目の本学に関するアンケートを実施した。
- ⑦令和4年度（2022年度）の卒業生・修了生による当短期大学に関するアンケートを、卒業時・修了時に実施した。
- ⑧ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーをふまえた教育活動の取り組みの適切性を確保するために、学外（毛呂山町教育委員会）による点検・評価、学生参画の自己点検・評価委員会の開催、外部アドバイザー（主たる実習施設の総看護部長）との情報交換を実施した。
- ⑨看護学科は、学科の学修成果の評価をルーブリック評価表を用いて全学年が実施し、各学生でレーダーチャートを作成し可視化した上で課題を明確にした。専攻科は学生便覧に示してある専攻科の学修成果の振り返りを各自で実施するよう指導した。
- ⑩FD・SD活動については本誌P.116、174を参照。

Check

- ①令和4年度卒業生・修了生による卒業・修了時、令和2年度卒業生・修了生による卒後・修了後1年目の短期大学に関するアンケートの結果（P.44~51参照）。

【卒業時・修了時】令和4年度卒業生・修了生

<看護学科>

「勉学以外に部活・ボランティア・委員会活動を行った」が2.3ポイント以外は、3.0ポイント以上であり、概ね良い評価であった。対象学生が異なるので一概に比較することはできないが、昨年度の卒業生と比べ、「当短期大学で学んで良かった」のポイントが、昨年度4.4、今年度4.1と低下している。

ポイントが最も高かった項目は昨年度と同様、「在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた」(今年度4.6、昨年度4.7)であった。この卒業生は、入学時からコロナ禍で遠隔授業が導入され、様々な制約がある3年間であった。そのため、学習や学生生活で多くの悩みや不安などが生じていたのではないかと思われ、身近な友人と関わることの大切さをより意識した結果ではないかと考えられる。

ポイントが最も低かった項目は、「勉学以外に部活・ボランティア・委員会活動を行った」(今年度2.3、昨年度3.7)であった。この項目は昨年度、最も低かった「先輩・後輩とともに学ぶ気持ちを持てた」よりも低い結果であった。コロナ禍の影響で、クラブ活動・ボランティア活動等が制限されていたためと考える。

<専攻科>

すべての項目が3.0ポイント以上であり、概ね良い評価であった。対象学生が異なるので一概に比較できないが、「専攻科で学んでよかった」の平均ポイントが、昨年度4.6、今年度4.7とほぼ同じであった。

ポイントが最も高かった項目は「同級生とともに学ぶことができた」(4.9)であった。次いで「専攻科での1年間は自己成長につながった」(4.8)であった。専攻科は1年課程であり21名と少人数であることから、短期間を同級生と協力し合って学習できた充実感を抱けたり、自分自身の成長を自覚できたと考える。

ポイントが最も低かった項目は、「当短期大学の施設・設備は充実していた」(今年度3.3、昨年度3.3)であった。自己点検・評価委員会の学生参画会議で、専攻科の学生から施設・設備についての要望が多く出されていたことから改善に向けて取り組んでいるが、修了時までには全てを改善するには至らなかった。

【卒後、修了後1年目】令和2年度卒業生・修了生

<看護学科>

全項目の中で最もポイントが高かった項目は、「在学当時の友人と悩みを相談したり励まし合ったりしている」(4.4)であり、最も低かったのは「困ったこと、疑問点を教員、司書、事務職員に相談しよう(したい)と思う時がある」であり、2.7ポイントであった。「建学の精神」のうち、卒業時と卒後1年目で最も差があったのは、「先輩・後輩(学生)とともに学ぶ気持ちを持

って実践している」であり、0.8ポイント上昇した。自由記述内容に「わからないまま患者さんと接することは怖いので先輩に聞いている」とあったことから積極的に学ぶ気持ちを持ち実践している。また、卒業時、「看護師として自ら学び努力する姿勢が身についた」は平均4.4であったが、卒後「看護師として自ら学び努力している」は4.1に低下した。努力はしているが、社会人となり、あらためて自己評価をしたときに努力不足を感じているのではないかと考えられる。「学修成果」については、卒業時と卒後1年目で最も差があったのは、「科学的思考ができる能力が身についた」であり、0.3ポイント低下した。看護師として様々な状況の患者の援助をする際、卒業時のアセスメント能力では不十分と感じたのではないかと考える。「学習環境・学生生活」で卒業時と卒後1年目で最も差があったのは、「困ったこと、疑問点を教員、司書、事務職員に相談しよう（したい）と思う時がある」であり、卒業時3.8が卒後1年目2.7と大きく低下した。「在学当時の友人と悩みを相談したり励まし合ったりしている」が4.4と最も高かったことから、卒後1年になると友人や職場の同期等に相談し解決していることが推測でき、わざわざ学校に来て相談するという気持ちには至らなかったのではないかと考える。「科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解の科目は役に立っている」、「短大で身につけた学習方法は、役立っている」以外は、卒業時と同じか低下していた。卒業時よりも客観的に見つめ直した結果、厳しい数値になったと考える。「当短期大学で学んで（学べて）良かった」を比較してみると、卒業時4.1、卒後1年目3.9と1年目の方が若干低くなっている。看護学科は平成29年度から評価した理由を学生に記述してもらっている。これにより学生の意識がより明確になったため、さらに低下した理由を分析し改善していく必要がある。

<専攻科>

全項目の中で最も高かった項目は、「在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた」(4.4)であり、最も低かったのは「助産師として自ら学び、研鑽している（研究、研修会・学会参加、社会資源等）」で3.0であった。これは、「建学の精神」のうち、修了時と修了後1年目で最も差があった項目であり、修了時「助産師として自ら学び、努力する姿勢が身についた」(4.6)が、修了後1年は「助産師として自ら学び、研鑽している（研究、研修会・学会参加、社会資源等）」(3.0)と1.6ポイント低下した。新型コロナウイルス感染症の影響により、思うように学会参加や社会貢献活動ができにくい状況であったことが要因の1つと考えられる。「修了時の特性」では、「生命に対する畏敬の念と人類愛を持って行動している」と『助産師の倫理綱領』に沿った行動ができている」が修了時と修了後1年目で0.6ポイントの差があった。努力はしているが、職場や日常業務に慣れることで精一杯であり、「行動している」と自信を持って回答できなかったのではないかと考える。「学習、学生生活について」は、「カリキュラムが系統だった」が修了時よりも0.6ポイント低下した。専攻科は1年間で専門的な知識・技術・態度を修得しなければならないため、過密なカリキュラムを修了した時点の学生は「系統だった」と感じていたのではないかと考える。

②授業評価アンケート集計結果

【教員側の集計結果の活用】（詳細は P.86～91 参照）

<講義・演習>

看護学科も専攻科も、教員個々の担当科目の項目をみると 3.5 ポイント以上獲得している、このことから教員は授業改善に努めていると考えられる。2016 年度からは教員個々が担当科目（または単元）の中で最も評価が低かったものについて、その内容を分析し、次年度に向けて具体的な改善策を考え指定の用紙に記述し、年度初めに学科長、専攻科長に提出している。今年度の授業改善計画も立案し提出している。さらに、2020 年度から全教員がティーチングポートフォリオを作成し提出した。教員個々が自己の教育活動をエビデンスに基づいて内省することにより、一層の授業改善がなされている。

<臨地実習>

看護学科と専攻科の臨地実習について、学生による授業評価アンケートを実施した結果、どの実習科目も、4.2 ポイント以上の満足度を示している。今後も学生の満足度が高められるように、レディネスに応じた指導内容と方法を工夫していく必要がある。

【学生側の活用】

看護学科は 2019 年度から、学生自身が自己の学習態度を定期的に内省し、見出した自己の課題の解決に活用するという目的で、年に 2 回、授業評価アンケートの学習態度の項目について自己評価し、学習成績管理ファイルに綴じてアドバイザーへ提出し面接をしてきた。今年度からは看護学科の教務委員会が、科目ごとの PDCA を WebClass に各自で入力するよう指導したため、入力時、授業評価アンケートの学習態度に関する項目も意識して自己評価するよう学生に促した。

③3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）をふまえた教育活動の適切性

- i. 学外(毛呂山町教育委員会)の評価者に点検を受けた結果、「適切である」との評価を得た。
- ii. 学生参画による点検・評価は今年度で 5 回目であった。看護学科の 1、2 年次生（3 年次生は臨地実習のため欠席）および専攻科のクラス委員が出席し、自己点検・評価委員と協議した。その結果、施設・設備面では「教室の設備改善、Wi-Fi 環境の整備」、「照明の改善」、「視聴覚機器の改善」、「玄関の傘立ての整理」等の課題が明らかになった。学修方法や学修支援では「シラバスに提示された教科書の活用度」、「非常勤講師の授業資料の配布の仕方」、「事前学習の課題の提示時期」、「オンライン授業のあり方」、「授業評価アンケートの活用法」、「利用できる奨学金や支援制度等の情報提供」、「掲示板の掲示の仕方」等が課題としてあげられた。協議の内容は、全学生と教職員に全学掲示板で周知した。「設備の改善」については、学習環境整備専門部会に検討を促した。短大の予算の関係もあり、即、改善できないものがあるが、優先

度を考えて、すぐにでも改善可能なものから対処することになった。学修方法・学修支援に関しては、「図書館に希望図書として依頼する」、「授業資料を午前・午後に分けて配布する」、「事前学習課題の提示時期を早めにするよう教員に周知する」、「オンラインが効果的な内容についてはオンラインを継続する」、「授業評価アンケートの方法を検討する」、「可能な限り、支援制度等の情報を提供する」、「掲示物の新旧をわかりやすく掲示するよう教員に周知する」等で対処することになった。

- iii. 外部アドバイザーとの情報交換を随時おこなった。コロナ禍の影響で臨地実習の方法が変化していることから、看護技術の目標達成度が低くなっているのではないかと懸念され、看護基礎教育と卒後教育の連携の大切さを再確認した。
- iv. 看護学科は、定期的にルーブリック評価表を用いて自己評価しレーダーチャートで可視化したことから、学修成果の意識づけに繋がり課題を明確にできたと考えるため、今後も継続する。専攻科は各自での振り返りを促したが、実施していない学生もいることから、より効果を期待するために専攻科の学修成果のルーブリック評価表を作成し、定期的に振り返りを実施していく必要があると考える。

Action

- i. 令和 5 年度(2023 年度)の自己点検・評価報告書を発刊
- ii. 学生による授業評価アンケートの実施、集計結果、報告書の発刊
- iii. 令和 4 年度（2022 年度）卒業生の卒業時の本学に関するアンケート結果（記述内容）の分析
- iv. 令和 3 年度（2021 年度）卒業生・修了生の卒後・修了後 1 年目の本学に関するアンケート実施、集計、分析、報告
- v. ルーブリック評価表による学修成果の意識づけと自己評価（全学・看護学科・専攻科）
- vi. 3つのポリシーをふまえた教育活動の適切性について学外および学生参画による点検・評価の実施
- vii. 外部アドバイザー会議の充実
- viii. SD 活動の実施、報告書の発刊（専門部会 SD 活動企画部会による）

(2) 自己点検・評価の担当部門一覧

平成 4 年大学審議会答申による自己点検・評価項目について、本学における本年度の担当部門を教授会の議を経て表 5 のように決定した。なお、どの項目についても事務部が関与・協力するものとする。

表 5. 自己点検・評価の担当部門一覧

自己点検・評価項目	担当部門
1. 教育理念及び目的に関すること 短期大学（学科）の教育理念・目標の設定 教育理念・目標の点検・見直し 短期大学（学科）の将来構想 教育研究の活性化・充実のためのこれまでの取込み	自己点検・評価委員会，各学科 自己点検・評価委員会，各学科 自己点検・評価委員会，各学科 自己点検・評価委員会，各学科
2. 教育活動に関すること 1) 学生の受入れ (1) 学生募集・入学者選抜の方針・方法 (2) 学生定員充足状況	広報部委員会，入試委員会 入試委員会，事務部
2) 学生生活への配慮 (1) 奨学金制度・授業料免除の状況 (2) 学生生活相談 (3) 課外活動 (4) 保健管理	事務部，教務委員会 学生部委員会 学生部委員会，各学科 保健管理委員会
3) カリキュラムの編成 (1) カリキュラムの編成方針と教育理念・目標との関係 (2) 基礎教育の内容とカリキュラム全体における位置付け (3) 専門基礎教育の内容とカリキュラム全体における位置付け (4) 専門教育の内容とカリキュラム全体における位置付け (5) カリキュラムの編成及び見直しの方法・体制	各学科 各学科 各学科 各学科 各学科
4) 教育指導の在り方 (1) 科目ごとの授業計画の作成状況 (2) カリキュラムガイダンスの実施状況 (3) クラスの大きさ、編成方法 (4) 教員 1 人当たりの授業時間数 (5) 各授業科目担当者間での授業内容の調整 (6) 演習・実験等の実施状況 (7) 視聴覚教育の実施状況 (8) 他大学・短大等との単位互換の方針と状況 (9) 編入学希望者への指導状況 (10) 職業資格取得に係る指導状況・取得状況 (11) 進級状況（留年・休学・退学）	教務委員会 各学科 各学科 各学科 各学科 各学科 各学科 教務委員会，各学科 各学科 各学科 各学科
5) 教授方法の工夫・研究 (1) 教授方法の工夫・研究のための取組み (2) 教員の教育活動に対する評価の工夫 (3) 成績評価・単位認定	自己点検・評価委員会 自己点検・評価委員会 教務委員会
6) 卒業生の進路指導 (1) 職業指導及び就職状況 (2) 卒業生の大学への編入学状況	各学科 各学科
3. 研究活動に関すること 1) 構成員による研究成果の発表状況 2) 研究誌の発行状況と編集方針 3) 共同研究の実施状況 4) 研究費の財源 5) 研究費の分配方法 6) 学会活動への参加状況	各学科 紀要委員会 研究審議委員会 研究審議委員会 研究審議委員会 各学科

4. 教員組織に関すること 1)専任教員・非常勤講師の配置状況 2)教育補助者・研究補助者の配置状況 3)出身大学の構成 4)年齢構成 5)採用・昇進の手順・基準 6)教員の兼職の方針と状況 7)教員人事についての長期計画	各学科 各学科 各学科 各学科 各学科 各学科 各学科
5. 施設設備に関すること 1)施設設備の整備 2)図書館の利用状況 3)学術情報システムの整備・活用状況	事務, 防災委員会 図書館運営委員会 情報ネットワーク委員会
6. 国際交流に関すること 1)留学生の受入れ状況・指導体制 2)在学生の海外留学・研修(研修旅行)の方針と状況 3)教員の在外研究の方針と状況 4)海外からの研究者の招致状況 5)海外の短大との交流協定の締結状況・活用状況	各学科 各学科 各学科 各学科 各学科
7. 生涯学習への対応に関すること 1)公開講座の開設状況 2)生涯学習センターの設置・活動状況 3)社会の生涯学習事業に対する連携協力状況	各学科 各学科 事務
8. 社会との連携に関すること 1)教員の学外活動状況 2)学外の意見を教育研究に反映させる仕組み	各学科 各学科
9. 管理運営・財政に関すること 1)教育研究に関する意志決定の方法・体制 2)事務組織 3)予算の編成と執行の方針と状況 4)学外資金の導入状況	事務部, 研究審議・紀要委員会 事務部 事務部 事務部
10. 自己評価体制に関すること 1)自己評価を行うための学内組織 2)教育研究活動等の公表 3)評価をフィードバックするための仕組み	自己点検・評価委員会, 各学科 自己点検・評価委員会, 各学科 自己点検・評価委員会, 各学科

(3) 教員評価への取り組み

Plan

2015年7月より発足した専門部会“教員評価企画部会”は質の高い教育を目指すために、教員が自ら教育活動を見直し、主体的に改善していくとともに、教員の能力を的確に把握することによって、計画的な人材育成を実現し、組織の活性化を図るという教員評価の目的を達成するために活動している。

年間目標：(1)昨年度の活動の評価結果を全教員にフィードバックする。(2)自己評価、他者評価の総合点の最高得点者1～2名を表彰する。(3)実施要領の見直しを行いながら引き続き教員評価を実施する。

Do

企画部会は2回開催した。活動した内容は次の通りである。

①令和3年度（2021年度）の評価結果を全教員へフィードバックした。

・全教員の評価項目の得点の平均点をグラフ化し、全教員に配付し文書で説明した（図1）。

②自己評価と他者評価の総合点の最高得点者2名について“埼短賞”として副賞を添えて表彰した（表彰状、図書カード1万円分）。

Check

①2021年度の全教員の活動内容全項目の平均得点は158.2点(得点率79.1%)の到達度であった。昨年度の平均得点152.3点(得点率76.2%)と比べ、5.9点高くなっている。毎年、教員のメンバーが数名、替わっているので一概に比較はできないが、過去6年間の中で最も平均得点率(表6. 平均得点率)が高く、コロナ禍においても各教員が努力し、概ね良好な活動状況であったと考える。

表6. 年度別平均得点率

年度	2016 (H.28)	2017 (H.29)	2018 (H.30)	2019 (R.1)	2020 (R.2)	2021 (R.3)	6年間 平均
得点率(%)	78.5	77.9	74.7	77.7	76.2	79.1	77.4

②項目別(図1)では「社会活動」の平均得点が低かった。これは、コロナ禍の影響で研修会等が開催されず、外部からの講師依頼等が減少したこと、感染対策としてボランティア活動を自粛していたことが要因と考えられる。「教育活動」は昨年度と比べ上昇し、教育活動の項目全てが平均得点8.0以上を獲得していた。コロナ禍2年目であったことから、対面もしくは遠隔授業を各教員が臨機応変に対応できたためと考える。また、「学生指導」も8.8と高かった。これはコロナ禍の学生の不安や不満等適宜、相談にのっていたことが窺える。「研究活動」は、例年の傾向と変わらずやや低迷傾向にある。コロナ禍で「教育活動」、「学生指導」を中心に、「組織運営上の活動」を行う中では、研究時間の確保等が難しく、思うような活動ができにくかったのではないかと考えられる。今後も基礎学力の低下、生活経験の希薄さからくる技術修得の困難、人間関係構築が不得手な学生が多くなることが考えられ、ますます学生指導に多くの時間を要することが予測される。したがって教員個々が自己の働き方を見直しながら、限られた時間を有効に活用し、大学教員としての責務である研究活動も積極的に遂行していく必要がある。

③一次評価後、結果を個別にフィードバックできるように希望者との面接を設定したが、期間内に面接を希望した教員はいなかった。処遇に直接反映されないためか、他者評価の必要性に関する意識が低いためか明確ではない。より客観的に自己の活動内容をふりかえるためにも、フィードバックシステムを積極的に活用できるようにしていく。

④今年度も自己評価と他者評価の総合得点が高かった上位2名の教員に対して、副賞を添えて表

表彰した（埼短賞）。新型コロナウイルス感染症対策のために、表彰式には全教員が立ち会うことができなかったがメールで全教員に周知した。“埼短賞”を贈ることについては、活動の貢献度に対する顕彰と、さらにモチベーションをアップし、組織の活性化を図るといふねらいがある。受賞した教員は、受賞の責任を感じるとともに、活動を認めてもらえたことでモチベーションアップにつながったことや受賞により自分の不足部分を補う意識が深まったこと等を感じていたことから、表彰継続の意味があると考え。しかし、自己評価と他者評価の総合点であるため、常に自己評価が低い教員は受賞の機会を得ることが困難と考え、評価項目や評価方法の検討をする必要がある。

⑤教員評価の目的の1つである「主体的に教育活動を見直して改善している」の達成度を測定する方法として、今年度も学生の授業評価結果を基に「授業改善策」を全教員が提出した。この結果をみると、教員それぞれが、自己の授業内容を省察しており、工夫しながら授業を実施していることが明確になった。改善策を実施した結果については、自己分析し所定の用紙に記述して提出している。また、令和2年からは、全専任教員がティーチングポートフォリオを作成し自己の教育活動を考察している。これによりさらに授業改善がなされると考える。

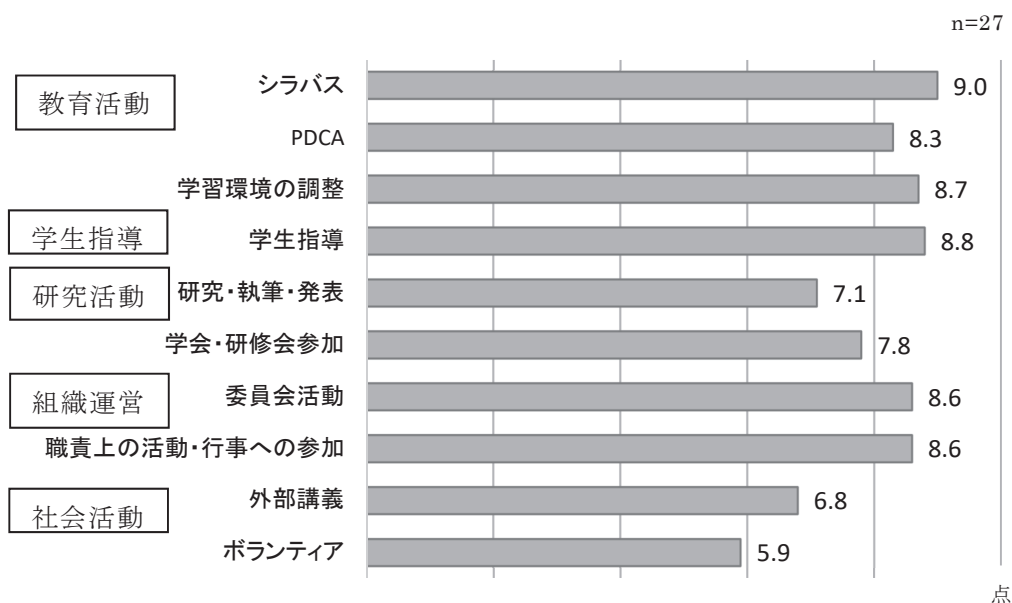


図 1. 令和3年度 教員のための振り返りシート集計結果

Action

- ①教員評価の目的を全教員が把握し、達成しているか考察する。
- ②教員評価の実施要領を見直し、実施要領に則って教員評価を継続する。
- ③受賞がどのような影響を及ぼしたかについて、表彰者に定期的に聴取し検証する。
- ④ ティーチングポートフォリオの活用と評価を行う。

(4) 卒業生・修了生による本学に関する評価

本学では、卒業・修了するタイミングおよび卒業・修了後 1 年目のタイミングで「建学の精神」「学修成果」「学習環境・学生生活」についてアンケートを実施している。

アンケートの結果（表 7～10）を教職員間で共有し、改善点等を検討している。

[看護学科]

卒業生による当短期大学に関するアンケート

対象：看護学科 令和4年度卒業生（令和5年2月実施）

目的：当短期大学で学んだこと・身についたことは何か、学習環境・学生生活についてどう感じたかを知り、教育や学習環境に関してさらなる向上を図る。

当短期大学に関する質問についてマークシートに1～5でお答え下さい。

なお、この用紙の右欄に質問項目に回答した理由を別紙に具体的に記載して下さい。

1	2	3	4	5
----- ----- ----- -----				
思わない				思う

I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。

1. 専門的な知識・技術と共に人間性を育むことができた。
2. 看護師として自ら学び、努力する姿勢が身についた。
3. 他者への労り、奉仕心が身についた。
4. 先輩・後輩とともに学ぶ気持ちを持てた。

II. 当短期大学看護学科の「学修成果」についてお聞きします。

5. 社会の変化に対応できる能力が身についた。
6. 人間を総合的に理解できる能力が身についた。
7. 科学的な思考ができる能力が身についた。
8. 専門的な知識・技術・態度を統合して看護実践できる能力が身についた。
9. 保健医療福祉チームメンバーとして地域に貢献する能力の基盤が身についた。
10. 看護者として自己成長ができる基盤が身についた。

III. 当短期大学看護学科の「学習環境・学生生活」についてお聞きします。

11. 3年間の授業は順序立てた構成であり、科目間の関連が理解しやすかった。
12. 「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」の科目（哲学、心理学、論理学、文学、社会学、法学、教育学、統計学、物理学、化学、生物学、情報科学、英語、ドイツ語、体育実技、）は役に立った。
13. 講義、演習、実習の評価は公平だった。
14. 臨地実習の指導体制は整っていた。
15. 国家試験対策は役に立った。
16. 教員、司書、事務職員の対応は適切だった。
17. 在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた。
18. 学内および実習施設で看護専門職業人としてモデルになる人に出会えた。
19. 困ったこと、疑問点を教員、司書、事務職員に相談できた。
20. 当短期大学の施設・設備は充実していた（教室、図書館、コンピューター室、実習器具等）。
21. 勉学以外に部活・ボランティア・委員会活動を行った。
22. 全課程を終えて看護師になりたいという気持ちが強くなった。
23. 学生生活は有意義だった。
24. 当短期大学で学んでよかった。

表 7. [看護学科]

卒業生による当短期大学に関するアンケート集計結果

(看護学科 R5.3 卒業時)

	卒業生数	89
	回収数	84
	回収率 (%)	94.4%
I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。		
1. 専門的な知識・技術と共に人間性を育むことができた。		4.1
2. 看護師として自ら学び、努力する姿勢が身についた。		4.5
3. 他者への労り、奉仕心が身についた。		4.4
4. 先輩・後輩とともに学ぶ気持ちを持てた。		3.0
II. 当短期大学看護学科の「学修成果」についてお聞きします。		
5. 社会の変化に対応できる能力が身についた。		4.1
6. 人間を総合的に理解できる能力が身についた。		4.1
7. 科学的な思考ができる能力が身についた。		4.2
8. 専門的な知識・技術・態度を統合して看護実践できる能力が身についた。		4.2
9. 保健医療福祉チームメンバーとしてその役割を果たす能力が身についた。		4.2
10. 看護者として自己成長ができる基盤が身についた。		4.4
III. 当短期大学看護学科の「学習環境・学生生活」についてお聞きします。		
11. 3年間の授業は順序立てた構成であり、科目間の関連が理解しやすかった。		3.8
12. 「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」の科目（哲学、心理学、論理学、文学、社会学、法学、教育学、統計学、物理学、化学、生物学、情報科学、英語、ドイツ語、体育実技、）は役に立った。		3.4
13. 講義、演習、実習の評価は公平だった。		3.6
14. 臨地実習の指導体制は整っていた。		3.8
15. 国家試験対策は役に立った。		4.2
16. 教員、司書、事務職員の対応は適切だった。		4.1
17. 在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた。		4.6
18. 学内および実習施設で看護専門職業人としてモデルになる人に出会えた。		4.3
19. 困ったこと、疑問点を教員、司書、事務職員に相談できた。		4.0
20. 当短期大学の施設・設備は充実していた（教室、図書館、コンピュータ室、実習器具等）。		3.0
21. 勉学以外に部活・ボランティア・委員会活動を行った。		2.3
22. 全課程を終えて看護師になりたいという気持ちが強くなった。		4.1
23. 学生生活は有意義だった。		4.1
24. 埼玉医科大学短期大学で学んでよかった。		4.1

[看護学科]

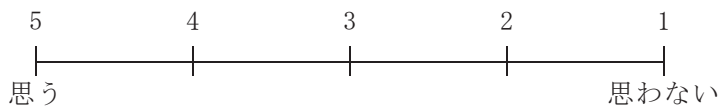
卒業生による当短期大学に関するアンケート 卒業後1年

対象：令和2年度卒業生（看護学科 令和3年3月卒業）

目的：当短期大学で学んだこと・身についたことは何か、学習環境・学生生活についてどう感じたか

知り、教育や学習環境に関してさらなる向上を図る。

あなたが卒業した当短期大学に関する質問についてマークシートに1～5でお答え下さい。
 なお、質問項目の解答番号と解答した理由を右欄に具体的に記載して下さい。



※ I. II. に関して、進学した方は進学先の臨地実習等学習への取り組みについてお答え下さい。

I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。

1. 専門的な知識・技術と共に人間性を育みながら実践している。
2. 看護師として自ら学び、努力している。
3. 他者への労り、奉仕心を持って実践している。
4. 先輩・後輩（学生）とともに学ぶ気持ちを持って実践している。

II. 当短期大学看護学科の「学修成果」は現在、身についていますか。

5. 社会の変化に対応できる能力が身についた。
6. 人間を総合的に理解できる能力が身についた。
7. 科学的な思考ができる能力が身についた。
8. 専門的な知識・技術・態度を統合して看護実践できる能力が身についた。
9. 保健医療福祉チームメンバーとして地域に貢献する能力が身についた。
10. 看護者として自己成長を促す能力が身についた。

III. 当短期大学看護学科の「学習環境・学生生活」について現在はどのように思いますか。

11. 3年間の授業は順序立てた構成であり、科目間の関連が理解しやすかった。
12. 「科学的思考の基盤」・「人間と生活・社会の理解」の科目（心理学、社会学、情報科学、英語、体育実技等）は役に立っている。
13. 講義、演習、実習の評価は公平だった。
14. 臨地実習の指導体制は今の自分に良い影響を及ぼしている。
15. 短大で身につけた学習方法は役立っている。
16. 教員、司書、事務職員の対応は現在参考になっている。
17. 在学当時の友人と悩みを相談したり励ましあったりしている。
18. 在学中に出会えた看護専門職業人をモデルとして働いている。
19. 卒業後も困った時に教員、司書、事務職員に相談しよう（したい）と思う時がある。
20. 当短期大学の施設・設備は充実していた（教室、図書館、コンピュータ室、実習器具等）。
21. 勉学以外の部活・ボランティア・委員会活動は役立っている。
22. 学生生活は有意義だった。
23. 当短期大学で学べて良かった。

表 8. [看護学科]

卒業生による当短期大学に関するアンケート集計結果

(卒業後1年：R4.6)

5 ┌───┴───┬───┬───┬───┬───┴───┐ └───┬───┬───┬───┬───┬───┘ 5 4 3 2 1 思う ─────────────────────────── 思わない として点数化	卒業者数 回収数 回収率(%)	106 85 80.2
I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。		
1. 専門的な知識・技術と共に人間性を育みながら実践している。		4.0
2. 看護師として自ら学び、努力している。		4.1
3. 他者への労り、奉仕心を持って実践している。		4.1
4. 先輩・後輩（学生）とともに学ぶ気持ちを持って実践している。		4.1
II. 当短期大学看護学科「学修成果」は現在、身についていますか。		
5. 社会の変化に対応できる能力が身についた。		4.0
6. 人間を総合的に理解できる能力が身についた。		3.9
7. 科学的な思考ができる能力が身についた。		3.7
8. 専門的な知識・技術・態度を統合して看護実践できる能力が身についた。		3.9
9. 保健医療福祉チームメンバーとして地域に貢献する能力が身についた。		3.6
10. 看護師としての自己成長を促す能力が身についた。		4.0
III. 当短期大学看護学科の「学習環境・学生生活」について現在はどのように思いますか。		
11. 3年間の授業は順序立てた構成であり、科目間の関連が理解しやすかった。		3.7
12. 「科学的思考の基盤」・「人間と生活・社会の理解」の科目（心理学、社会学、情報科学、英語、体育実技 等）は役に立っている。		3.3
13. 講義、演習、実習の評価は公平だった。		3.7
14. 臨地実習の指導体制は今の自分に良い影響を及ぼしている。		3.6
15. 短大で身につけた学習方法は役立っている。		3.8
16. 教員、司書、事務職員の対応は現在参考になっている。		3.5
17. 在学当時の友人と悩みを相談したり励ましあったりしている。		4.4
18. 在学中に出会えた看護専門職業人をモデルとして働いている。		3.5
19. 卒業後も困った時に教員、司書、事務職員に相談しよう（したい）と思う時がある。		2.7
20. 当短期大学の施設・設備は充実していた（教室、図書館、コンピューター室、実習器具等）。		3.2
21. 勉学以外の部活・ボランティア・委員会活動は役立っている。		3.0
22. 学生生活は有意義だった。		3.8
23. 当短期大学で学べて良かった。		3.9

[専攻科]

専攻科修了生による当短期大学専攻科に関するアンケート

修了時

対象：専攻科 令和4年度修了生（令和5年3月実施）

目的：修了生から当短期大学専攻科に対する意見を知り、教育や学習環境のさらなる向上を図る。

あなたが修了する当短期大学に関して、下記の質問に1～5でお答え下さい。

5：そう思う 4：やや思う 3：どちらとも 2：やや思わない 1：思わない

I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。

1. 助産ケアに必要な知識・技術・態度が身についた。
2. 自己の母子看護観・倫理観が明確になった。
3. 助産師として自ら学び、努力する姿勢が身についた。
4. 他者への労り、奉仕心が身についた。
5. 同級生とともに学ぶことができた。

II. 当短期大学専攻科の「修了時の特性」についてお聞きします。

6. 生命に対する畏敬の念と人類愛を持つことができた。
7. 倫理観を持った行動ができた。
8. 社会情勢の変化をとらえることができた。
9. 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援することができた。
10. 高度周産期医療に対する知識・技術を高めることができた。
11. 科学的思考を持ち総合的に判断することができた。
12. 社会資源を活用し、他職種との協働・連携が理解できた。
13. 保健医療チームの一員として連携・協働することができた。
14. 臨床場面で得た母子看護学の課題を研究する姿勢が身についた。

III. 当短期大学専攻科の「学習、学生生活」についてお聞きします。

15. カリキュラムは系統だった。
16. 授業科目は役に立った。
17. 講義、演習、実習の評価は公平だった。
18. 教員、司書、事務職員の対応は適切だった。
19. 当短期大学の施設・設備は充実していた(講義室、図書館、コンピューター室等)。
20. 演習時の物品は充実していた。
21. 臨地実習の指導体制は整っていた。
22. 学内および実習施設で職業人としてモデルになる人に出会えた。
23. 国家試験対策は主体的に取り組めた。
24. 在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた。
25. 学生生活は有意義だった。
26. 専攻科で学んでよかった。
27. 専攻科での1年間は自己成長につながった。

表 9. [専攻科]

修了生による当短期大学に関するアンケート集計結果

(専攻科 R5.3 修了時)

(5 : そう思う 4 : やや思う 3 : どちらとも 2 : やや思わない 1 : 思わない) として点数化	修了者数 回収数 回収率 (%)	21 20 95.2
I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。		
1. 助産ケアに必要な知識・技術・態度が身についた。		4.45
2. 自己の母子看護観・倫理観が明確になった。		4.20
3. 助産師として自ら学び、努力する姿勢が身についた。		4.30
4. 他者への労り、奉仕心が身についた。		4.50
5. 同級生とともに学ぶことができた。		4.90
II. 当短期大学専攻科の「修了時の特性」についてお聞きします。		
6. 生命に対する畏敬の念と人類愛を持つことができた。		4.45
7. 倫理観を持った行動ができた。		4.65
8. 社会情勢の変化をとらえることができた。		4.10
9. 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援することができた。		4.25
10. 高度周産期医療に対する知識・技術を高めることができた。		4.10
11. 科学的思考を持ち総合的に判断することができた。		3.95
12. 社会資源を活用し、他職種との協働・連携が理解できた。		4.15
13. 保健医療チームの一員として連携・協働することができた。		4.35
14. 臨床場面で得た母子看護学の課題を研究する姿勢が身についた。		3.85
III. 当短期大学専攻科の「学習、学生生活」についてお聞きします。		
15. カリキュラムは系統だった。		4.40
16. 授業科目は役に立った。		4.55
17. 講義、演習、実習の評価は公平だった。		4.20
18. 教員、司書、事務職員の対応は適切だった。		4.25
19. 当短期大学の施設・設備は充実していた(講義室、図書室、コンピューター室等)。		3.30
20. 演習時の物品は充実していた。		3.90
21. 臨地実習の指導体制は整っていた。		3.95
22. 学内および実習施設で職業人としてモデルになる人に出会えた。		4.40
23. 国家試験対策は主体的に取り組めた。		4.60
24. 在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた。		4.65
25. 学生生活は有意義だった。		4.65
26. 専攻科で学んでよかった。		4.70
27. 専攻科での1年間は自己成長につながった。		4.75

[専攻科]

修了生による当短期大学専攻科に関するアンケート

修了後 1 年

対象：専攻科 令和 3 年 3 月修了生（令和 4 年 5 月実施）

目的：当短期大学専攻科で学んだこと、身についたことが助産師として働くうえで活かされているか
を知り、教育や学習環境のさらなる向上を図る。

あなたが修了した当短期大学に関して、下記の質問に 1～5 でお答え下さい。

5：そう思う 4：やや思う 3：どちらとも 2：やや思わない 1：思わない

I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。

1. 知識・技術・態度を活用して助産ケアを実践している。
2. 修了時に明確になった自己の母子看護観・倫理観を持って助産ケアをしている。
3. 助産師として自ら学び、研鑽している（研究、研修会・学会参加、社会貢献等）。
4. 他者への労り、奉仕心を持って常に助産ケアを実践している。
5. 先輩・後輩（学生）とともに学んでいる。

II. 当短期大学専攻科の「修了時の特性」についてお聞きします。

6. 生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持って行動している。
7. 「助産師の倫理綱領」に沿った行動ができています。
8. 社会情勢の変化を的確にとらえることができています。
9. 生涯学習を行い自己研鑽ができています。
10. 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援している。
11. 高度周産期医療に対する知識・技術を高めている。
12. 科学的思考を持ち総合的に判断している。
13. 社会資源を活用し、他職種と協働・連携ができています。
14. 保健医療福祉チームの一員として連携・協働することができています。
15. 地域貢献の為に、自律的に学習を継続している。

III. 当短期大学専攻科の「学習、学生生活」についてお聞きします。

16. カリキュラムは系統だった。
17. 授業科目は役に立った。
18. 臨地実習の指導体制は整っていた。
19. 在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた。
20. 学生生活は有意義だった。
21. 専攻科で学んでよかった。

表 10. [専攻科]

修了生による当短期大学専攻科に関するアンケート 修了後 1 年 (R4 年 5 月)

(5 : そう思う 4 : やや思う 3 : どちらとも 2 : やや思わない 1 : 思わない) として点数化		24 回生 21.3 卒
	修了者数	20
	回収数	14
	回収率(%)	70.0
I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。		
1. 知識・技術・態度を活用して助産ケアを実践している。		3.9
2. 修了時に明確になった自己の母子看護観・倫理観を持って助産ケアをしている。		3.8
3. 助産師として自ら学び、研鑽している（研究、研修会・学会参加、社会貢献等）。		3.0
4. 他者への労り、奉仕心を持って常に助産ケアを実践している。		4.2
5. 先輩・後輩（学生）とともに学んでいる。		3.9
II. 当短期大学専攻科の「修了時の特性」についてお聞きします。		
6. 生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持って行動している。		3.9
7. 「助産師の倫理綱領」に沿った行動ができている。		3.9
8. 社会情勢の変化を的確にとらえることができている。		3.4
9. 生涯学習を行い自己研鑽ができている。		3.9
10. 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援している。		4.0
11. 高度周産期医療に対する知識・技術を高めている。		3.6
12. 科学的思考を持ち総合的に判断している。		3.8
13. 社会資源を活用し、他職種との協働・連携ができている。		4.0
14. 保健医療福祉チームの一員として連携・協働することができている。		4.2
15. 地域貢献の為に、自律的に学習を継続している。		3.9
III. 当短期大学専攻科の「学習、学生生活」についてお聞きします。		
16. カリキュラムは系統だった。		3.6
17. 授業科目は役に立った。		4.0
18. 臨地実習の指導体制は整っていた。		3.7
19. 在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた。		4.4
20. 学生生活は有意義だった。		4.0
21. 専攻科で学んでよかった。		4.3

Ⅱ.教育課程と学生支援

1. 教育課程

1)看護学科・専攻科の DP の明確化

本学では看護学科・専攻科ごとにディプロマポリシーを定めている。以下に看護学科・専攻科別に示す。

卒業判定・学位授与、修了認定

看護学科

看護学科の課程を修め、授業科目区分ごとの所定の単位 105 単位以上の単位を修得したうえで、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」を身につけた学生に卒業を認定し学位を授与する（表 1）。

表 1. 学修成果

知識・技能	(1)人間を総合的に理解できる。
	(2)科学的な思考ができる。
思考力・判断力・表現力	(3)専門的な知識・技術・態度を統合して看護実践できる。
主体性・協働性	(4)高い倫理観をもち、他者の尊厳と権利を擁護できる。
	(5)看護者として自己成長できる。
	(6)社会の変化に対応できる。
	(7)保健医療福祉チームの一員として自分の役割を認識し、協働できる。

(1)卒業要件（国家試験受験資格）

平成 21 年度入学生より適用

授業科目の区分		履修単位	
科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	人文科学	2 単位以上	16 単位以上
	社会科学	2 単位以上	
	自然科学	2 単位以上	
	外国語	4 単位以上	
	体育	1 単位以上	
小 計		16 単位以上	
人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進		14 単位	
健康支援と社会保障制度		7 単位	
小 計		21 単位	
看護の基本	基礎看護学	13 単位 (3)	64 単位以上
ライフサイクルと 生活の場に応じた 看護の方法	成人看護学	12 単位 (6)	
	老年看護学	7 単位 (4)	
	精神看護学	5 単位 (2)	
	在宅看護学	5 単位 (2)	
	小児看護学	5 単位 (2)	
	母性看護学	5 単位 (2)	
看護の総合	看護の総合	12 単位以上 (2)	
小 計		64 単位以上 (23)	
合 計		101 単位以上	

() は実習単位

令和4年度入学生より適用

授業科目の区分		履修単位	
科学的思考の基盤、 人間と生活・社会の理解	人間の理解	3 単位	16単位以上
	生活・社会の理解	2 単位	
	自然科学の理解	2 単位	
	国際交流の基礎	4 単位	
	感性と創造	2 単位	
	人間の理解、生活・社会の理解、自然科学の理解、国際交流の基礎、感性と創造の中から選択	3 単位以上	
小 計		16単位以上	
人体の構造と機能		7単位	
疾病の成り立ちと回復の促進		9単位	
健康支援と社会保障制度		6単位	
小 計		22単位	
ライフサイクルと 生活の場に応じた 看護の方法	基礎看護学	14 単位(3)	67単位以上
	地域・在宅看護学	9 単位(3)	
	成人看護学	12 単位(6)	
	老年看護学	7 単位(3)	
	小児看護学	6 単位(2)	
	母性看護学	6 単位(2)	
	精神看護学	6 単位(2)	
看護の統合	7 単位以上(2)		
小 計		67単位以上(23)	
合 計		105単位以上	

() 内は実習単位

(2)資格取得

看護師国家試験受験資格、保健師・助産師学校の受験資格、大学への編入学の受験資格

専攻科 母子看護学専攻

専攻科の課程を修め、授業科目区分ごとの所定の単位を修得し、且つ終了要件の 32 単位以上を修得したのものには、全ての女性および周産期にある母子とその家族に対して健康を支援し、地域母子医療・保健の向上に寄与できる助産師に相応したことを認め、修了を認定する（表 2）。

表 2. 学修成果

1. 広範な視野と高い見識を 培う能力	(1) 生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持つ。
	(2) 倫理観を持った行動ができる。
	(3) 社会情勢の変化を的確にとらえる。
2. 高い専門性を持った実践 能力を培う能力	(1) 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援する。
	(2) 高度周産期医療に対応する知識を持つ。
	(3) 科学的思考を持ち、総合的に判断する。
3. 地域の保健医療福祉水準 の発展に貢献する姿勢を 培う能力	(1) 社会資源を活用し、保健医療福祉の向上に貢献する。
	(2) 保健福祉医療チームの一員として多職種と連携し協働できる。
4. 助産師としての専門的自 立能力を培う能力	(1) 生涯学習を行い自己研鑽する。
	(2) 課題意識を持ち研究を行い、成果を活用する。

(1) 修了要件

授業科目の区分	履修単位数
専門科目	32単位以上
合 計	32単位以上

(2) 資格取得

助産師国家試験受験資格

受胎調節実地指導員認定講習終了資格

新生児蘇生法普及事業における NCPR 講習会 (A コース) の受験、申請資格

* 上記の資格保有者はインストラクター補助の申請資格

2) 看護学科・専攻科の CP の明確化

3) 短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう編成する教育課程

本学では看護学科・専攻科ごとにカリキュラムポリシーを定めている (本誌 P.23,29 を参照)。上記 2)3) についてまとめて示す。カリキュラムポリシーに沿った教育を効果的に実施するための学年歴・授業科目一覧・シラバス作成状況を以下に示す。

(1) 学年歴 看護学科・専攻科

日時	看護学科	日時	専攻科
3月30日 (水)	防災訓練 (2, 3年)	4月 5日 (火)	オリエンテーション
4月 2日 (土)	入寮説明会 (入寮1年)	6日 (水)	入学式
4・5・6日 (月.火.水.)	前期オリエンテーション	7日 (木)	オリエンテーション
6日 (水)	入学式	8日 (金)	授業開始
7日 (木)	前期授業開始 (1,2年)		

14日(木) 18日(月) 28日(木)	健康診断(3年) 領域別看護実習開始(3年:11月末まで) 健康診断(2年)		
5月2日(月) 4日(水) 12日(木) ~14日(土) 28日(土)	防災訓練(1年)健康診断(1年) 創立記念日 社会人基礎Ⅰ(野外活動) 第2回オープンキャンパス	5月2日(月) 5月23日(月)	防災訓練・健康診断 前期試験①、前期実習オリエンテーション
6月1日(水) 19日(日) 27日(月) ~7月2日(日)	模擬試験 相談会 地域・在宅看護実習(1年)	6月3日(金) 20日(月)	前期周産期援助実習5日間 (6/3,10,17,22,29) 前期試験②
7月9日(土) 7月15日(金) 28日(木)	第3回オープンキャンパス 基礎看護実習Ⅰ(1年) 前期授業終了(2年)	7月5日(火) 9日(土) 11・12日(月・火) 19日(火) 20日(水) 25日(月)	後期実習オリエンテーション① 第1回オープンキャンパス(WEB) 前期試験③ 第1回模擬試験 新生児援助実習(NICU見学)(7/20,21,22) 地域母子保健実習:8/19迄4施設で実施
8月1日(月) 8日(月) 9日(火) 16日(月) 20日(土) 21日(日) 22日(月)	前期試験開始(2年)8/8まで 前期授業終了(1年) 夏季休業(8/18まで) 模擬試験 第4回オープンキャンパス 第5回オープンキャンパス 基礎看護実習Ⅱ①(2年)9/3まで	8月21日(日)	第2回オープンキャンパス(対面)
9月5日(月) 14日(水) 26日(月) 30日(金)	基礎看護実習Ⅱ②(2年)9/17まで 前期試験(1年)9/22まで 後期オリエンテーション、前期試験予備期間9/29まで 後期授業開始(1,2年) 総合実習(3年)11/20まで	9月5・6日(月・火) 8日(木) 12日(月)	前期試験④ 後期実習オリエンテーション9/9まで 後期実習開始12/9まで(予備週12/15迄) 〔周産期援助実習 分娩期援助実習 助産管理実習〕
10月22日(土)	遙光祭 相談会	10月	第2回模擬試験
11月5日(土) 19日(土) 19日(土) 22日(火)	模擬試験 宣誓式 領域別看護実習・総合実習終了 国試補習講義①(3年)12月23日まで	11月24日(木)	帰校日 第3回模擬試験
12月10日(土) 19日(月) 12月19日(月) 26日(月)	模擬試験 後期授業年内終了(2年) 基礎看護実習Ⅰ(1年)12/23まで 後期授業年内終了(1年) 冬期休業1/3まで	12月9日(金) 10・15日(月・木) 16日(金) 19日(月)	後期実習終了(一部施設12/14迄実施) 学内実習 助産管理実習のまとめ 冬期休業開始
1月4日(水) 5日(木) 20日(金)	後期授業開始 国試補習講義②(3年)1月27日まで 模擬試験 模擬試験	1月4日(水) 6日(金) 16日(月) 17日(火)	始業開始(対面) 第4回模擬試験 後期試験、第5回模擬試験 補習講義(1/20迄対面授業)
2月3日(金) 6日(月) 12日(日) 17日(金)	後期授業終了 後期定期試験2/14まで 第112回看護師国家試験 試験予備期間2/21まで	2月9日(木)	第106回助産師国家試験
3月8日(水) 9日(木) 24日(金)	卒業式 学年末休業3/27まで 第112回看護師国家試験合格発表	3月8日(水) 24日(金)	修了式 第106回助産師国家試験合格発表

(2)授業科目一覧

看護学科 授業科目

(平成 21 年度入学生より適用)

授業科目の区分		単位数		内 訳			学 年 配 当 時 間						
		必 須	選 択	講 義	演 習	実 習	1 年次		2 年次		3 年次		
							前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	人文科学	哲 学		2	○				30				
		心理学Ⅰ(心理学概論)		2	○				30				
		心理学Ⅱ(現代社会と心理学)		1	○						15		
		論 理 学		2	○					30			
		文 学		2	○					30			
	社会科学	社 会 学		2	○			30					
		法 学		2	○				30				
		教 育 学		2	○			30					
		統 計 学		2	○				30				
	自然科学	物 理 学		2	○			30					
		化 学		2	○			30					
		生 物 学		2	○				30				
		情報科学		2	○				30				
	外国語	英語Ⅰ(コミュニケーション)	2			○		30	30				
		英語Ⅱ(リーディング)		2		○				30	30		
		ドイツ語		2		○				30	30		
	体育	体育実技Ⅰ(健康スポーツ)	1			○		30					
		体育実技Ⅱ(生涯スポーツ)		1		○				30			
	小 計		3	30				180	150	210	75		

看護学科（平成 21 年度入学生より適用）

授業科目の区分		単位数		内 訳			学 年 配 当 時 間					
		必修	選択	講義	演習	実習	1 年次		2 年次		3 年次	
							前期	後期	前期	後期	前期	後期
疾病の成り立ちと回復の促進 人体の構造と機能	解剖学	2		○			30	30				
	生理学	2		○			30	30				
	生化学	1		○			30					
	微生物学	1		○			30					
	薬理学	1		○				30				
	病理学	1		○				30				
	疾病総論	1		○				30				
	疾病治療論Ⅰ （循環器・呼吸器等の内科的治療）	1		○						30		
	疾病治療論Ⅱ （血液・神経等の内科的治療）	1		○						30		
	疾病治療論Ⅲ（外科総論）	1		○				30				
	疾病治療論Ⅳ（外科各論）	1		○						30		
	成育医療論	1		○					30			
社会保障制度 健康支援と	公衆衛生学	2		○					30			
	社会福祉	2		○						30		
	関係法規	1		○						15		
	健康と栄養	1		○			15					
	健康と運動	1		○				15				
小 計		21					135	195	120	75		

看護学科（平成 21 年度入学生より適用）

授業科目の区分		単位数		内 訳			学 年 配 当 時 間						
		必修	選択	講義	演習	実習	1 年次		2 年次		3 年次		
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	
看護の基本	基礎看護学	看護概論	2		○		30						
		看護の方法Ⅰ (看護実践の基盤)	2		○		60						
		看護の方法Ⅱ (日常生活行動への援助)	2		○		52	8					
		看護の方法Ⅲ-1 (診断・治療過程における援助)	2		○			60					
		看護の方法Ⅲ-2 (治療過程における援助)	1			○			30				
		看護の方法Ⅳ (看護過程)	1			○			30				
		基礎看護実習Ⅰ	1				○	5	40				
		基礎看護実習Ⅱ	2				○			90			
ライフサイクルと生活の場に応じた看護の方法	成人看護学	成人看護概論	1		○		15						
		成人看護Ⅰ (急激な変化への援助)	2		○				60				
		成人看護Ⅱ (長期的な経過への援助)	1		○					30			
		成人看護技術Ⅰ (健康障害をきたした対象)	1			○				30			
		成人看護技術Ⅱ (経験した技術の評価)	1			○						30	
		成人看護実習Ⅰ	3									135	
		成人看護実習Ⅱ	3									135	
	老年看護学	老年看護概論	1		○			15					
		老年看護Ⅰ (健康支援と健康障害時の援助)	1		○				30				
		老年看護Ⅱ (高齢者の援助技術)	1		○					30			
		老年看護実習Ⅰ	2									90	
		老年看護実習Ⅱ	2									90	
	精神看護学	精神看護概論	1		○			15					
		精神看護Ⅰ (精神の病態・診断・治療過程)	1		○				30				
		精神看護Ⅱ (精神状態に応じた援助)	1		○					30			
		精神看護実習	2									90	

ライフサイクルと生活の場に応じた看護の方法	在宅看護学	在宅看護概論	1		○				15			
		在宅看護	2		○					60		
		在宅看護実習	2			○					90	
	小児看護学	小児看護概論	1		○			15				
		小児看護Ⅰ (健康児と病児の援助)	1		○				30			
		小児看護Ⅱ (子どもの援助技術)	1		○					30		
		小児看護実習	2			○					90	
	母性看護学	母性看護概論	1		○			15				
		母性看護Ⅰ (妊娠前～分娩期の援助)	1		○				30			
		母性看護Ⅱ (産褥期と新生児期の援助)	1		○					30		
		母性看護実習	2			○					90	
	看護の総合	看護倫理	1		○			15				
		コミュニケーション論	1			○		30				
		生涯発達論	1		○		15					
		看護管理	1		○					15		
生活習慣と看護		2		○			30					
災害・救急看護		2		○					30			
社会活動			1		○		30					
国際医療福祉事情			1		○			4	26			
看護学セミナー		1			○				30			
看護研究			1		○						45	
総合実習		2			○						90	
小計		63	3				207	243	349	341	810	165
合計		87	33				522	588	679	491	810	165

看護学科（令和4年度入学生より適用）

授業科目の区分			単位数		内 訳			学 年 配 当 時 間					
			必修	選択	講義	演習	実習	1年次		2年次		3年次	
								前期	後期	前期	後期	前期	後期
科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	人間の理解	哲学		2	○						30		
		心理学入門		2	○				30				
		現代社会と心理学		1	○						15		
		論理学の基礎		2	○						30		
		文学		2	○						30		
		生涯発達論	1		○			15					
	生活・社会の理解	社会学		2	○				30				
		法学		2	○				30				
		教育学		2	○			30					
		統計学入門		2	○					30			
	自然科学の理解	物理学の基礎		2	○				30				
		化学の基礎		2	○				30				
		ヒトの生物学		2	○			30					
		情報科学		2	○				30				
	国際交流の基礎	コミュニケーション英語Ⅰ	2			○		30	30				
		コミュニケーション英語Ⅱ		2		○					30		
		ドイツ語の基礎		2		○					30		
	感性と創造	社会人基礎Ⅰ（野外活動）	1			○		30					
		社会人基礎Ⅱ（ボランティア活動）		1		○		30					
		健康スポーツ		1		○				30			
	小 計			4	31				165	180	90	165	

看護学科（令和4年度入学生より適用）

授業科目の区分		単位数		内 訳			学 年 配 当 時 間					
		必修	選択	講義	演習	実習	1年次		2年次		3年次	
							前期	後期	前期	後期	前期	後期
人体の構造と機能	人体の構造と機能Ⅰ	2		○			60					
	人体の構造と機能Ⅱ	2		○				60				
	生 化 学	1		○			30					
	微生物学	1		○			30					
	栄 養 学	1		○			15					
疾病の成り立ちと回復の促進	薬 理 学	1		○				30				
	病 理 学	1		○				30				
	疾病治療論Ⅰ	1		○			30					
	疾病治療論Ⅱ	1		○				30				
	疾病治療論Ⅲ	1		○				30				
	疾病治療論Ⅳ	1		○						30		
	疾病治療論Ⅴ	1		○						30		
	疾病治療論Ⅵ	1		○					30			
	疾病治療論Ⅶ	1		○					30			
社会保健制度 健康支援と	公衆衛生学	2		○					30			
	社会福祉	2		○				30				
	関係法規	1		○				15				
	健康と運動	1		○				15				
小 計		22					165	240	90	60		

看護学科（令和4年度入学生より適用）

授業科目の区分		単位数		内 訳			学 年 配 当 時 間					
		必修	選択	講義	演習	実習	1年次		2年次		3年次	
							前期	後期	前期	後期	前期	後期
ライフサイクルと生活の場に応じた看護の方法	基礎看護学	看護概論	2		○		30					
		看護倫理	1		○			15				
		看護の方法Ⅰ (看護実践の基盤となる技術)	2		○			60				
		看護の方法Ⅱ (日常生活行動への援助技術)	2		○			30	30			
		看護の方法Ⅲ (看護過程の活用方法)	1			○			30			
		看護の方法Ⅳ (病理的状态に応じた日常生活行動への援助技術①)	1			○			30			
		看護の方法Ⅴ (病理的状态に応じた日常生活行動への援助技術②)	1			○				30		
		看護の方法Ⅵ (看護過程を活用した日常生活行動への援助の方法)	1				○			30		
		基礎看護実習Ⅰ (看護師の役割の理解)	1					45				
		基礎看護実習Ⅱ (基本的欲求の状态に応じた日常生活行動への援助)	2							90		
	地域・在宅看護学	地域・在宅看護概論	1		○			15				
		地域・在宅看護Ⅰ (地域で暮らす生活者の看護)	1		○				15			
		地域・在宅看護Ⅱ (地域で生活する療養者と家族への看護)	2		○					30		
		地域・在宅看護技術	2			○					30	
		地域・在宅看護実習Ⅰ (地域で暮らす生活者の理解)	1					45				
		地域・在宅看護実習Ⅱ (在宅療養者の看護)	2									90
	成人看護学	成人看護概論	1		○			15				
		成人看護Ⅰ(慢性期看護)	1		○				30			
		成人看護Ⅱ(周手術期看護)	1		○					30		
		成人看護Ⅲ(がん看護)	1		○					30		
		成人看護技術	2			○					30	
		成人・老年看護実習Ⅰ (急性期看護)	3									135
		成人・老年看護実習Ⅱ (慢性期もしくは終末期看護)	3									135

ライフサイクルと生活の場に応じた看護の方法	老年看護学	老年看護概論	1		○			15					
		老年看護 (高齢者の心身機能の変化と生活機能を支える看護)	1		○				30				
		老年看護技術	2			○					30		
		老年看護実習Ⅰ (入院を必要とする高齢者の看護)	2				○					90	
		老年看護実習Ⅱ (多様な場で生活する高齢者の看護)	1				○					45	
	小児看護学	小児看護概論	1		○				15				
		小児看護 (発達段階と健康レベルに応じた子どもと家族の看護)	1		○					30			
		小児看護技術	2			○					30		
		小児看護実習Ⅰ (入院を必要とする子どもの看護)	1				○					45	
		小児看護実習Ⅱ (地域で生活する子どもの看護)	1				○					45	
	母性看護学	母性看護概論	1		○				15				
		母性看護 (周産期にある対象とその家族への看護)	1		○					30			
		母性看護技術	2			○					30		
		母性看護実習	2				○					90	
	精神看護学	精神看護概論	1		○				15				
		精神看護Ⅰ (精神症状に応じた看護)	1		○					15			
		精神看護Ⅱ (精神障害をもつ対象への看護)	2		○						30		
		精神看護実習	2				○					90	
	看護の統合	看護管理	1		○						15		
		災害・救急看護	1		○						30		
国際医療福祉事情			1		○				30				
看護学セミナー		1			○					30			
看護技術の統合		1			○						30		
看護研究			1		○						45		
統合実習		2				○						90	
小計		66	2				255	195	375	255	810	120	
合計		92	33				585	615	555	480	810	120	

専攻科 母子看護学専攻 授業科目

区分	授業科目	単位数		内 訳			学年配当時間	
		必修	選択	講義	演習	実習	前期	後期
専 門 科 目	基礎助産学	助産学概論	1		○			15
		女性の基礎科学	1		○			30
		母子の基礎科学	1		○			15
		性行動科学	1		○			15
		母性の心理・社会学	1		○			15
		家族社会学	1		○			15
		母子栄養学		1	○			15
		健康教育		1	○			15
		母子看護学研究Ⅰ	1			○		15
		母子看護学研究Ⅱ		2		○		60
	小 計		7	4				210
	助産診断・技術学	周産期の健康科学	1		○			30
		妊娠期の助産診断・技術学	2			○		45
		分娩期の助産診断・技術学	3			○		60
		産褥期の助産診断・技術学	2			○		45
		新生児期の健康科学	1		○			30
		新生児期の助産診断・技術学	1			○		30
	小 計		10					240
	地域母子保健	地域母子保健学Ⅰ	1		○			15
		地域母子保健学Ⅱ	1		○			15
	小 計		2					30
助産管理	助産管理	2		○			15	
小 計		2					15	
臨地実習 助産学実習	周産期援助実習	3				○	135	
	分娩期援助実習	6				○	270	
	地域母子保健実習	1				○	45	
	助産管理実習	1				○	45	
	健康教育実習		1			○	45	
小 計		11	1				540	
合 計		32	5				1035	

(3)シラバスの作成状況

Plan

- ①2022 年度シラバスの修正を学生に伝える。
- ②2023 年度シラバスの全科目の記載内容をシラバス検討小委員会で確認し、編集と発行を行う。
- ③学生が主体的・効果的な学習に役立てられるよう、記載事項を見直す。
- ④全教員にシラバス作成上の留意点を周知させる。

Do

- ①新型コロナウイルス感染拡大防止のため、授業日程や方法の変更について、その都度修正したシラバスを **WebClass** に掲載した。
- ②シラバス記載要領を見直した。
 - i. 筆記試験以外の評価方法について、評価基準を学生に明示することを記載した。
 - ii. 履修者へのコメントとは別に、準備学習の内容及び必要時間、課題に対するフィードバックの記載欄を設けた。
 - iii. シラバス記載要領とチェックリストを用いて、全科目の記載内容を確認した。

Check

修正したシラバスと時間割を **WebClass** に掲載したことで、変更内容について周知することができた。シラバス検討小委員会でシラバス原稿を確認したところ、記載事項の不足等があり、科目責任者に修正を依頼した。編集と発行のスケジュールは予定通り進められた。

Action

シラバスや時間割の訂正の周知について、**WebClass** の活用を継続する。シラバスの準備学習やフィードバック等の活用について、授業評価アンケート（学習態度）結果や成績評価から振り返り、記載事項を検討する。

4)職業又は实际生活に必要な能力を育成する教育課程と職業教育の実施

本学は短期大学設置基準に則り、編成した教育課程と職業教育を以下のように実施している。

教育指導

看護学科

(1)カリキュラムに関する計画と実施状況

Plan

- ①カリキュラム運用
- ②カリキュラム評価
- ③看護実践力の実態把握

Do

- ①カリキュラム運用

令和4（2022）年度入学生から新カリキュラムの運用が始まり、卒業要件は105単位以上である。新設科目である社会人基礎Ⅰ（野外活動）では、感染対策を行いながら実施した。2、3年次生は旧カリキュラムで運用しているため、関係法規、社会福祉、疾病治療論の一部において、1、2年次生合同授業となった。対面授業のための教室調整を行ったが、感染防止と学習効果をふまえてオンライン授業に変更した。新型コロナウイルス感染拡大のため、1年次の社会活動、2年次の国際医療福祉事情は、ボランティア活動や海外研修は行えず、課題に対するグループワークやレポートなどを行った。

②カリキュラム評価

前期・後期の試験結果は単位取得状況報告書の提出により確認した。科目GPAについて、科目間の平準化にむけて分析した。

③看護実践力の実態把握

技術到達度について、卒業時、および卒業後1年と3年の調査を行った。

Check

カリキュラムの運用・評価では、コロナ禍3年目であり、流動的に一部オンライン授業やLMS（学習管理システム）の活用により学生の学習支援に努めた。しかし、特に後期開講科目において、1、2年次生ともに再試験となる学生の人数が例年と比較すると増加傾向にある。

技術到達度では、令和2年度卒業生の卒業後1年目と平成30年度卒業生の卒業後3年目の調査を令和4年5月に実施した。卒業後1年目の回収率は84.5%であった。結果では、卒業時と比較し、ほぼ全ての項目で「単独でできる」の割合が増加していた。オムツ交換、バイタルサインズ測定、スタンダードプリコーションに基づく手洗い、必要な防護具の装着の項目は、全員が「単独でできる」と評価していた。卒業後3年目の回収率は83.9%であった。その結果でも、ほぼすべての項目で「単独でできる」と評価していた。ストーマを造設した患者の生活上の留意点の指導や沐浴など、病棟の特殊性がある技術では、評価が低かった。令和4年度卒業生の卒業時技術到達度レベルの調査は、令和5年2月に実施した。回収率は92.1%であった。清潔・衣生活援助、感染予防技術、安全管理の技術では、本学の技術到達度の設定よりも高く評価していた。看護師（社会人）の態度では、昨年度より全体的に低い結果となり、看護師（社会人）としての態度が十分に習得できていないと感じていることが分かった。

Action

カリキュラムの運用・評価では、コロナ禍での対応を継続する。1、2年次生の成績不振について原因と対策を検討する。2年次生の新カリキュラムを運用する。卒業時の技術到達度の結果を看護技術の教育・指導に活用する。

(2)初年次教育

Plan

目的：入学前の学習や生活から、能動的な学習活動と自律した学生生活に円滑に移行する。

- 目標：①大学で学ぶということを理解し、タイム・マネジメントを身につける。
 ②大学生に必要なスタディ・スキルを身につける。
 ③将来をイメージし、学習意欲をもつ。
 ④卒業までの学習の見通しを立てる。
 ⑤ルールやマナーを守り、社会人としての自覚と責任をもち行動する。
 ⑥自ら他者と関わり、人間関係を構築する。

目標	取り組み	担当者
①②	スタディ・スキルプログラム 1回 4/8(金) 大学で学ぶ 2回 4/15(金) 授業を聴く、ノートをとる 3回 4/22(金) テキストを読む① 4回 4/25(月) 情報モラルと情報セキュリティ 5回 4/26(火) テキストを読む② 6回 5/6(金) テキストを読む③ 7回 5/16(月) パソコンを使ったライティング・スキル 8回 5/27(金) レポートを書く	瀧山、浅見、 宮崎、増田
③④	ミーティング、面談等	アドバイザー
⑤	接遇指導	学生部委員会
⑥	グループワーク、ボランティア活動、課外活動等	各科目の担当教員

Do

目標①②：計画通り実施した。

目標③④：目指す看護師像を記述する等、意識づけを行った。

目標⑤⑥：接遇指導、課外活動については P.107～108 に記す。授業は各科目で実施・評価する。

Check

目標①②：プログラムへの参加は、ほぼ全員が参加していた。確認テスト・アンケートでは、授業で実践している学生は多いが、ノートをとる、レポートを書く方法を理解したという学生は4割程度であった。テキストを読む方法を理解したという学生は約8割であった。

目標③④：アドバイザーミーティングや面談を実施し、個々の学習状況等を把握しながら学習意欲や学習の見通しにつなげられた。

Action

目標①②：スタディ・スキルプログラムと授業科目の学習方法を連携させる。

専攻科 母子看護学専攻

(1)カリキュラムに関する計画と実施状況

Plan

①カリキュラム編成と本学専攻科のポリシーとの整合性について

実際の運用状況の確認として保健師助産師看護師学校養成所指定規則の変更に伴う様々な意図が網羅され、且つ本学専攻科のポリシーに沿うカリキュラム設計となっているか履修状況の確認と点検を行う。

②カリキュラム進捗について

助産教育における教科内容毎の基本的考え方と留意点を網羅しているか点検する。特に、指定規則に示されている分娩介助例数の確保につとめる。

③助産師教育の到達状況のアンケートの実施

- i. 「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」
- ii. 「助産師教育の技術項目と卒業時の到達度」

Do

①カリキュラム編成と本学専攻科のポリシーとの整合性について

令和4(2022)年度からのカリキュラムは、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の変更により、基礎助産学：6単位、助産診断・技術学：10単位、地域母子保健：2単位、助産管理：2単位、臨地実習：11単位／合計31単位以上となった。これを受け本学専攻科のカリキュラムの修了要件は、基礎助産学：7単位以上、助産診断・技術学：10単位、地域母子保健：2単位、助産管理：2単位、臨地実習：11単位以上／合計32単位とした。本学専攻科のカリキュラムポリシーである「女性と子どもの健康的な生活を支援するための教育理念と知識、周産期にある母子と家族のケアに必要な助産診断と実践のための基礎的能力を修得し、社会に貢献できる助産師を養成する教育課程を編成する」を達成できるよう編成し、さらに高度周産期医療に対応できる知識の修得を図った。

②カリキュラム進捗について

科目進捗については、新カリキュラムにおいても、助産学を系統的に学習できるよう、助産診断学に関する学科目の殆どを前期に集中させ、後期に知識の統合学習が効果的に図れるように助産学実習（臨地実習）を配置した。また、周産期に関する内容は、可能な限り経時的に学習が進められるように妊娠期、分娩期、産褥期・新生時期、産後期になるよう計画した。

助産学実習の内、特に指定規則に示される分娩の取り扱いについては、「分べんの自然な経過を理解するため、助産師又は医師の指導の下に、原則として正期産を10回程度直接取り扱うことを目安とする。」と記載されている。目標達成できるように、複数の施設で分べん介助実習を計画した。

③助産師教育の到達状況のアンケートの実施

- i. 「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」のアンケート〔2023.3.6〕実施
- ii. 「助産師教育の技術項目と卒業時の到達度」のアンケート〔2023.3.6〕実施

Check

①カリキュラム編成と本学専攻科のポリシーとの整合性について

新カリキュラムの適応となった全ての学生が指定規則に示す 31 単位以上、本学専攻科の修了要件である 32 単位以上を修得した。選択科目である「母子栄養学」は全ての学生が履修し、「健康教育」「母子看護学研究Ⅱ」「健康教育実習」については、履修生はなかったが、他科目で関連内容に触れるように心がけたため、概ね目標を到達できた。

②カリキュラム進度について

前期に机上学習を行い、後期に助産学実習を展開する計画は遂行できた。詳細には、前期の科目は医師の診療時間との兼ね合いで、必ずしも経時的に時間割を組むには至らなかった。

助産学実習は、今年度もコロナ禍にあり、実習施設の 1 日の受け入れ人数の制限や時短実習、夜間実習の時期の制限の担保を学内実習で補う結果となった。結果として学生の分娩介助例数の確保状況は、平均 8.9 例（最低 8 例、最高 10 例）と昨年よりも減少する結果となった。不足例数分を学内実習で対応したが、臨場感のある演習は、指導教員の確保を含め継続課題である。また、学内実習時に少人数で意見交換する機会は持てたが、事例カンファレンスの開催については継続課題となった。

③助産師教育の到達状況のアンケート調査の実施

「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」と「助産師教育の技術項目と卒業時の到達度」のアンケートはどちらも修了前の令和 5 年 3 月 6 日に調査を行った。時期として、修了前の忙しい時期ではなく、助産学実習の終了した 12 月か 1 月に調査したほうが記憶に新しく正確なデータが収集できそうである。

結果として、a の調査では大項目「Ⅰ.助産における倫理的課題に対応する能力」「Ⅱ. マタニティケア能力」「Ⅲ.ウイメンズヘルスケア能力」「Ⅳ.専門的自律能力」の到達目標を概ね達成できていた。詳細な 63 項目については、各科目に反映させ次年度に活用する予定である。b の調査は 30 項目であり、「1. 妊婦健康診査に係る手技」「2. 分娩進行の診断に係る手技」「3. 分娩介助に係る手技」「4. 異常発生時の母子への介入に係る手技」の到達目標を概ね達成できていた。しかしながら、本学の特徴である高度周産期に対応できる能力については、知識レベルに留まる項目もあり、技術の修得として、演習・実習で「指導の下で実施 できる」到達レベルにまで到達させたい。

Action

①カリキュラム編成と本学専攻科のポリシーとの整合性について

新カリキュラムが実施された初年度であるため、引き続き指定規則等を参考に本学専攻科のポリシーに沿うカリキュラム設計となっているか評価を行っていききたい。

②カリキュラム進捗について

科目進捗は、全てが都合良く経時的に組まれてはいない。そのため個々の学生が学習内容を再構築しながら進められるよう、今後も適時アナウンスし学習指導に努める必要がある。県内の周産期医療の環境変化は、本学専攻科の教育にも正常分娩の確保困難という形で学習進捗に影響しつつある。また、指導する助産師の偏在化も指導者の確保が困難になるという結果をもたらしている。今後も実習施設と指導者の確保、学習内容の充実等について継続課題としたい。

③助産師教育の到達状況のアンケートの実施

知識に留まっている異常発生時の母子への介入技術として、JCIMELS (ジェイシーメルス)のBコースを学習内容に盛り込めないか検討したい。

(1)授業について

Plan

- ①新カリキュラムにおける授業展開と非常勤講師との連携
- ②演習の調整、準備、実施
- ③学習マニュアルの活用、専任教員・非常勤教員の連携
- ④学習支援、国家試験対策

Do

今年度から新カリキュラムとなり、各非常勤講師に新カリキュラムの概要や国家試験出題基準の改訂について説明した。特に講義内で基礎助産学の一部「女性の基礎科学」「母子の基礎科学」および助産診断・技術学の「周産期の健康科目」は、妊娠期、分娩期、新生児期、産褥期といった周産期の段階と学生の学習段階に合わせて時間割を作成した。授業は、感染対策をした上ですべて対面授業を計画した。授業準備として講義資料を前日配付し、学生が事前学習を行い準備して受講できるようにした。学習システム WebClass の活用として、課題提出や資料の添付の他に分娩介助技術の動画をシステムからいつでも学習ができるようにした。

多くの非常勤講師と講義内容の確認や連絡・調整を行った。今年も川越クリニックをサテライトキャンパスとして使用した。

「会陰切開及び裂傷に伴う縫合技術」、「新生児蘇生法講習会 (NCPR)」の演習は、感染対策をした上で授業展開した。

なお、2022年度の専任教員及び非常勤講師を下記に示す (表3)。

表3. 2022年度の専任教員及び非常勤講師

専任教員	非常勤講師	
	法人内	法人外
教授1 講師1 助教1	29	13
3	42	

助産診断・技術学における技術演習は、講義前に4階ゼミ室2に必要な演習物品を準備し、放課後や休み時間等に既習の基礎技術のチェックを積極的に行えるように準備した。その基礎技術を踏まえた上で本演習では場面設定の展開で実践を行い、実習のイメージができるように工夫した。助産過程の展開については、各自の課題をもとにグループワークを行い、講義時間にフィードバックを行った。技術演習には、グループごとに非常勤講師が入り指導を行った。

今年度は、国家試験対策として5回の模擬試験を企画した。国家試験対策補習講義として1月に4日間にわたり、「周産期の健康科学」「新生児診断学」「地域母子保健学」をそれぞれ2コマずつ対面授業で実施した。

学習支援としてポートフォリオを活用し、入学後、実習開始前と実習終了後にポートフォリオを持参し、アドバイザー面接を行った。面接では、学生生活や国家試験に向けた学習状況の確認を行いサポートした。第106回助産師国家試験は、2月9日(木)に実施され、発表は3月24日(金)である。

Check

4月から計画通り対面授業で講義開始し、順調に終了した。感染対策をとりながらグループワークを行い、放課後や空き時間に少人数による基礎技術チェック演習を通して徐々にコミュニケーションがとれるようになった。さらに助産技術のグループ演習は、お互いの技術や実践の場をイメージすることで意見交換ができ、学びの成果を共有することに繋がった。助産過程の演習では、グループワークをしながら講義内の時間でフィードバックし、質疑応答で対応した。

課題提出にWebClassを利用したことは、学生の提出や印刷の無駄を省き教員が確認する上でも、効果的であった。実習準備の資料についてもWebClassを活用し、時間を有効活用することにつながった。

ポートフォリオの活用は、模擬試験の結果やレポート等を振り返り自身の学びに活かせるように声掛けしたが、学生全員が積極的に活用することはできていなかった。各自が修了時の到達目標を評価し、ポートフォリオに納め就職後に活用できるようにした。

新生児蘇生法講習会は、受講者が試験に合格し、認定資格の手続きを行うことができた。

Action

入学生は、新型コロナウイルス感染の影響を受け、看護学生時に母性看護学実習を臨地で実習できなかった学生や学内やオンライン学習のみであった。また、母性看護学実習だけではなく、他の領域実習もできていない学生が多くいた。基本的な知識や技術が十分実施できていないまま入学している現状である。次年度も講義前に修得して臨めるようにする。特にガウンテクニックや滅菌手袋の装着や滅菌操作については必ず実践していく必要がある。また、母性看護学で学んだ知識や技術を確認し、助産師教育の中では即実践の場で活かせるように実習の場面に即した演習にしていく。そのため、講義時間を有効に活用できるようにしていく必要がある。分娩介助技

術の基本的技術は、動画を利用し、自己学習を行い確実に習得する。そして様々な場面での助産技術の実践をイメージできるようにして実習に臨む必要がある。

助産過程の展開は、実際に反映するため記録の仕方を共通認識することも課題である。学習の手引書となる学習マニュアルを全教員が理解し、実習施設とも共有し、活用することで学生が理解を深めることができると考える。学生が事前に学習内容を理解し主体的・積極的に準備したことを講義・演習・実習で繋げた展開できるようにする。

本学専攻科は、4~7月までに講義科目ほぼ全ての科目を学び、後期実習3ヶ月間があり、国家試験までの期間は短くハードスケジュールである。学習マニュアルを活用し、学生が助産過程と助産技術を根拠に基づいた実践ができるよう支援していく。

5) 看護学科・専攻科の AP の明確化

本学では看護学科・専攻科ごとにアドミッションポリシーを定めている（本誌 P.26,29 を参照）。アドミッションポリシーは学校教育法施行規則に基づき、募集要項に明記しウェブサイトにも公開している。

6) 短期大学及び看護学科・専攻科の学修成果の明確化

本学では看護学科・専攻科ごとに学修成果を定めている（本誌 P.22~23,29 を参照）。学生便覧・シラバス・ウェブサイトなどに明記し、学生・保護者・教職員などに周知を図っている。

7) 学修成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組み

学修成果の獲得状況を量的・質的に測定する仕組みは以下の通りである。

(1) 量的データ

①成績評価

Plan

- i. シラバスに記載された成績評価方法及び成績評価基準に沿って成績評価を行う。
- ii. 成績評価方法及び成績評価基準は、科目責任者が授業内で説明する。
- iii. 成績評価は S・A・B・C・D の 5 段階で表し、S・A・B・C を合格、D を不合格とする。

Do

対面と一部オンラインで授業を実施し、Plan に沿って科目の成績評価を行った。感染状況により急遽、授業方法や試験方法を変更せざるを得ない状況になった場合、学生が不利にならないように対応した。

Check

成績評価は、小テストやレポートなどの授業内試験、実技試験や筆記試験を行う定期試験、学習態度など、多様な方法で行われた。一部の科目では学習管理システム WebClass を活用した試験を実施した。試験結果は感染対策を考慮した方法（分散、個別、WebClass の活用など）でフィードバックを行った。フィードバックや補講を実施した後に再試験として筆記試験やレポートなどを実施したが、成績不振となる学生がみられた。

Action

成績評価は、多様な成績評価方法で行っている。授業科目間の成績評価基準の平準化への取り組みとして、科目 GPA を分析する。

②留年・退学・休学・復学・除籍者数：令和4年4月1日～令和5年3月31日

	留年*			退学			休学			復学			除籍		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
看護学科	0	0	15	6	5	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0
専攻科	0	—	—	0	—	—	0	—	—	0	—	—	0	—	—

*留年は令和4年度末に決定した者

③卒業生数・修了者数（令和5年3月卒業・修了者）

看護学科 卒業生： 89名

専攻科 母子看護学専攻 修了者： 21名

④国家試験合格状況

i. 看護学科：看護師国家試験（令和3年3月～令和5年3月卒業生：括弧内は合格率%）

	新卒者		既卒者		新卒+既卒		全国合格率
	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	
第110回(令和3年)	106	98(92.4)	9	4(44.4)	115	102(88.7)	(90.4)
第111回(令和4年)	90	88(97.8)	12	8(66.7)	102	96(94.1)	(91.3)
第112回(令和5年)	88	85(96.6)	4	2(50.0)	92	87(94.5)	(90.8)

ii. 専攻科 母子看護学専攻：助産師国家試験（令和3年3月～令和5年3月修了生：括弧内は合格率%）

	新卒者		既卒者		新卒+既卒		全国合格率
	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	
第104回(令和3年)	20	20(100)	—	—	20	20(100.0)	(99.6)
第105回(令和4年)	19	19(100)	—	—	19	19(100.0)	(99.4)
第106回(令和5年)	21	19(90.5)	—	—	21	19(90.5)	(95.6)

⑤就職状況

i. 看護学科 (令和4年度卒業生 就職状況：令和5年3月31日現在)

就 職 先		人 数
埼玉医科大学関連病院	埼玉医科大学病院	80
	埼玉医科大学国際医療センター	
	埼玉医科大学総合医療センター	
	埼玉医療福祉会	
未定		1
進学		8
合 計		89

ii. 専攻科 母子看護学専攻 (令和4年度修了生 就職状況：令和5年3月31日現在)

就 職 先	人 数
埼玉医科大学関連病院	16
県内他病産院	0
県外病産院	5
合 計	21

⑥卒業生の大学等への進学状況

i. 看護学科 (令和5年度に進学する者：令和5年3月31日現在：学科で把握している者のみ)

進学先	助産師養成	保健師養成	合計
人数	7	1	8

ii. 専攻科の資格取得

助産師国家試験受験資格

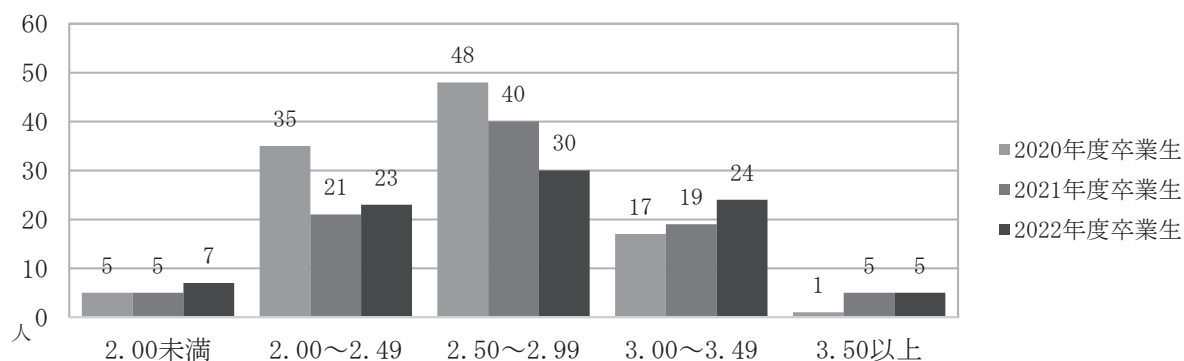
受胎調節実地指導員認定講習終了資格

新生児蘇生法普及事業における N CPR 講習会 (A コース) の受験、申請資格

*上記の資格保有者はインストラクター補助の申請資格

⑦GPA 分布図

看護学科



⑧学位授与率

看護学科

卒業年度	学生数（3年次生）	学位授与者数	学位授与率
2020年度	115人	106人	92.2%
2021年度	102人	90人	88.2%
2022年度	108人	89人	82.4%

※学生数は5月1日現在の人数

(2)質的データ

看護学科では令和4年度より学修成果のルーブリック自己評価表を用いて、年に2回自己評価を実施している。学生自身で、学修成果7項目をレーダーチャートに可視化している。

8) 学生の卒業後評価への取り組みの実施

卒業生の就職先である埼玉医科大学グループの外部アドバイザー会議、看護学生実習協議会などの情報を聴取している。

2. 学生支援

1)学修成果の獲得に向けた教育資源の有効活用

(1)教員は、学修成果の獲得に向けて責任を果たしている。教員はシラバスに示した到達目標・評価方法・評価基準に基づいて学修成果の獲得状況を科目担当者が評価し学則に則

り S は 90 点以上、A は 80 点以上、B は 70 点以上、C は 60 点以上、D は 60 点未満とし、C 以上を合格とし単位を認定している。

授業計画や学生に対する履修指導、定期試験の調整・運営などは教務委員会が担っている。詳細は本誌 P.132 を参照する。

(2)学生による授業評価

Plan

授業評価は「教員各自が担当科目の授業方法を向上させ、学生の教育満足度を上げる方法の 1 つとする」という目的で、看護学科、専攻科の非常勤教員を含む全教員で行っている。評価用紙は「講義用」「演習用」「臨地実習用」の 3 種類 (P.80～84) である。

Do

- ①授業評価アンケートはそれぞれの項目を 5 段階評価にし、合計得点を 100 点に換算して、講義用、演習用、臨地実習用の平均を科目毎にレーダーチャートで表している。この結果は「学生による授業評価アンケート集計報告書」として教員のみではなく学生にも公開している（学生による授業評価アンケート集計報告書参照）。2021 年度からは、授業評価アンケート集計結果を科目毎だけでなく、項目毎の平均点を出している。項目毎の結果はホームページに掲載している。
- ②2017 年度から教育の質の向上を図ることをねらいとして、全専任教員が授業評価アンケートの集計結果を基に授業改善策を立案し、授業実施後に評価した結果を看護学科長、専攻科長に提出している。

Check

- ①2020 年度から新型コロナウイルス感染症対策のため遠隔授業が導入され、2022 年度は WebClass を効果的に活用しながら対面授業を中心に授業が行われた。看護学科の大半の科目は、回収率が 80%以上であったが、遠隔授業によるアンケート実施のタイミングなどの影響か、授業評価アンケートの回収率が 50%以下のものも数件あった。特に非常勤講師の回収率が低いことから、回収方法について検討する必要がある。専攻科は、1 科目以外 100%の回収率であった。専任教員の評価結果は講義、演習、臨地実習ともに 80 点以上であった。学生からは概ね満足が得られている授業であったと考えられる。

臨地実習の授業評価アンケート結果は、看護学科では 90 点以上の得点であった。対象学生や実習施設的环境も異なり変化しているので一概に比較できないが、実習の評価がアップしている。新型コロナウイルス感染症対策のため、臨地実習は実践やコミュニケーション時間に制限はあるものの、昨年度よりも実践できる内容が増えて臨地実習の学びができるようになった。このため満足度が高くなったのではないかと考えられる。臨地実習の学習方法は学内に置き換えられた部分もあるが、教材の工夫等により、昨年度よりもより臨地での学習に近いものが工

夫して実施された。しかし従来の到達目標とは若干異なるので、満足度と達成度は相関していないことが推察された。

専攻科の臨地実習の授業評価アンケート結果は、「周産期援助実習」81.4点、「分娩期援助実習」86.3点であった。昨年度の得点より低下しているが、概ね満足が得られている。専攻科の学生はそれぞれ異なる施設において少人数で実習するため、看護学科の学生と比べ、分娩期の援助を直接、体験するという、より主体的な学習姿勢が望まれる。学生は、この体験回数が自己の学習成果の指標となるため、満足度が高かったのではないかと考えられる。

講義の項目毎の平均点で、看護学科において最も高かったのは、「シラバスにほぼ沿うように進められた」、「迷惑行為をしなかった」が4.8ポイントであり、最も低かった項目は、「不明な点は、担当教員に質問した」で4.3ポイントであった。昨年度と同様の結果であった。演習科目では、「迷惑行為をしなかった」が4.9ポイントで最も高く、「教員のデモンストレーション等は適切であった」、「レポートの量・提出期限は適切であった」が4.5ポイントで最も低かった。昨年度、最も低かった「レポートの書き方・考察・学習課題の指導」については、0.2ポイント上昇したことから、科目毎に指導を振り返り改善したことが伺える。臨地実習は、29項目中14項目が4.8ポイントであることから、概ね満足が得られていると考える。最も低かった項目「記録物の量は適切であった」、「事前課題の提示の時期・量は適切であった」は、昨年と同じ4.6ポイントであった。臨地実習の目標に到達するために必要な記録物の量であることを学生に説明するとともに、課題の提示時期については学生が主体的に取り組めるよう検討する必要がある。

専攻科の講義の項目毎の平均点で最も高かったのは、「迷惑行為をしなかった」で4.8ポイントであり、最も低かった項目は、「講義を受けるための事前学習(シラバスの確認・予習等)を行った」、「不明な点は、教員に質問した」でともに4.2ポイントであった。授業評価した際に、学生自身で学習態度を振り返ることができている。演習では、「演習中は積極的に取り組んだ」、「迷惑行為をしなかった」が4.8ポイントで最も高く、「学生の知識・能力等に合わせて進められていた」が4.4ポイントで最も低かった。臨地実習では、「積極的(意欲的)・主体的に取り組む、常に学ぶ姿勢をもっていた」、「常に倫理観をもって取り組んだ」が4.7ポイントで最も高く、「指導者(スタッフ)と連携をとり、指導に一貫性があった」、「実習開始・終了時間が必要以上に超過しないように配慮していた」が3.7ポイントと最も低かった。「指導者(スタッフ)と連携をとり、指導に一貫性があった」については、昨年度も最も低かった項目であったため、今まで以上に指導者(スタッフ)と報告・連絡・相談を随時行っていく必要がある。また、対象学生が異なるため一概に比較はできないが、昨年度と比較して全体的に平均点が低下している。これは、専任教員の欠員が大きく影響していると考えられる。臨地実習においては、非常勤教員の協力を得られたが、様々な調整に少数の専任教員が携わっていたため、学生個々が満足できるような十分な関わりができなかったのではないかと考える。

②学生による授業評価アンケートの集計結果の活用では、教員個々が担当した授業の評価結果が

最も低かったものについて、その原因の分析と改善策を考え実行してきた。このように教員個々が PDCA サイクルを稼働しながら授業改善を行うことや、ティーチングポートフォリオを作成することによって、さらに教育の質は向上すると考える。

- ③看護学科は、従来実施してきた授業評価アンケートの「学習態度」の自己分析を、教務委員会で実施する「科目の PDCA」において、学修の達成状況を振り返る際に学習態度も分析するよう促した。

Action

- ①学生の教育満足度をさらに上げるために以下の内容を実施する。
自己点検・評価委員会、IR 委員会のデータを共有しながら、学生の満足度のみではなく、実質的な学力向上の方策を検討する。
- ②授業評価アンケート項目を見直し、より実態に即した授業評価を実施する。
- ③学生の学習態度に関する自己分析を他の委員会と共有しながら評価表の活用を高める工夫をする。

【授業評価アンケート】

看護学科

授業評価アンケート(講義用)

埼玉医科大学短期大学
自己点検・評価委員会

このアンケートは、講義担当教員が、次回からの講義をより良いものにするための基礎的資料を得ることを目的として行われるものです。ご自身の体験を、公正に示して下さいよう協力をお願いします。

この講義について下記の評価をマークシートに記入して下さい。

[A:満足 B:やや満足 C:普通 D:やや不満 E:不満]

1. 教員の声の大きさは適切であった。
2. 話し方は明快で、その速さは適切であった。
3. 教員の熱意が感じられた。
4. 教科書、参考資料(プリント等)の使用は適切であった。
5. 黒板・視聴覚機器の使用は適切であった。
6. 参考文献等の紹介は適切であった。
7. シラバスにほぼ沿うように進められた。
8. 要点が理解できる内容であった。
9. 講義の内容はまとまりがあり、順序立てて行われていた。
10. 他の講義とのつながりが説明されていた。
11. 講義は学生の知識・力量等に合わせて進められた。
12. 学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つよう努めていた。
13. 進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。
14. 迷惑行為(私語、携帯電話の操作等)に対して適切な対応をしていた。
15. 集中して聴ける講義であった。
16. 知的好奇心が刺激される講義であった。
17. 新しいものの見方が得られる講義であった。
18. さらに深く学びたいと思える講義内容であった。
19. 総合的にこの講義は良かった。

下記項目についてはご自身に関して下記の評価を記入して下さい。

[A:あてはまる B:ややあてはまる C:普通 D:ややあてはまらない E:あてはまらない]

20. 講義を受けるための事前準備(シラバスの確認・予習等)を行った。
21. 講義中は集中して聴いていた。
22. 迷惑行為をしなかった。
23. 教員の説明内容を積極的に書き留めた。
24. 不明な点は、担当教員に質問した。
25. 講義内容は授業中に理解できた。

看護学科

授業評価アンケート（演習用）

埼玉医科大学短期大学
自己点検・評価委員会

このアンケートは、次回からの演習をよりよいものにするための基礎的資料を得ることを目的として行われるものです。ご自身の体験を、公正に示して下さいよう協力をお願いします。

この演習について下記の評価をマークシートに記入して下さい。
尚、該当しない項目には「C」を、マークして下さい。

[A：満足 B：やや満足 C：普通 D：やや不満 E：不満]

1. 演習に使用する材料や物品は十分に準備されていた。
2. 教科書、参考資料（プリント等）の使用方法・量は適切であった。
3. 要点が理解できる内容であった。
4. 演習に使用する器具・機器の使用法の説明が具体的でわかりやすかった。
5. 教員のデモンストレーション等は適切であった。
6. 教員の熱意が感じられた。
7. レポートの量・提出期限は適切であった。
8. レポートの書き方・考察の指導は適切であった。
9. 提出した学習課題の指導は適切であった。
10. 提出した課題の返却時期は適切であった。
11. 正しい知識・技術を習得できるように、その都度、教員は指導していた。
12. 進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。
13. 学生の知識・力量等に合わせて進められた。
14. 学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。
15. 迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。
16. 積極的に参加できる演習であった。
17. さらに深く学びたいと思える演習内容であった。
18. 総合的にこの演習は良かった。

下記項目についてはご自身に関して下記の評価を記入して下さい。

[A：あてはまる B：ややあてはまる C：普通 D：ややあてはまらない E：あてはまらない]

19. 演習を受けるための事前準備（シラバスの確認・予習等）を行った。
20. 演習中は積極的に取り組んだ。
21. 迷惑行為をしなかった。
22. グループワークは協調性をもって行えた。
23. 不明な点は、担当教員に質問した。
24. 演習内容は授業中に理解できた。

授業評価アンケート（講義用）

このアンケートは、講義担当教員が次回からの講義をより良いものにするための基礎的資料を得ることを目的として行われるものです。ご自身の体験を、公正に示して下さいよう協力をお願いします。

この講義について下記の評価をマークシートに記入して下さい。

[A：満足 B：やや満足 C：普通 D：やや不満 E：不満]

1. 教員の声の大きさは適切であった。
2. 話し方は明快で、その速さは適切であった。
3. 教員の熱意が感じられた。
4. 教科書、参考資料（プリント等）の使用は適切であった。
5. 黒板・視聴覚機器の使用は適切であった。
6. 参考文献等の紹介は適切であった。
7. シラバスにほぼ沿うように進められた。
8. 要点が理解できる内容であった。
9. 講義の内容はまとまりがあり、順序立てて行われていた。
10. 他の講義とのつながりが説明されていた。
11. 講義は学生の知識・能力等に合わせて進められた。
12. 学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。
13. 進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。
14. 迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。
15. 集中して聴ける講義であった。
16. 知的好奇心が刺激される講義であった。
17. 新しいものの見方が得られる講義であった。
18. 次の課題が明確になり、さらに深く学びたいと思える講義内容であった。

下記項目についてはご自身に関して下記の評価を記入して下さい。

[A：あてはまる B：ややあてはまる C：普通 D：ややあてはまらない E：あてはまらない]

19. 講義をうけるための事前学習（シラバスの確認・予習等）を行った。
20. 講義中は集中して聴いていた。
21. 迷惑行為をしなかった。
22. 不明な点は、教員に質問した。
23. 講義内容は授業中に理解できた。

専攻科

専攻科演習用

授業評価アンケート（演習用）

このアンケートは、次回からの当演習をより良いものにするための基礎的資料を得ることを目的として行われるものです。ご自身の体験を、公正に示して下さいよう協力をお願いします。

この演習について下記の評価をマークシートに記入して下さい。

尚、該当しない項目には「C」を、マークして下さい

[A：満足 B：やや満足 C：普通 D：やや不満 E：不満]

1. 演習に使用する材料や物品は十分に準備されていた。
2. 教科書、参考資料（プリント等）の使用方法・量は適切であった。
3. 演習に使用する器具・機器の使用法が具体的でわかりやすかった。
4. 教員のデモンストレーション等は適切であった。
5. 要点が理解できる内容であった。
6. 教員の熱意が感じられた。
7. 正しい知識・技術を習得できるようにその都度、教員は指導していた。
8. 進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。
9. 学生の知識・能力等に合わせて進められた。
10. 学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。
11. 迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。
12. 学習課題の量・提出期限は適切であった。
13. 学習課題の指導は適切であった。
14. 積極的に参加できる演習であった。
15. 次の課題が明確になり、さらに深く学びたいと思える演習内容であった。

下記項目についてはご自身に関して下記の評価を記入して下さい。

[A：あてはまる B：ややあてはまる C：普通 D：ややあてはまらない E：あてはまらない]

16. 演習をうけるための事前学習（シラバスの確認・予習等）を行った。
17. 演習中は積極的に取り組んだ。
18. 迷惑行為をしなかった。
19. グループワークは協調性をもって行えた。
20. 不明な点は、教員に質問した。
21. 演習内容は授業中に理解できた。

授業評価アンケート（臨地実習用）

このアンケートは、臨地実習をよりよいものにするための基礎的資料を得ることを目的として行われるものです。ご自身の体験を、公正に示して下さいをお願いします。

この臨地実習(以下、実習)について下記の評価をマークシートに記入して下さい。

前半は、実習担当教員に関する評価項目であり、後半はご自身に関する評価項目になっております。

〔 A：満足 B：やや満足 C：普通 D：やや不満 E：不満 F：該当外〕

【教材・教具】

1. 実習要項やオリエンテーション資料はわかりやすかった。
2. 実習で使用する資料や物品は準備されていた。
3. 参考文献などの紹介や使用方法の説明は適切であった。

【学習環境】

4. 指導者（スタッフ）と連携をとり、指導に一貫性があった。
5. 学生が対象者（患者・家族等）とうまく関わられるように配慮していた。
6. 学生がスタッフとうまく関わられるように配慮していた。
7. 報告・連絡・相談がしやすい雰囲気を作っていた。
8. 学生が望む体験ができるような機会を作っていた。
9. 記録する場所や記録の保管場所、カンファレンスルームなどを確保できるように調整していた。

【実習内容・方法】

10. オリエンテーションは、実習の目的・目標・実習内容・実習方法が具体的でわかりやすかった。
11. 学生の看護観を深める実習内容であった。
12. 場面（行動計画・援助場面・カンファレンス）に合わせて適切な指導をしていた。
13. 正しい知識・技術・適切な態度を習得できるように、その都度、指導していた
14. 対象者の個性を適確に捉え、計画・実施・評価の一連の過程を実施できるよう指導していた。
15. 看護者としてのモデルを示していた。

【態度】

16. 熱意や誠実性が感じられた。
17. 学生の人格を尊重した関わりであった。

【学習課題】

18. 記録物の量は適切であった。
19. 事前課題の提示の時期・量は適切であった。

【学生への配慮】

20. 実習開始・終了時間が必要以上に超過しないよう配慮していた。
21. 学生の知識・力量などに合わせて指導していた。
22. 学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。

【総合】

23. さらに深く学びたいと思える実習であった。
24. この実習指導は良かった。

ご自身に関して下記の評価をマークシートに記入して下さい。

〔 A：あてはまる B：ややあてはまる C：普通 D：ややあてはまらない E：あてはまらない 〕

【学習態度】

25. 実習に臨むための事前準備（シラバスや実習要項の確認・予習・実技練習）を行った。
26. 積極的（意欲的）・主体的に取り組み、常に学ぶ姿勢をもっていた。
27. 常に倫理観をもって取り組んだ。
28. チームメンバーの一員として、行動（責任ある行動、約束を守る、協力する）した。

【内容の理解】

29. この実習の目的・目標が達成できた。

【授業評価アンケートの項目毎の平均点】

本学では、平成7年度から講義・演習に対して、さらに令和元年度からは臨地実習に対する授業評価も加え、毎年、学生による授業評価アンケートを実施している。

アンケートの結果は、「学生による授業評価アンケート集計報告書」として、教職員に配布し、学生には閲覧できるようにしている。

教員は、アンケート結果を分析し、次年度の授業改善に活かせるように、年度末に授業改善用紙を記載し、看護学科長・専攻科長に提出している。

【評価基準】

A（5点）：満足 B（4点）：やや満足 C（3点）：普通 D（2点）：やや不満 E（1点）：不満

看護学科（講義）

番号	項目	平均点
1	教員の声の大きさは適切であった。	4.7
2	話し方は明快で、その速さは適切であった。	4.7
3	教員の熱意が感じられた。	4.7
4	教科書、参考資料（プリント等）の使用は適切であった。	4.7
5	黒板・視聴覚機器の使用は適切であった。	4.7
6	参考文献等の紹介は適切であった。	4.7
7	シラバスにほぼ沿うように進められた。	4.8
8	要点が理解できる内容であった。	4.7
9	講義の内容はまとまりがあり、順序立てて行われていた。	4.7
10	他の講義とのつながりが説明されていた。	4.7
11	講義は学生の知識・力量等に合わせて進められた。	4.7
12	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つよう努めていた。	4.7
13	進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。	4.7
14	迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。	4.7
15	集中して聴ける講義であった。	4.7
16	知的好奇心が刺激される講義であった。	4.7
17	新しいものの見方が得られる講義であった。	4.7
18	さらに深く学びたいと思える講義内容であった。	4.7
19	総合的にこの講義は良かった。	4.7
20	講義を受けるための事前準備（シラバスの確認・予習等）を行った。	4.4
21	講義中は集中して聴いていた。	4.7
22	迷惑行為をしなかった。	4.8
23	教員の説明内容を積極的に書き留めた。	4.7
24	不明な点は、担当教員に質問した。	4.3
25	講義内容は授業中に理解できた。	4.6

看護学科（演習）

番号	項目	平均点
1	演習に使用する材料や物品は十分に準備されていた。	4.8
2	教科書、参考資料（プリント等）の使用方法・量は適切であった。	4.7
3	要点が理解できる内容であった。	4.7
4	演習に使用する器具・機器の使用法の説明が具体的でわかりやすかった。	4.7
5	教員のデモンストレーション等は適切であった。	4.5
6	教員の熱意が感じられた。	4.8
7	レポートの量・提出期限は適切であった。	4.5
8	レポートの書き方・考察の指導は適切であった。	4.6
9	提出した学習課題の指導は適切であった。	4.6
10	提出した課題の返却時期は適切であった。	4.6
11	正しい知識・技術を習得できるように、その都度、教員は指導していた。	4.7
12	進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。	4.7
13	学生の知識・力量等に合わせて進められた。	4.7
14	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。	4.8
15	迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。	4.8
16	積極的に参加できる演習であった。	4.8
17	さらに深く学びたいと思える演習内容であった。	4.7
18	総合的にこの演習は良かった。	4.7
19	演習を受けるための事前準備（シラバスの確認・予習等）を行った。	4.7
20	演習中は積極的に取り組んだ。	4.8
21	迷惑行為をしなかった。	4.9
22	グループワークは協調性をもって行えた。	4.8
23	不明な点は、担当教員に質問した。	4.7
24	演習内容は授業中に理解できた。	4.7

看護学科（臨地実習）

番号	項目	平均点
1	実習要項やオリエンテーション資料はわかりやすかった。	4.7
2	実習で使用する資料や物品は準備されていた。	4.8
3	参考文献などの紹介や使用方法の説明は適切であった。	4.7
4	指導者（スタッフ）と連携をとり、指導に一貫性があった。	4.7
5	学生が対象者（患者・家族等）とうまく関わられるように配慮していた。	4.7
6	学生がスタッフとうまく関わられるように配慮していた。	4.8
7	報告・連絡・相談がしやすい雰囲気を作っていた。	4.7
8	学生が望む体験ができるような機会を作っていた。	4.8
9	記録する場所や記録の保管場所、カンファレンスルームなどを確保できるように調整していた。	4.8
10	オリエンテーションは、実習の目的・目標・実習内容・実習方法が具体的でわかりやすかった。	4.7
11	学生の看護観を深める実習内容であった。	4.8
12	場面（行動計画・援助場面・カンファレンス）に合わせて適切な指導をしていた。	4.7
13	正しい知識・技術・適切な態度を習得できるように、その都度、指導していた	4.8
14	対象者の個別性を適確に捉え、計画・実施・評価の一連の過程を実施できるよう指導していた。	4.8
15	看護者としてのモデルを示していた。	4.7
16	熱意や誠実性が感じられた。	4.8
17	学生の人格を尊重した関わりであった。	4.7
18	記録物の量は適切であった。	4.6
19	事前課題の提示の時期・量は適切であった。	4.6
20	実習開始・終了時間が必要以上に超過しないよう配慮していた。	4.7
21	学生の知識・力量などに合わせて指導していた。	4.8
22	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。	4.8
23	さらに深く学びたいと思える実習であった。	4.8
24	この実習指導は良かった。	4.8
25	実習に臨むための事前準備（シラバスや実習要項の確認・予習・実技練習）を行った。	4.7
26	積極的（意欲的）・主体的に取り組み、常に学ぶ姿勢をもっていた。	4.7
27	常に倫理観をもって取り組んだ。	4.8
28	チームメンバーの一員として、行動（責任ある行動、約束を守る、協力する）した。	4.8
29	この実習の目的・目標が達成できた。	4.7

専攻科（講義）

番号	項目	平均点
1	教員の声の大きさは適切であった。	4.6
2	話し方は明快で、その速さは適切であった。	4.5
3	教員の熱意が感じられた。	4.7
4	教科書、参考資料（プリント等）の使用は適切であった。	4.5
5	黒板・視聴覚機器の使用は適切であった。	4.5
6	参考文献等の紹介は適切であった。	4.6
7	シラバスにほぼ沿うように進められた。	4.6
8	要点が理解できる内容であった。	4.4
9	講義の内容はまとまりがあり、順序立てて行われていた。	4.4
10	他の講義とのつながりが説明されていた。	4.4
11	講義は学生の知識・能力等に合わせて進められた。	4.4
12	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。	4.5
13	進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。	4.5
14	迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。	4.5
15	集中して聴ける講義であった。	4.5
16	知的好奇心が刺激される講義であった。	4.5
17	新しいものの見方が得られる講義であった。	4.6
18	次の課題が明確になり、さらに深く学びたいと思える講義内容であった。	4.5
19	講義をうけるための事前学習（シラバスの確認・予習等）を行った。	4.2
20	講義中は集中して聴いていた。	4.6
21	迷惑行為をしなかった。	4.8
22	不明な点は、教員に質問した。	4.2
23	講義内容は授業中に理解できた。	4.4

専攻科（演習）

番号	項目	平均点
1	演習に使用する材料や物品は十分に準備されていた。	4.6
2	教科書、参考資料（プリント等）の使用方法・量は適切であった。	4.6
3	演習に使用する器具・機器の使用方法が具体的でわかりやすかった。	4.5
4	教員のデモンストレーション等は適切であった。	4.5
5	要点が理解できる内容であった。	4.6
6	教員の熱意が感じられた。	4.7
7	正しい知識・技術を習得できるようにその都度、教員は指導していた。	4.7
8	進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。	4.5
9	学生の知識・能力等に合わせて進められた。	4.4
10	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。	4.7
11	迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。	4.7
12	学習課題の量・提出期限は適切であった。	4.7
13	学習課題の指導は適切であった。	4.6
14	積極的に参加できる演習であった。	4.7
15	次の課題が明確になり、さらに深く学びたいと思える演習内容であった。	4.7
16	演習をうけるための事前学習（シラバスの確認・予習等）を行った。	4.5
17	演習中は積極的に取り組んだ。	4.8
18	迷惑行為をしなかった。	4.8
19	グループワークは協調性をもって行えた。	4.7
20	不明な点は、教員に質問した。	4.5
21	演習内容は授業中に理解できた。	4.5

専攻科（臨地実習）

番号	項目	平均点
1	実習要項やオリエンテーション資料はわかりやすかった。	4.1
2	実習で使用する資料や物品は準備されていた。	4.3
3	参考文献などの紹介や使用方法の説明は適切であった。	3.9
4	指導者（スタッフ）と連携をとり、指導に一貫性があった。	3.7
5	学生が対象者（患者・家族等）とうまく関わられるように配慮していた。	4.1
6	学生がスタッフとうまく関わられるように配慮していた。	4.0
7	報告・連絡・相談がしやすい雰囲気を作っていた。	3.9
8	学生が望む体験ができるような機会を作っていた。	4.1
9	記録する場所や記録の保管場所、カンファレンスルームなどを確保できるように調整していた。	4.4
10	オリエンテーションは、実習の目的・目標・実習内容・実習方法が具体的でわかりやすかった。	4.3
11	学生の看護観を深める実習内容であった。	4.3
12	場面（行動計画・援助場面・カンファレンス）に合わせて適切な指導をしていた。	4.2
13	正しい知識・技術・適切な態度を習得できるように、その都度、指導していた	4.2
14	対象者の個別性を適確に捉え、計画・実施・評価の一連の過程を実施できるよう指導していた。	4.3
15	看護者としてのモデルを示していた。	4.2
16	熱意や誠実性が感じられた。	4.3
17	学生の人格を尊重した関わりであった。	4.0
18	記録物の量は適切であった。	4.0
19	事前課題の提示の時期・量は適切であった。	4.1
20	実習開始・終了時間が必要以上に超過しないよう配慮していた。	3.7
21	学生の知識・力量などに合わせて指導していた。	4.0
22	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。	4.2
23	さらに深く学びたいと思える実習であった。	4.3
24	この実習指導は良かった。	4.2
25	実習に臨むための事前準備（シラバスや実習要項の確認・予習・実技練習）を行った。	4.5
26	積極的（意欲的）・主体的に取り組み、常に学ぶ姿勢をもっていた。	4.7
27	常に倫理観をもって取り組んだ。	4.7
28	チームメンバーの一員として、行動（責任ある行動、約束を守る、協力する）した。	4.6
29	この実習の目的・目標が達成できた。	4.3

2)学修成果の獲得に向けた学習支援の組織的な取り組み

学修成果の獲得に向け教職員が連携して組織的に取り組んでいる。入学前から卒業後までの主な支援を以下に示す。

(1) 入学前教育

Plan

入学試験合格者が、本学での 3 年間の教育課程で学修成果を獲得するための入学準備を整え、モチベーションの維持・向上をはかることを目的として、下記の取り組みを行う。

- ①今年度（R4 年度）入学生の課題提出状況、レポートや自己学習内容の個別指導、業者の映像授業「入学前基礎学習講座」の受講状況の確認
- ②今年度（R4 年度）入学生への「埼玉医科大学短期大学へようこそ」や入学前課題の活用状況確認と次年度（R5 年度）入学生の入学前教育に活かすためのアンケート実施
- ③次年度（R5 年度）入学生への入学前に取り組む課題の提示

Do

- ①R4 年度入学生の課題提出状況（内容・レポート様式・提出期限の遵守等）を確認し、レポートや生物ワークドリルの内容はアドバイザーが個別指導し返却した。業者の映像授業「入学前基礎学習講座」の受講状況の確認を行った。
- ②R4 年度入学生に「埼玉医科大学短期大学へようこそ」や入学前課題の活用状況を確認するためのアンケートを、入学 3 か月後に WebClass で実施した。アンケートの結果、課題内容の再検討、提示方法について検討し変更を行った。
- ③R4 年度入学生のアンケート結果や映像授業「入学前基礎学習講座」の受講状況を分析し、R5 年度入学生への入学前課題を検討し提示した。

Check

- ①R4 年度入学生の課題提出状況は、レポートは提出期限遅れ、内容や規定が守れない、送付方法の不備等が例年と同様みられた。映像授業は 3 講座計 18 名受講（医療系生物入門 14 名、生物総合 4 名、医療学生のための国語力入門 9 名）し提出率 100%であった。受講者数は例年と大きく変わらないが、国語の平均点が過去 2 年間より 3 ポイント低かった。
- ②R4 年度入学生の入学 3 か月後アンケートの結果は次の通り。
 - a. 課題の取り組みの全体傾向は例年通りで、概ね入学前の事前学習に役立っている。入学 3 か月後に思う大学生に必要なことは、「スケジュールを立てた行動」「コツコツ取り組み続けること」「自分から学習に取り組むこと」の回答数が多かった。「埼玉医科大学短期大学へようこそ」を読みモチベーション（将来の夢を叶えようとする気持ち）は、「高まった」「どちらかという」と高まった」との回答が多く、今後の課題に繋げる。
 - b. 入学前課題のうち最も習慣化に繋がった課題および最も入学後役立った課題は「生物のワー

クドリル」で、最もモチベーションの向上に繋がった課題は「レポート課題:入学後の3年間の過ごし方」であった。入学前の一日当たりの平均学習時間は「1~2時間」の割合が多かった。

③上記①②の分析から、入学前教育の重要性が再確認できた。本学看護学科のアドミッション

- a. ポリシーに示す基礎学力のうち、国語力の強化や自身の学力を認識し、自律的な自己学習習慣の確立の必要があることも確認されたため、R5年度入学生への入学前課題の提示方法や内容を再検討した。変更内容は次の表の通り。課題のねらいと実施についての説明用紙「埼玉医科大学短期大学へようこそ」には、別途作成した動画を視聴できるQRコードも掲載した。

令和4年度課題	令和5年度課題
<p>a. 課題図書から1冊選択し、関連する本を各自で選択する。2冊の内容の関連性と自己の考えをまとめる（学校推薦型選抜合格者のみ）。</p> <p>b. 志望動機や現代社会における自己の将来の役割をふまえて、入学後の3年間をどのように過ごしたらよいかをまとめる。</p> <p>c. 生物のワーク（ドリル）の学習、または業者の映像授業「入学前基礎学習講座」（医療系生物入門、生物総合、医療学生のための国語力入門《以下、国語》から1講座もしくは、生物系と国語の2科目）の案内。</p>	<p>a. 映像授業4科目（医療学生のための国語力入門 ベーシック数学, ベーシック化学 医療系生物入門）と生物ワークドリル学習の5種類のうち1つ以上選択し実施する（全員）。</p> <p>b. 入学までの自己の課題発見、計画、実施、評価を指定用紙にまとめる（全員）。</p> <p>c. 課題図書を読みレポート作成（学校推薦型選抜A日程, B日程合格者のみ）。課題内容は、R4年度と同じ。</p> <p>※プレイスメントテスト（解答なし）を送付し、各自で実施した手応えから、上記課題a,bの選択の参考としてもらう（入学後に同じプレイスメントテストを行う予定）。</p>

Action

①学習の習慣化とモチベーションの維持・向上のための取り組み

- a. 学校推薦型選抜および一般選抜合格者全員に対する学習の習慣化に向けて、今後も課題内容・実施方法・学習途中の形成的な評価方法を検討する。入学前課題の3つの目標、①本学看護学科のアドミッション・ポリシーに示す基礎学力を整える、②自己の目的意識を再確認し、課題発見・目標・計画に沿って実行できる、③学習習慣の継続やモチベーションの維持・向上に対する評価（入学直後のプレイスメントテスト、課題の実施・提出状況・内容等）により、入学前教育の目的が達成できるように検討する。業者による映像授業「入学前基礎学習講座」は受講料が自費であることから強制はできないが、合格者が自分に必要な科目を認識して自主的に受講できるよう、内容や案内の方法について継続して検討する。

- b. 学校推薦型選抜・一般選抜合格者全員に「埼玉医科大学短期大学へようこそ」と題した入学前の学習の準備と課題については、内容を見直し継続して郵送する。
- ②入学前の課題の活用状況に関するアンケートは、内容を見直し継続して実施・評価する。
- ③自己点検・評価委員会や IR 委員会との連携や SD 活動、FD 活動での意見等も参考にし、入学前教育の目的・目標が達成できるようにする。

(2)オリエンテーション

2022年度 看護学科前期オリエンテーション日程

3月中旬 ～来日	1年次生				2年次生				3年次生				
	時間	内容	場所	担当者	時間	内容	場所	担当者	時間	内容	場所	担当者	
3/28 (月)		WebClassの「入学前コース」ログイン練習用教材の利用 ※詳細は案内を確認して下さい。		情報ネットワーク委員									
									8:30～9:15	健康観察シート確認	1Fロビー	保健管理委員	
									9:15	履修登録(30分)	B1F	教務委員	
									9:45	国家試験対策に関する連絡(15分)		国家試験委員	
									10:00	休憩(10分)			
										10:10	学生生活(60分)		学生部委員
										11:10	アドバイザーミーティング(50分)	別途連絡あり	アドバイザー
									12:00	昼休憩(B1Fのみ可)			
									13:00～16:00	領域別看護・総合実習オリエンテーション	B1F	実習委員	
3/29 (火)					8:30～9:15	健康観察シート確認	1Fロビー	保健管理委員	13:00～16:00	領域別看護・総合実習オリエンテーション	B1F	実習委員	
					9:15	履修登録・GPA活用(40分)	3F5.6	教務委員					
					9:55	休憩(10分)		学生部委員					
					10:05	学生生活(60分)		アドバイザー					
					11:05	アドバイザーミーティング(50分)	別途連絡あり	アドバイザー					
3/30 (水)					9:30～10:30	ネットワーク利用について(60分)	7F	情報ネットワーク委員	9:00～10:30	防災避難訓練(90分)	B1F	防災委員	
					10:30	休憩(10分)			10:30	休憩(15分)			
					10:40～12:10	防災避難訓練(90分)	7F	防災委員	10:45～11:45	ネットワーク利用について(60分)	B1F	情報ネットワーク委員	
4/2 (土)		入寮生受付(健康観察シート確認)学生寮説明会(対象:入寮生および保護者) ※詳細は案内を確認して下さい。	B1F他										
4/4 (月)	8:30～9:15	新入生受付(健康観察シート確認、提出物回収)	1Fロビー	保健管理委員 教務委員・学務									
	9:30	看護学科教育方針(30分)	7F	学科長									
	10:00	保健管理 / 防災について(両方で15分)		保健管理委員/ 防災委員									
	10:15	学生メールについて(5分)/事務連絡(10分)		情報ネットワーク委員/ 学務									
	10:30	休憩(10分)											
	10:40	カリキュラムの概要(30分)		教務委員									
	11:10	履修登録(30分)		教務委員									
	11:40	ユニホームの注文について(5分) 血圧計・聴診器の注文について(5分)		実習委員 基礎看護学担当									
	11:50	既修得単位(該当者のみ、他は昼休憩)		7Fロビー	学務								
	12:00	昼休憩(7F講堂のみ利用可)											
	13:00～16:00	ユニホーム採寸・注文/実習靴の注文 血圧計・聴診器注文 ※13:00に7F講堂に集合 詳細は別途連絡あり (メール受信確認⇒対象者のみ) ※中心室/情報ネットワーク委員		7F 1F 2F	実習委員 基礎看護学担当 業者								
	4/5 (火)	9:00	学生生活の諸連絡(30分)	7F	学生部委員								
		9:30	委員会役割決め他(40分)		学生部委員								
10:10		同窓会(5分)	同窓会										
10:15		社会人基礎 I オリエンテーション(5分)	担当教員										
10:20		休憩(10分)											
10:30		SNS利用に伴うトラブル防止について(20分)	事務部長										
10:50		コンピューター実習室の利用方法、Wi-Fiや学生メールアドレスの使用(40分)	情報ネットワーク委員										
11:30		図書館利用方法(30分)	図書館司書										
12:00		昼休憩(7F講堂のみ利用可)											
13:00		毛呂山キャンパス案内(10分)	学生部委員										
13:10		アドバイザーミーティングと校内案内の連絡(5分)											
13:30(30分)		校内案内	アドバイザーミーティング		アドバイザーミーティング								
14:00(30分)		アドバイザーミーティング	校内案内		校内案内	7F,6F,5F,3F,2F,1F	各アドバイザー						
4/6 (水)	9:30～9:50	受付		教務委員他					12:30	学科長挨拶(30分)	7F	学科長	
	10:00	入学式							13:00～16:10	国家試験ガイダンス	7F	国家試験委員	
	10:30	本学の教育について(10分)	日高キャンパス内記念講堂	副学長									
	10:40	個人情報の扱いについて(10分)		副学長									
	10:50	学生生活について(10分)		学生部長									
4/7 (木)		授業開始			8:30	学科長挨拶(30分)	3F5.6	学科長					
	16:30	寮総会(対象:入寮生のみ)	7F	寮生・学生部委員	16:30	寮総会(対象:入寮生のみ)	7F	寮生・学生部委員	16:30	寮総会(対象:入寮生のみ)	7F	寮生・学生部委員	
4/14 (木)									14:00	健康診断	別途連絡あり	保健管理委員	
4/18 (日)													
4/28 (木)					14:00	健康診断	別途連絡あり	保健管理委員					
5/2 (月)	10:00～11:30	防災避難訓練(90分)	7F	防災委員									
	14:00	健康診断(1年生・専攻科)	別途連絡あり	保健管理委員									

2022年度 専攻科新入生オリエンテーション日程

2022年4月1日

※予定は変更する可能性があります。

時間	内 容	担 当	会 場
4月5日（火）			
9:00～	新入生受付（学生証交付） * 健康観察シートの提出	学務・教務委員他	4階ロビー
9:15～ 9:20	オリエンテーション（配付物確認・本日の予定）	教務委員	4階 講義室 2
9:20～ 9:50	専攻科教育方針・3つの方針・カリキュラムの概要、 ポートフォリオ、アセスメントテスト、授業評価アンケート（30分）	専攻科長	
9:50～ 9:55	教員紹介	専攻科教員	
9:55～ 10:10	SNS利用に伴うトラブル防止について(15分)	事務部長	
10:10～10:20	事務連絡(10分)	学務	
10:20～10:35	保健管理・防災（15分）	保健管理・防災委員	
休憩	※換気		
10:45～11:40	履修ガイダンス（シラバス、学生便覧持参）（55分） 修了要件、授業科目、単位制、授業について 履修登録、評価について GPA制度とその活用について	教務委員	
11:40～12:10	学生生活（30分）	学生部委員	
昼休憩			
13:00～13:30	施設・設備説明	専攻科教員	7階～ 短大校舎
13:30 14:00	図書館の利用方法(30分) ※終了後4階講義室 2へ移動	図書館司書	7階図書館
休憩			
14:10～14:40	連絡事項（書類配付：始業にあたって、看護技術到達度、写真掲載の使用について） 入学式について 連絡先確認（電話番号）（25分）	広報部委員 教務委員	4階 講義室 2
4月6日（水）			
9:30～9:50	受付	事務部・教務委員他 全教員	日高キャンパス 30周年記念講堂
10:00～	入学式		
10:30～	合同オリエンテーション 1.本学の教育について 2.個人情報の扱いについて 3.学生生活について		
10:40～			
10:50～			
4月7日（木）			
9:00～10:00	年間予定、時間割（30分） 学習マニュアルの活用・事前学習について(30分)	教務委員	4階 講義室2
10:00～10:05	同窓会について(5分)	同窓会役員	
10:05～10:20	国家試験対策について（15分）	教務委員	
休憩			
10:30～12:10	クラス役員について説明（10分） 学生自己紹介（30分） アドバイザー紹介（10分） クラス委員決定	学生部委員	
昼休憩			
13:00～14:30	9号館施設・設備の説明,ユニフォーム・滅菌手袋の採寸	専攻科教員	9号館6階
休憩			
14:40～16:10	コンピューター室の利用方法、Wi-Fiや学生メールアドレスの使用 WebClassの使い方	情報ネットワーク委員	5階パソコン室
5月2日（月）			
10:00～11:30	防災訓練	防災委員	
14:00～	健康診断	保健委員	

(3)宣誓式

看護学科では1年次後期に宣誓式を以下のように行っている。

Plan

宣誓式は、学生自身が選んだ看護の道が適切であったかどうか自らを振り返る機会であり、自己の目標を明確にし、望ましい看護師として成長できる節目の儀式である。1年次生が、これらを意識して式典に臨めるよう働きかける。

Do

日時：令和4年11月19日（土） 場所：短期大学7階大講堂 参加者：学生92名、教職員

- ①今年度も新型コロナウイルス感染拡大を防止する目的で感染対策も含め次の要領で式典を開催した。
 - i. 1・2・3年次生合同の宣誓式委員会を実施した。2・3年次生からアドバイスをもらうことで、1年次生委員がこれまでの戴帽式（令和2年まで）や宣誓式の歴史もふまえて式典の目的を達成する方法の検討に参加できた。また、今年度は1・2年次生の宣誓式委員内でさらに誓いの言葉・歩き方・髪型係と役割を分担し一人一人の役割を明確にすることで、1～2年次生の交流を図りやすくした。
 - ii. 学生が主体的に宣誓式を企画し、運営に参加できるようまた、1年次生全員に事前アンケートを実施し、全員の意見も考慮し方法や誓いの言葉を検討した。
 - iii. リハーサル（10月12日、10月26日、11月2日、11月9日、11月18日）、会場準備、式典の運営を行った。リハーサルには2年次生も参加し、1年次生に身だしなみや動き方についてのアドバイスを行った。
 - iv. 式典方法は、昨年度同様、開式の辞の後に2名ずつ入場し、壇上にあるボードに決意表明カードを貼り、ナイチンゲール像からろうそくの灯を受け継ぎ、壇上で写真撮影を行い、自分の机に着席する方法で行った。学長祝辞は会場で賜り、誓いの言葉は代表者1名が述べ、先輩の言葉も会場で述べた。その他は事前収録ビデオ上映とした。国歌斉唱・校歌斉唱はCDを流すのみとした。
 - v. 式典参加者は学生と学長・副学長・学科長・教授・宣誓式委員・事務他役割のある教員と最小限の人数で実施した。
 - vi. 記念撮影は式典中の個人写真と3密を避けるためと日照条件を考慮し、落合ホール前広場での集合写真撮影とした。また、アドバイザーチーム毎の写真撮影も実施した。
- ②式典に向けた活動の支援として、各学年の委員の相談に対応した。
- ③宣誓式が臨地実習に向けての意識や実習に向かう態度の変化につながったかを確認するため、基礎実習終了後1年次生全員へのアンケートを実施した。また、そのアンケート結果を受け、1・2年生委員の総括を実施し、宣誓式における委員の役割について確認した。

Check

- ①宣誓式によって自己の理想とする看護師像を確認し、実習で現場の看護活動を見学することに

より、目標が明確になり、今後の学習意欲を高めることにつながっていた。今年度は式典と実習との関連性や式典の意味についてのオリエンテーションを強化し、新型コロナウイルス濃厚接触者及び感染者以外の欠席はなかった。

- ②今年度は5回のリハーサルを全てABクラス合同で実施した。リハーサルは段階的に内容を増やし、徐々に本番に近づける方法で実施した。少ないリハーサル回数で、式典の動きを身につけることが出来ていた。
- ③リハーサルに2年次生委員が毎回5～6名程度参加し、身だしなみチェックや動きの指導に加わった。2年次生委員からアドバイスをもらうことにより、1年次生は式典にふさわしい服装や動きを身につけ、2年次生委員にはロールモデルとしての自覚につながっていた。1・2年次生委員の交流については、1年次生から2年次生への自主的な相談が不十分であった。
- ④一昨年から要望が上がっていた、式典の動画配信は個人情報保護と撮影機材の問題から今年度も実施することができなかった。また父兄の参列も感染拡大防止のため実施できなかった。
- ⑤式典は1時間以内にスムーズに終了した。しかし、写真撮影については全体集合はスムーズに進行したが、その後のアドバイザー毎の撮影に多くの時間を要した。

Action

- ①リハーサルや式典の欠席は進行に大きく影響することから、オリエンテーションにおいて、式典やリハーサルの重要性や意味をよく説明していく必要がある。
- ②1・2年次生の交流を促進するために、リハーサルの際のミーティングを行うなど、積極的に交流する機会を検討する必要がある。
- ③3年間にわたって、父兄の式典参列が見送られてきた。しかし、宣誓式は、看護師を目指す学生にとって節目となる重要な式典である。来年度は会場も含め感染対策も考慮し、父兄の参列を検討していく必要がある。
- ④式典後の写真撮影について、スムーズに進行するようカメラマンとの事前調整を行っていく必要がある。

(4)専攻科の学生支援

Plan

- ①学生生活や学習進度に関する相談と支援
- ②夏季冬季休業前の安全、学習面に関する指導
- ③実習前の感染症抗体価と新型コロナウイルス感染予防に関する学生指導と支援
- ④国家試験に対する支援

Do

- ①学生生活については、新型コロナウイルスの感染状況による校舎や施設内の利用を確認しながら、学習面、生活面を学生と共に運営、実施した。学生の学生生活が自主運営できるようにクラス委員活動に関する支援を行った。

- ②入学後の学生生活や学習面について、3名の教員がアドバイザーとなり6～7名ずつを担当し、指導を実施した。アドバイザー面接は、4月、9月、12月の3回実施した。
- ③実習開始前に実習生の感染症抗体検査結果やワクチン接種について調査した。その結果から抗体価の基準値に達していない学生に対し、個別に指導した。また新型コロナワクチン接種について接種状況と健康観察について指導をした。また、新型コロナウイルス感染予防のため、アルバイト禁止や感染予防行動についての学生指導を行った。
- ④国家試験対策委員会を中心として、模擬試験を5回(7月、10月、11月、1月は2回)に決定し実施した。10月は、実習中のため自宅実施、1月は冬季休業明けとすべての講義終了後の2回実施した。また、学生の学習状況を加味し、国家試験対策として補講講義を依頼し、1月17日(火)から1月20日(金)までの期間に3名の外部講師による講義を設定した。

Check

- ①学生活動では、クラス内の委員による(クラス委員、学生委員会、国家試験対策委員会、卒業アルバム委員会、謝恩会委員会)役割を担って活動した。謝恩会は、新型コロナウイルス感染の終息の見通しがなかったため短期大学として中止となりお礼状の郵送を、謝恩会委員が対応した。それぞれが学生個々の役割を行う姿があった。教員との打ち合わせを重ねながら活動できた。
- ②アドバイザー面接は、12月時、教員2名となったため第3回模擬試験までの結果から国家試験の結果に影響がある成績不良者についてのみ、教員2名と学生の面接を行った。1月になり第4回模擬試験の結果からさらに成果の出ていない成績不良者の学生についてオンライン面接を教員2名と学生で行いフォローした。
- ③新型コロナ感染拡大に備え、ワクチン接種を可能な限り、摂取することを勧めた。他のワクチン接種から期間が開いていないことで接種できない学生もいた。9月実習開始時には、新型コロナワクチンに罹患する学生もいたが、自宅療養で軽快した。その後は、罹患する学生もなく全員が無事に実習を履修することができた。
- ④予定通りの模擬試験5回を受験することができたが、結果到着が4回目と5回目が同時期となった。

Action

- ①謝恩会の開催については、今後の新型コロナウイルスの感染症5類に伴い、対応する。学生生活様式や健康観察についても短期大学の方針と合わせ、学生が主体的に行動できるよう教員と連携していく。
- ②様々な学習背景、キャリアを持つ学生の一人一人の学習ニーズを捉え、学生が自ら納得できる活動の支援を行う。予定していたアドバイザーによる学生面接に変更が生じた際の早急な代替日程の検討を行う。また、成績不良者に対する面接は、教員2名で行いフォローしていく。

- ③新型コロナウイルス感染予防行動については、短期大学内で統一して指導ができるように準備する。
- ④国家試験対策として年間5回の模擬試験を実施する。第4回模擬試験は、12月に実施し、その結果から早めに国家試験対策に集中できるようにする。

(5)成績優秀者への学習上の配慮

看護学科の成績優秀者に対して学習上の配慮を令和2年度より実施している。学年度末GPA値により1年次生の成績優秀者には2年次の看護学セミナーの希望する領域について課題提出を免除している。2年次生の成績優秀者には図書カードなどを提供している。

(6)学外実習施設一覧

カリキュラムの1/3以上を占める臨地実習での学修成果の獲得に向けた指導を効果的に行うため下記の施設を確保している。

看護学科

授業科目名	実習施設	実習フロア
基礎看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ	埼玉医科大学病院 丸木記念福祉メディカルセンター 埼玉医科大学国際医療センター	南館 11 階病棟 南館 9 階病棟 南館 8 階病棟 南館 7 階病棟 南館 6 階病棟 南館 5 階病棟 本館 10 階病棟 本館 9 階病棟 本館 8 階病棟 西館 5 階病棟 回復期リハビリテーション病棟薫風園 5 階 回復期リハビリテーション病棟薫風園 6 階 B 棟 3 階病棟 B 棟 4 階病棟
成人看護実習Ⅰ 成人看護実習Ⅱ 総合実習	埼玉医科大学病院 埼玉医科大学総合医療センター	南館 11 階病棟 南館 9 階病棟 南館 8 階病棟 南館 7 階病棟 南館 6 階病棟 南館 5 階病棟 本館 8 階病棟 本館 7 階病棟 西館 5 階病棟 中央手術部 内科外来センター・中央治療センター 外科センター 内視鏡センター 腎臓病センター血液浄化ユニット 中央放射線部 生活習慣病センター 内分泌・糖尿病内科外来 10 階東病棟 10 階西病棟 7 階東病棟 7 階西病棟 6 階西病棟 5 階東病棟 5 階西病棟 4 階東病棟 4 階西病棟 中央手術部 GICU

		放射線部 血液浄化センター 内視鏡センター 消化器・肝臓内科 内分泌・糖尿病内科外来 心臓内科、呼吸器内科、心臓血管外科外来 在宅療養指導室
精神看護実習	埼玉医科大学病院 丸木記念福祉メディカルセンター ケアセンター のぞみ	西館 4 階病棟 西館 3 階病棟
小児看護実習	埼玉医科大学病院 埼玉医科大学総合医療センター 学校法人 聖公会北関東学園 認定こども園 毛呂山愛仕幼稚園 学校法人 村田学園 ときわぎこども園 埼玉医科大学 保育園 めぐみ 埼玉医科大学日高キャンパス 託児所 あすなる	南館 4 階病棟 南館 3 階 NICU・GCU 東館こどもセンター（外来） 3 階東病棟 総合周産期母子医療センター 4 階新生児部門
母性看護実習	埼玉医科大学病院 埼玉医科大学総合医療センター	南館 2 階病棟 産婦人科外来 総合周産期母子医療センター（産科外来・母子 3 階病棟） 産婦人科外来
老年看護実習 I 老年看護実習 II	埼玉医科大学病院 丸木記念福祉メディカルセンター	本館 10 階病棟 本館 9 階病棟 西館 5 階病棟 地域包括ケア病棟 回復期リハビリテーション病棟 薫風園 5 階 回復期リハビリテーション病棟 薫風園 6 階
地域・在宅看護 実習 I	毛呂山町保健センター 越生町保健センター 鳩山町保健センター 毛呂山町地域包括センター 鳩山町地域包括支援センター 日高市高萩地域包括支援センター 社会福祉法人 育心会地域包括支援センター-悠久園支所 社会福祉法人 埼玉聴覚障害者福祉会地域包括支援センター-ななふく苑支所 総合福祉エリア 地域包括支援センター 社会福祉法人敬寿会 年輪福祉ホーム地域包括支援センター くらしのストップ MORO HAPPINESS 館	

在宅看護実習	毛呂山町保健センター 越生町保健センター 鳩山町保健センター 毛呂山町地域包括センター 鳩山町地域包括支援センター 日高市高萩地域包括支援センター 日高市高麗川地域包括支援センター 社会福祉法人 育心会地域包括支援センター悠久園支所 社会福祉法人 埼玉聴覚障害者福祉会地域包括支援センターななふく苑支所 総合福祉エリア 地域包括支援センター 社会福祉法人敬寿会 年輪福祉ホーム地域包括支援センター 埼玉医科大学 訪問看護ステーション 埼玉医科大学総合医療センター 訪問看護ステーション 埼玉成恵会病院 訪問看護ステーション 成恵 医療法人啓仁会 訪問看護ステーション 平成の森 東松山医師会訪問看護ステーション 坂戸鶴ヶ島医師会立 看護訪問ステーション さつき 訪問看護リハビリステーションパープル カオ訪問看護リハビリステーション鶴ヶ島 訪問看護ステーションコルア 株式会社クレハリーワン訪問看護ステーションハビネススマイラー 埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館
--------	---

専攻科 母子看護学専攻

実習科目名	実習施設	実習病棟
周産期援助実習	埼玉医科大学病院 医療法人善淳会 小川産婦人科・小児科	成育医療センター 産婦人科外来、南館 2 階病棟 産科外来、病棟
分娩期援助実習	埼玉医科大学病院 埼玉医科大学総合医療センター 総合周産期母子医療センター 医療法人善淳会 小川産婦人科・小児科 医療法人慈桜会 瀬戸病院 医療法人青山会 吉田産科婦人科医院 医療法人愛和会 愛和病院 医療法人マウナケア会 清水病院	成育医療センター 南館 2 階病棟 母子 3 階病棟 病棟 分娩室 病棟 分娩室 病棟 分娩室 病棟 分娩室 病棟 分娩室
新生児援助実習	埼玉医科大学病院 埼玉医科大学総合医療センター 総合周産期母子医療センター 医療法人善淳会 小川産婦人科・小児科 医療法人マウナケア会 清水病院 医療法人青山会 吉田産科婦人科医院	成育医療センター 南館 2 階病棟 母子 3 階病棟、NICU 病棟、新生児室 病棟、新生児室 病棟、新生児室
地域母子保健 実習	鶴ヶ島市保健センター 飯能市保健センター 日高市保健相談センター	

	毛呂山町保健センター	
助産管理実習	助産院もりあね はとがや助産所 中島助産院	

(7)研究テーマ一覧と指導教員

3年次の選択科目である看護研究は領域や職位を越えて協力し下記のように指導にあたっている。令和4年度は6組14名が取り組んだ。

看護学科

看護研究 テーマ	学籍番号	担当教員
妊娠期の育児不安の要因と母親学級における支援	20A017	秋山千恵子
	20A046	北田 良子
母子相互の愛着形成を促進する産前産後の支援 -妊産婦への看護者の介入に関する文献研究-	20A010	久保かほる 櫻井 邦恵
	20A031	
	20A036	
	20A100	
発達障害児を育てる家族が抱く将来への不安およびその家族への援助	20A005	霜田 敏子
	20A006	勝久 淳
月経不快症状のある看護学生が低用量経口避妊薬の使用を選択しない要因	20A065	今野 葉月
	20A087	清水 百子
看護学生の性の悩みとユースクリニックの必要性に関する実態調査	20A058	浅見多紀子
	20A059	石川 裕貴
看護系短期大学女子学生の月経随伴症状への対処方法とその理由	20A096	瀧山 文恵
	20A098	小野 真央

(8)看護学科の卒業生への支援

Plan

就職一年目の短大卒業生（以後、卒後1年目）に対し、現場でのストレス軽減や早期離職防止、自己成長のために、母校で日頃の体験や思いを表出し共感し合い、情報交換を行う。また、今後の卒業生支援のための情報収集やネットワーク作りの機会とする。

①6月～7月上旬に、卒後1年目を対象とした「卒後1年目 YUZU の会」を開催予定。社会情勢等により、実施が困難な場合は先輩看護師の体験談やメッセージを動画配信する。

②卒後1年目に対して卒業生通信「ふぞろいな YUZU たち」の発行(2回/年)

Do

- ①本年度の新型コロナウイルス感染症拡大の状況をふまえ、対面集合しての開催は困難と判断し卒業1年目の会「卒業1年目 YUZU の会」を中止した。Google フォーム URL を WebClass メールに添付し、先輩看護師に質問をしたい内容を対象者に募集した。希望があった項目を中心に、卒業2年目と7年目の先輩看護師へ伺い、その様子を動画撮影し WebClass メールに URL を添付して動画配信した。
- ②卒業1年目に対し卒業生通信「ふぞろいな YUZU たち」を12月と2月に発行した。卒業生通信には、動画配信の様子や、学内行事の様子などをふまえて対象者へのメッセージと「卒業生支援企画就職1年目の会」開催見合わせについて記載し、WebClass メールに添付した。

Check

- ①「卒業1年目 YUZU の会」開催に伴う感染リスク拡大の予防処置として、開催中止は適切だったと考える。動画配信については、再生回数が少なく視聴した対象者は少ないことが予測された。配信方法の再検討が必要と考える。
- ②看護学科各専門領域のメッセージは、現場でのストレス軽減や早期離職防止、自己成長につながられることへの一助となっていると考える。

Action

- ①新型コロナウイルス状況や、埼玉医科大学の方針に則り、開催の不可を本学決定機関によって決定する。
- ②次年度も開催不可となった際は、今年度と同様に動画配信や紙面での支援をおこなう。

3)学習成果の獲得に向けた学生への生活支援の組織的な取り組み

学生の生活支援のための教職員の組織を整備している。学生生活については学生部長を中心とする学生部委員会が対応する体制をとっている。またアドバイザーは勉学上のことだけでなく、学生生活の様々な問題について相談に乗っている。以下に主な支援を示す。

(1)生活への支援

①奨学金制度・給付金等

奨学金として次の制度を活用している。

i. 本学奨学金制度

看護学科全員を対象、月額 50,000 円貸与。

ii. 日本学生支援機構奨学金制度

全学科を対象としている。貸与・給付を受けている学生は次のとおりである。

(令和4年8月1日現在)

	1年生	2年生	3年生	合計
看護学科	36名	32名	27名	95名
専攻科 母子看護学専攻	1名	—	—	1名

貸与額 (令和4年8月1日現在)

第一種 (無利子)

	自宅通学月額	自宅外通学月額
R2-R4年度入学生	53,000	60,000

第二種 (有利子)

月額 20,000円～120,000円より選択(10,000刻み)

iii. 埼玉県育英奨学金制度

全学科を対象としている。令和3年度に貸与を受けている学生はいない。

iv. 修学支援新制度(授業料等減免)

令和2年度より始まった新制度。要件を満たす学生が対象となる。日本学生支援機構の給付型奨学金と併用となっている。減免を受けている学生は次のとおりである。

※本学は看護学科が対象

(令和4年11月1日現在)

	1年生	2年生	3年生	合計
看護学科	8名	6名	8名	22名

世帯収入や資産の要件を満たしていること(住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯)としてⅠ・Ⅱ・Ⅲ区分に分けられ、区分に応じ、授業料・入学金が減免される。

②学生寮・家主会

i. 学生寮

学生寮はキャンパス内に位置し、入寮を希望した看護学科の学生が生活している。新入生の入寮説明会は4月3日(土)に保護者を含めて行った。

入寮者（2022年 9月1日現在）

	1 年生	2 年生	3 年生	計		寮費（月額）	
女子	24名	23名	27名	74名	13宿 女子寮	1 人部屋（※1）	15,000 円
						1 人部屋（※2）	13,000 円
						2 人部屋	12,000 円
女子	0名	8名	1名	9名	12宿 女子寮	現在は募集していない。	

ii. 家主会（埼玉医科大学家主会）

家主会(埼玉医科大学家主会)は、近隣のアパート・マンションの入居案内をボランティアで行っている大家(家主)の会であり、特に学生の学習に適した環境整備に力を入れている。

iii. 学生寮の新型コロナウイルス対策について

- a. 昨年度作成した「学生寮における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対応について」を加筆・修正し、配付し説明した。学生寮で「発熱や風邪症状が出た場合の受診の流れ」をフローチャートにして、配付し説明・指導した。
- b. 毎日の検温等の健康チェック、マスク着用、手指衛生、3密回避等、基本的な感染防止対策を継続して実施するよう指導した。
- c. 寮内の点検を行い、3密を避ける必要がある場所に目印や掲示（エレベータ内、トイレ、洗面所、キッチン、浴室等）をした。また手指消毒剤の設置を行った。
- d. 寮内でコロナ陽性者が発生した場合、本人の隔離と利用可能な共有スペース（トイレ・洗面）の確保を行った。

③食堂・売店

毛呂山キャンパスでは、丸木記念館 1 階にて学生専用に昼食（平日 11：30～13：30）および夕食（平日 17：00～19：30）を 1 食 350 円で提供している。土日祝日も行っている職員食堂（11：00～14：00）も 1 食 350 円で利用可能である。

また、校舎 1 階ロビーには昼食等の出張販売（平日 11：50～13：00）がくる。東館のタリーズコーヒー、オルコスホール隣のコンビニエンスストア、5 号館の売店も利用可能である。

④駐車場

学生が利用できる駐車場として、「阿諏訪駐車場」がキャンパスの近くにあり、料金は 19,800 円（1,650 円×12 ヶ月）の年間一括払いとなっている。

⑤生活支援

Plan

看護学科学生部委員を中心に、アドバイザー教員および職員の協力を得ながら学生生活の支援、学生活動の支援を行う。

i. 学生生活の支援

体調管理や挨拶等の意識付けを目的とした月間目標の掲示(表参照)、体調管理、夏季・冬季休業前の安全面・学習面に関する指導、適切な SNS (Social Net-orking Service)の利用についての指導、接遇向上のための取り組み、学習環境の整備、学生寮の点検、ロッカー室の点検、寮生活に関する相談対応等を行う。

ii. 学生活動の支援

学生会活動の相談対応、大学祭(遙光祭)の相談対応、卒業アルバム・謝恩会の相談対応、週番の役割指導等を行う。

Do

学生生活の支援では、月間目標(表4)の掲示、長期休業前の指導、適切な SNS の利用についての指導、接遇向

上のための取り組み、ロッカー室の使用状況の定期的な点検、週番による昼休み前にコロナ感染予防行動のアナウンス、昼休みに Tver を放映し黙食できる環境の整備を実施、学生寮の点検と生活指導(感染予防)を行った。また、女子更衣室ロッカーの鍵の暗証番号部分に目隠しをして盗難防止につとめる活動を継続した。接遇向上のための取り組みとして、1年次生には対面で、2・3年次生には Zoom 会議システムを使用して、「今、出会う人への思いやり、相手を不快にしない気配り・目配り・心配りを身につけよう」と題して、グループワークを行った。学生は、挨拶、身だしなみ、態度、言葉遣いなどに関して意見交換をして、自分の気づきと今後の課題を明確にして、年間を通して各自が実践するように指導した。そして、年度末には、個人課題レポートで実践結果を評価する取り組みを行った。また、3年次生からは、卒業時に在校生に向けた接遇に関するメッセージをカードに記載してもらい、指導に活用した。

学生活動の支援では、学生が主体となって企画運営を行うよう相談に応じた。また、学生会費の使用方法について、部長会を通して学生会や各クラブの部長と適正に使用できているか確認した。

表 4. 看護学科学生部委員会 月間目標

月	月間目標(テーマ)
4・5	感染「話すときは、必ずマスクをつけよう！」
6	スケジュール「スケジュール管理をしましょう」
7	挨拶「心のこもった『あいさつ』していますか」
8・9	感染「その行動が大切な人と私たちの日常を守ります」
10	スケジュール「スケジュール管理をしましょう」
11	感染「インフルエンザ・新型コロナどちらも予防しましょう」
12	挨拶「一年の締めくくりにふさわしいあいさつしましょう」
1	スケジュール「スケジュール管理」
2・3	感染「みんなで徹底！感染症予防対策！」

Check

学生生活の支援として、WebによるSNSの利用についての指導では、情報の投稿についての指導を強化した。接遇指導については、学年別に指導を行った。1・2年次生とも指導直後は行動できるが、時間の経過とともに挨拶が少ないとの指摘があった。

風邪症状や発熱、体調不良の寮生に対して、速やかに受診するように勧めた。さらにPCR検査の結果の報告、療養方法の連絡や相談を受け、対応を継続した。寮内の衛生については、寮長を通して消毒の徹底を指導し、クラスターは発生しなかった。

学生活動への支援として、学生会の運営に関する相談に対応し、事故なく安全に運営できた。

Action

学生生活の支援では、学生のSNS利用状況を把握し個別に指導することは困難であるが、学生が適切なSNSの利用について行動できるように、指導の工夫が必要である。接遇向上の取り組みは、挨拶を始めとする日常生活でのエチケットやマナーについては卒業後も継続して取り組めるように指導を行う。学内の環境整備では、特にロッカー室の利用状況を定期的に確認し、防犯・衛生面の指導を強化し、快適な学生生活が送れるよう関わる。

学生活動への支援では、学生が主体となってさまざまな学生活動に参加・協力するよう関わる。

⑥クラブ・同好会

本学の建学の精神である「師弟同行の学風の育成」をもとに、各クラブ・同好会活動が円滑にすすむように、顧問をはじめ、有志の教員が学生とともに活動に参加している。

2022年度クラブ・同好会と顧問の配置状況は以下の通り（表5）である。

表5. 2022年度クラブ・同好会

令和4年6月1日現在

	団体名	代表責任者	学年	顧問	資格	会員数
1	茶道部	田中 友彩	2	瀧山 文恵	クラブ	6
2	日本舞踊部	清水 綾花	2	霜田 敏子	クラブ	3
3	華道部	山川 聖加	2	今野 葉月	クラブ	4
4	バスケットボール部	富田 千紗都	1	清水 百子	クラブ	14
5	軽音楽部	熊田 修也	2	布施 好朗	同好会	7

(2)学生の健康管理

保健管理委員会が担当している。活動内容は以下の通りである。

- ①新入生オリエンテーション：（看護学科）4月4日、（専攻科）4月5日
- ②健康診断：4月14日、4月28日、5月2日
- ③B型肝炎抗体価検査：健康診断時、12月7, 8, 9日（分散）

- ④B型肝炎ワクチン接種：①6月23日、②7月21, 29日, 9月8日（分散）、③10月20, 21日, 11月10日（分散）
- ⑤麻疹・風疹・ムンプス・水痘の抗体価検査：健康診断時
- ⑥インフルエンザワクチン接種：11月24日、12月2日（分散）

(3)学生のボランティア活動

看護学科では、1年次の選択科目として、平成21年度～令和3年度入学生適用カリキュラムは「社会活動」、令和4年度入学生適用カリキュラムは「社会人基礎Ⅱ（ボランティア活動）」が設定されている。「社会活動」の履修者も含め、令和元年度まで学生は例年さまざまなボランティア活動を行っていたが、令和2年度以降の新型コロナウイルス感染拡大により、令和4年度も「社会人基礎Ⅱ（ボランティア活動）」でボランティア活動についての学習はしたものの、新型コロナウイルス感染症の対策の一環として、実際の活動は自粛してもらった。

4)進路支援の実施

就職支援のための教職員の組織を整備し活動している。就職支援は、埼玉医科大学グループの事務職員と当該短期大学事務部学務課が連携して行っている。個々の学生の希望の配属先や就職試験に関する疑問等については、事務部とアドバイザーがその都度対応している。

就職のための資格取得、就職試験対策等の支援を行っている。看護師国家資格の取得に関しては、3年次の11月末から翌年1月まで補習講義を行い、支援している。無資格での卒業は就職が困難になるだけでなく、卒業生の精神的負担も大きくなる。その状況を避けるために、希望者には准看護師試験の受験手続を学務課が手配している。准看護師免許の取得により、無資格で卒業・就職する学生はいない。

Ⅲ. 教育資源と財的資源

1. 人的資源

1)教育課程編成・実施の方針に基づいた教員組織の整備

当該短期大学は入学定員 100 名の 3 年制看護学科と入学 20 名の 1 年制の専攻科母子看護学専攻を組織しており、それぞれの教員数は令和 4 年度は看護学科が 27 名、専攻科は 3 名で短期大学設置基準および指定規則に定める教員数を満たしている。教員組織の編成は看護学科の教授 6 名、准教授 5 名、講師 8 名、助教 8 名であり、専攻科は教授 1 名、講師 1 名、助教 1 名である。専任教員の職位、学位、教育実績、研究業績等をウェブサイト公表している。専任教員・非常勤教員は下記の一覧に示す。

(1)専任教員・非常勤教員一覧

看護専任教員一覧

①基礎教育

兼任・非常勤

講師	柳田 詩織	哲学	
講師	佐藤 礼子	心理学 I・II	埼玉医科大学 精神医学教室
講師	田村 慶一	論理学	
講師	芳賀 祥子	文学	
講師	牧野 修也	社会学	
講師	今出 和利	法学	
講師	矢島 伸男	教育学	
講師	山本 雅義	統計学, 物理学	
講師	土田 敦子	化学	埼玉医科大学 医学基礎部門 教養教育
講師	山崎 芳仁	生物学	埼玉医科大学 医学基礎部門 教養教育
講師	有田 彰	情報科学	
講師	荻原 利彦	情報科学	
講師	林 禅之	英語 I・II	埼玉医科大学 医学基礎部門 教養教育
講師	種田 佳紀	英語 I・II	埼玉医科大学 医学基礎部門 教養教育
講師	スティーブ・ン・マーク・オトゥール	英語 I・II	
講師	リウ・サントス	英語 I	
講師	田中 一嘉	ドイツ語	
講師	森 史枝	体育実技 I・II	

②看護学科

専任

特任教授	所 ミヨ子	基礎看護学
教授	久保 かほる	成人看護学
教授	霜田 敏子	小児看護学
教授	今野 葉月	基礎看護学
教授	浅見 多紀子	成人看護学
教授	脇本 直樹	疾病治療論
准教授	蒲生 澄美子	基礎看護学
准教授	内田 貴峰	母性看護学
准教授	瀧山 文恵	老年看護学
准教授	秋山 千恵子	成人看護学
准教授	鈴木 夕岐子	成人看護学
講師	宮崎 素子	基礎看護学
講師	勝久 淳	精神看護学
講師	清水 百子	基礎看護学
講師	小池 啓子	在宅看護学
講師	荒川 みひろ	老年看護学
講師	海野 文子	在宅看護学
講師	渡邊 あゆみ	精神看護学
講師	北田 良子	小児看護学
助教	榎本 佑美	基礎看護学
助教	石川 裕貴	母性看護学
助教	布施 好朗	小児看護学
助教	持田 奈穂美	老年看護学
助教	杉本 真弓	成人看護学
助教	増田 睦美	母性看護学
助教	櫻井 邦恵	基礎看護学
助教	小野 真央	成人看護学

兼任・非常勤

講師	田村 直俊	疾病総論,疾病治療論 I	前埼玉医科大学短期大学 教授
講師	小島 龍平	解剖学	
講師	有田 彰	生理学	
講師	内田 康子	生理学	埼玉医科大学 保健医療学部
講師	仁科 正実	生化学	
講師	町田 早苗	微生物学	埼玉医科大学 医学研究センター
講師	周防 諭	薬理学	埼玉医科大学 薬理学教室

講師	吉川 圭介	薬理学	埼玉医科大学 薬理学教室
講師	柳下 楠	薬理学	埼玉医科大学 薬理学教室
講師	岩佐 健介	薬理学	埼玉医科大学 薬理学教室
講師	安田 政実	病理学	埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科
講師	佐藤 次生	病理学	埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科
講師	佐藤 奈帆子	病理学	埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科
講師	浜田 芽衣	病理学	埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科
講師	金子 和正	社会人基礎 I	
講師	中島 悠介	社会人基礎 I	
講師	佐藤 冬果	社会人基礎 I	
講師	柳瀬 千秋	国際医療福祉事情	
講師	高山 哲嘉	疾病治療論Ⅲ・Ⅳ	埼玉医科大学 消化器一般外科学
講師	前山 昭彦	疾病治療論Ⅲ	埼玉医科大学 麻酔科学
講師	秋山 正年	疾病治療論Ⅲ	埼玉医科大学国際医療センター 心臓血管外科
講師	藤巻 高光	疾病治療論Ⅳ	埼玉医科大学 脳神経外科学
講師	小林 正人	疾病治療論Ⅳ	埼玉医科大学 脳神経外科学
講師	梶原 健	疾病治療論Ⅳ	埼玉医科大学 産婦人科学
講師	朝倉 博孝	疾病治療論Ⅳ	埼玉医科大学 泌尿器科学
講師	門野 夕峰	疾病治療論Ⅳ	埼玉医科大学 整形外科学
講師	秋岡 祐子	成育医療論	埼玉医科大学 小児科学
講師	石井 佐織	成育医療論	埼玉医科大学 小児科学
講師	亀井 良政	成育医療論	埼玉医科大学 産婦人科教室
講師	難波 聡	成育医療論	埼玉医科大学 産婦人科教室
講師	高橋 幸子	成育医療論	埼玉医科大学 産婦人科教室
講師	田丸 俊輔	成育医療論	埼玉医科大学 産婦人科教室
講師	高橋 美保子	公衆衛生学	埼玉医科大学 社会医学
講師	小林 明弘	社会福祉	丸木記念福祉 MC*法人事務局
講師	本橋 千恵美	関係法規	埼玉医科大学 社会医学
講師	堀口 さやか	健康と栄養	埼玉医科大学病院 栄養部
講師	浅見 真一	健康と運動	
講師	加藤 純一	成人看護技術 I	埼玉医科大学病院 本館 8 階病棟
講師	山崎 志文子	成人看護技術 I	埼玉医科大学病院 南館 11 階病棟
		成人看護実習 II	
講師	松永 晴子	成人看護技術 I	埼玉医科大学病院 南館 9 階病棟
		成人看護実習 II	

講師	礒崎 雅美	成人看護技術Ⅱ 成人看護実習Ⅰ	埼玉医科大学病院 本館 7階病棟
講師	川村 日輪	成人看護技術Ⅱ	埼玉医科大学病院 手術室
講師	根岸 愛	成人看護技術Ⅱ	埼玉医科大学病院 ICU
講師	長谷部 愛覧	成人看護技術Ⅱ	埼玉医科大学総合医療センター 4階東病棟
講師	中里 里沙	成人看護技術Ⅱ	埼玉医科大学総合医療センター 6階西病棟
講師	大田 千穂	成人看護技術Ⅱ 成人看護実習Ⅰ	埼玉医科大学総合医療センター 5階西病棟
講師	志賀 路子	成人看護実習Ⅰ	埼玉医科大学病院 本館 8階病棟
講師	山口 みどり	成人看護実習Ⅰ	埼玉医科大学総合医療センター 6階西病棟
講師	早川 麻希子	成人看護実習Ⅱ	埼玉医科大学病院 南館 5階病棟
講師	伊藤 真理子	成人看護実習Ⅱ	埼玉医科大学総合医療センター 7階東病棟
講師	金森 恵美	老年看護Ⅱ 老年看護実習Ⅰ 老年看護実習Ⅱ	埼玉医科大学病院 本館 9階アイセンター
講師	鈴木 敦子	老年看護Ⅱ	丸木記念福祉 MC 特別養護老人ホームナーシングヴィラ本郷
講師	齋藤 由希	老年看護実習Ⅰ	丸木記念福祉 MC 薫風園 5階
講師	齋藤 宏一	老年看護実習Ⅰ	丸木記念福祉 MC 薫風園 6階
講師	小野 真利子	老年看護実習Ⅱ	丸木記念福祉 MC 本部 4階包括ケア病棟
講師	吉益 晴夫	精神看護Ⅰ	埼玉医科大学総合医療センター 精神神経科学教室
講師	梅村 智樹	精神看護Ⅰ	埼玉医科大学総合医療センター 精神神経科学教室
講師	安田 貴昭	精神看護Ⅰ	埼玉医科大学総合医療センター 精神神経科学教室
講師	藤井 良隆	精神看護Ⅰ	埼玉医科大学総合医療センター 精神神経科学教室
講師	嶋崎 広海	精神看護Ⅰ	
講師	長谷川 哲也	精神看護Ⅰ	
講師	浦田 実	精神看護Ⅰ	
講師	棚橋 伊織	精神看護Ⅰ	丸木記念福祉 MC 医局
講師	志賀浪 貴文	精神看護Ⅰ	埼玉医科大学総合医療センター 精神神経科学教室
講師	中島 崇博	精神看護Ⅰ	埼玉医科大学総合医療センター 精神神経科学教室
講師	小林 貴子	在宅看護学	
講師	大木 由美子	地域・在宅看護実習	
講師	原 智子	小児看護Ⅰ 小児看護Ⅱ	埼玉医科大学病院 東館こどもセンター外来
講師	佐藤 祐美	小児看護Ⅱ	埼玉医科大学病院 南館 4階病棟
講師	加藤 久栄	小児看護Ⅱ	埼玉医科大学病院 南館 3階病棟

講師	永野 真弓	小児看護Ⅱ	
講師	小林 由貴	小児看護実習	埼玉医科大学総合医療センター 3階東病棟
講師	加藤 暢子	基礎看護学	
講師	加藤 順子	母性看護Ⅰ	埼玉医科大学病院 南館 2階病棟
講師	小澤 千恵	母性看護Ⅱ	埼玉医科大学総合医療センター 周産期 3階病棟
講師	池田 光子	看護管理	埼玉医科大学総合医療センター 看護部長
講師	畠中 完	看護管理	埼玉医科大学病院 南館 5階病棟
講師	猿谷 倫史	災害・救急看護	埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センター
講師	武川 礼子	災害・救急看護	埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センター
講師	関口 六月	特別講義	埼玉医科大学病院 南館 3階病棟
講師	宮里 未来	特別講義	埼玉医科大学病院 南館 11階病棟
講師	友部 透	特別講義	埼玉医科大学国際医療センター A棟 5階病棟

*MC：メディカルセンター

③専攻科母子看護学専攻

専任

教授	稲井 洋子	助産学概論、乳幼児保健学、分娩期の助産診断・技術学、助産管理、母子看護学研究Ⅰ、助産管理実習、分娩期援助実習
講師	北川 典子	妊娠期の助産診断・技術学、産褥期の助産診断・技術学、周産期援助実習、分娩期援助実習、新生児援助実習、地域母子保健実習

兼任・非常勤

講師	岡本 喜代子	助産学概論	公益社団法人東京都助産師会館
講師	亀井 良政	母子健康管理学 助産形態・機能学	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	相馬 廣明	助産形態・機能学	
講師	梶原 健	助産形態・機能学	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	高井 泰	助産形態・機能学 生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科
講師	一瀬 俊一郎	助産形態・機能学 生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科
講師	板谷 雪子	助産形態・機能学 生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科
講師	齋藤 正博	助産形態・機能学 生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科
講師	照井 克生	助産形態・機能学	埼玉医科大学総合医療センター 産科・麻酔科
講師	高橋 幸子	助産形態・機能学 母子健康管理学	埼玉医科大学・医療人育成センター 埼玉医科大学病院 産科・婦人科（兼務）

講師	左 勝則	助産形態・機能学 生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学病院	産科・婦人科
講師	田丸 俊輔	助産形態・機能学 母子健康管理学	埼玉医科大学病院	産科・婦人科
講師	鈴木 裕之	助産形態・機能学	埼玉医科大学病院	産科・婦人科
講師	山口 哲	助産形態・機能学	埼玉医科大学病院	産科・婦人科
講師	難波 聡	母子健康管理学	埼玉医科大学病院	産科・婦人科
講師	田村 直俊	母子看護学研究 I	埼玉医科大学短期大学	看護学科
講師	荒川 浩明	母子看護学研究 I	埼玉医科大学短期大学	司書
講師	霜田 敏子	乳幼児保健学	埼玉医科大学短期大学	看護学科
講師	須田 幸子	母子栄養学	埼玉医科大学病院	栄養部
講師	竹下 美穂	母子栄養学	埼玉医科大学病院	栄養部
講師	齋藤 益子	性行動科学	関西国際大学	保健医療学部 看護学科
講師	齋藤 章佳	性行動科学	大森榎本クリニック	
講師	虎井 まさ衛	性行動科学		
講師	田之内 厚三	母性の心理・社会学		
講師	對馬 秀子	家族社会学		
講師	阿部 一子	産褥期の助産診断・ 技術学	あべ母乳育児相談室	
講師	側島 久典	新生児診断学	埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター 新生児科、埼玉医科大学医学教育センター	
講師	加部 一彦	新生児診断学	埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター 新生児科	
講師	國方 徹也	新生児診断学	埼玉医科大学病院	小児科
講師	本多 正和	新生児診断学	埼玉医科大学病院	小児科
講師	馬場 一憲	生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター 母体胎児部門	
講師	菅沼 真樹	生殖医学の生理と病理	東海大学	文学部 心理社会学科
講師	本橋 千恵美	地域母子保健学	埼玉医科大学	社会医学
講師	武藤 光代	助産管理	埼玉医科大学	看護部
講師	山口 次子	助産管理	埼玉医科大学病院	成育医療センター南館 2階病棟
講師	中島 桂子	助産管理	中島助産院	
講師	谷島 春江	助産管理	埼玉医科大学総合医療センター	看護部

講師	小口 麻衣子	妊娠期の助産診断・ 技術学、分娩期の 助産診断・技術学、 産褥期の助産診断・ 技術学
講師	斉藤 俊子	妊娠期の助産診断・ 技術学、分娩期の 助産診断・技術学、 産褥期の助産診断・ 技術学
講師	芹澤 深雪	分娩期援助実習

④教員人事異動

i. 採用

看護学科	脇本 直樹	教授	(令和4年4月1日)
専攻科	久慈 都	助教	(令和4年4月1日)

ii. 退職

看護学科	内田 貴峰	准教授	(令和5年3月31日)
看護学科	増田 睦美	助教	(令和5年3月31日)
看護学科	櫻井 邦恵	助教	(令和5年3月31日)
専攻科	久慈 都	助教	(令和4年5月31日)

2)専任教員による教育課程編成・実施の方針に基づいた教育研究活動の実施

専任教員の教育研究活動は当該短期大学のカリキュラムポリシーに基づいて行っており、成果をあげている。詳細は本誌P.163～174参照。教育研究活動の一環であるFD活動と委員会活動および埼玉医科大学短期大学特別助成金制度や短期大学紀要等については以下に示す。

(1)FD活動

看護学科

Plan

- ①今年度の目標設定：
- i. LMS を効果的に活用できる。
 - ii. 学生の態度を共有し、継続指導に活用できる。
- ②年間計画の立案：
- i. 研究懇話会の実施；2回／年
 - ii. 課題解決に向けた組織での取り組み；1回／月（8月除く）

③企画内容の検討・実施・評価:

- i. 各教員が問題意識を持ち、取り組む内容を提供する。
- ii. 組織で取り組む必要性がある内容についてディスカッションをし、具体策を立案する。
- iii. 具体策をもとに実施・評価する。

④令和4年度SD活動・FD活動報告書の作成

Do

①目標達成に向けて下記を実施した。

- i. 研究懇話会を2回、1時間/回、話題提供者各30分（質疑応答含む）実施した（表1）。

表1. 研究懇話会

月日（曜日）	テーマ	話題提供者	司会	書記	参加者
2022年 12月26日(月)	授業に対する学生の意見・要望 教務委員アンケートのまとめ	浅見	石川	霜田	21名 (2名 Zoom参加)
	自己学習を促す授業方法に向けた取り組み	今野			
2023年 1月24日(火)	小児看護の視点で見る学生支援	北田	浅見	石川	26名
	子どもの権利に関する諸々の話題	霜田			

②課題解決に向けた組織での取り組みとして8回実施した（表2）。

表2. 組織での取り組み

月日（曜日）	テーマ	方法	司会	書記	参加者
2022年 4月26日(火)	目標1: ① LMSの活用状況に関する事前アンケート結果についての報告 / LMSの基本情報とLMS活用について(小池先生)	講義 質疑応答	霜田	小野	25名
5月24日(火)	目標1: ②事例紹介 (小池先生) WebClassを活用したアセスメント力向上への取り組み(増田先生) / 高齢者の健康アセスメントの構成(持田先生)	事例紹介 質疑応答	浅見	小野	25名
6月22日(火)	目標2: ①現状・指導の共有	事例検討	石川	霜田	23名
7月26日(火)	目標2: ②指導の評価・現状・指導の共有	事例検討	布施	浅見	23名
9月27日(火)	目標1: ③各自の事例紹介/実践のための継続・改善点を明確にする(小池先生)	集合ワーク	小野	石川	24名
10月25日(火)	目標2: ①現状・指導の共有	事例検討	霜田	石川	21名
11月22日(火)	目標2: ②指導の評価・現状・指導の共有	事例検討	浅見	小野	22名
2023年 3月6日(月)	目標1: 最終評価 LMSを活用した実践報告(渡邊先生) 目標2: 最終評価 (小池先生)	グループワーク	布施	小野	20名

③FD 活動の企画会議を 13 回実施した。

Check

FD 活動企画会議で、年間計画の立案や企画内容の検討・運営・評価を実施した。今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のために密集を避け、5F 学修ホールや 3F・5,6 等の広い部屋を使用した。意見交換内容に応じて、1F 会議室で全体ディスカッションを実施した。自宅待機者が活動に参加できるよう、対面・集合と Zoom でのオンライン参加併用も行った。

研究懇話会は、話題提供者にとってはプレゼンテーション力や参加者とのディスカッション力などを向上させる機会となり、参加者も自らの研究テーマとは異なるテーマに興味・関心を示す良い機会となった。

今年度目標 1 に関しては、一年間の段階的な取り組みにより、他の教員の具体的な活用方法を知り参考になった、授業設計の重要性を共有できた、継続活用して更なるスキルアップの必要性を認識した等の意見から、LMS 活用に対する教員全体の受容につながったといえる。

目標 2 に関しては、PDCA、GPA、ルーブリック評価等をふまえた態度の共有と指導について、事例検討を中心に行ったことで、多様化する学生に対する指導の新たな課題を認識できた。

上記の取り組みにより、授業内容・方法を見直し自己の教育能力の向上に繋がったと考える。

Action

次年度も、研究懇話会は、教員の研究活動への意識付けとディスカッション力向上の場として継続する。

学生全般の基礎学力や学習スキルの不足等、様々な問題がみえてきている。学生一人一人の学修成果獲得に向けて、教員としての教育能力向上を目指す。新カリキュラムがスタートして 2 年目を迎える次年度は、新たな課題も予測される。その都度、改正の基本的な考え方に則ってタイムリーなテーマを提案し、教員全員で解決策を考えていけるようにする。

組織としての FD 活動の方法を検討し、FD 活動の目的である教育能力（看護師、教育者、研究者、社会人としての能力）の質の向上につなげていく（なお、詳細は SD 活動・FD 活動報告書に記載する）。

専攻科

Plan

助産師教員が授業内容・方法を改善し向上させるための取り組みとして、下記に取り組んだ。

- ①助産教育課程の専任教員の為の研修会の開催（若しくは研修会への参加）
- ②教員相互の授業参観の実施
- ③新任教員のための演習（教育方法と評価）の検討

Do

①助産師教員の為の研修会へ参加・意見交換の実施

全国助産師教育協議会の下記の研修会〔WEB研修〕へ参加し、専攻科内で意見交換する機会を持った。

- i. 令和4年8月27日(土) 全国助産師教育協議会関東甲信越地区研修会
「地域で支えるハイリスク母子」
- ii. 令和4年9月11日(日) 全国助産師教育協議会中国・四国地区研修会
「シミュレーション教育におけるファシリテーションスキル」
- iii. 令和4年11月12日(土) 全国助産師教育協議会東京地区研修会
「with コロナの周産期医療と助産師教育」
- iv. 令和5年2月25日(土)～3月12日(日) 全国助産師教育協議会全国研修会
「DX社会での教育の未来と助産ケア」

②教員相互の授業参観の実施

専任教員の不足により、他教員の授業へ参観する時間を設けることができず、授業進行状況を報告し合うことで授業進度状況を把握し合った。また、演習評価については非常勤教員ともに意見交換する機会を持ち、授業評価を行った。

③新任教員のための演習（教育方法と評価）の検討について

新任教員が途中退職したため、継続的な教育方法と評価を行うことはできなかった。

Check

①助産師教員の為の研修会へ参加・意見交換

今年度もコロナ禍にあり研修がWEB研修となった。そのため昨年同様に多様な研修を選択し、教育スキルを得る機会と、専攻科内での教育に活用する機会を意見交換できた。特にコロナ禍におけるシミュレーション教育やオンライン教育の工夫について、他校の状況を把握したり、意見交換する機会を得られたことは、本学専攻科でも参考にするべく有意義な時間となった。

②教員相互の授業参観の実施〔代替：授業状況の報告会より〕

各助産診断技術学の授業進行状況、演習状況を報告し意見交換を行い、授業参観の代用とした。結果、学生の学習状況を把握し教員の年間指導計画に反映させることができた。学生の状況として、下記が明らかになった。

- ・助産課程へ入学する以前の基礎看護学に関する学習内容や既に学習した内容の復習が不足し、グループワークがスムーズに進まない学生がいると、グループの到達も低い。予習内容の再周知と習熟度別のグループ編成も検討する。
- ・コロナ禍での影響として、学生自身の考えを発信し、提案できる学生が少ない。
- ・非常勤教員も参加した助産技術演習は、慣れ親しんだ専任教員よりも緊張感があり、また真剣にメモを取る様子が見られた。また、より多くの目が行き届くため、個々の学生の学習サ

ポートが行い易い。

Action

次年度も引き続き同様の FD 活動を続けてゆく。

- ①専任教員の為の研修会へ参加し、知識のブラッシュアップを図るとともに、専攻科 FD として意見交換を行い、本学の教育効果を高められるようにしていきたい。
- ②教員相互の授業参観の実施と意見交換の機会を設け、個々の学生の学習習熟状況に応じた継続サポートができるように工夫したい。
- ③新任教員の入職があれば、演習指導計画の指導とアドバイスを実施する。

(2)委員会活動

①全学委員会一覧

※任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年間）

※◎印は委員長

令和4年4月1日現在

			看護学科	専攻科	事務系
A 第2 火曜日 ブロック	代表者会議	丸木 学長 ◎久保 副学長 今野 学生部長 蒲生 広報部長	霜田	稲井	内田、相田 島田、堀江
	自己点検・評価委員会	丸木 学長 ◎久保 副学長	霜田、鈴木	稲井 (北川)	内田、相田 佐藤、島田
	入学試験委員会 ※任期1年間	丸木 学長 ◎久保 入試部長	霜田、蒲生 荒川	稲井	内田、相田 堀江
	広報部委員会	◎蒲生 広報部長	瀧山、小池 荒川、持田 増田、櫻井	久慈	内田、相田 佐藤、堀江
	IR委員会	丸木 学長 ◎久保 副学長	霜田、鈴木	稲井	相田、島田 矢部、荒川
	研究倫理審査委員会	丸木 学長 ◎久保 副学長	霜田、今野 浅見	稲井	相田、堀江
	研究審議委員会	◎丸木 学長 久保 副学長	霜田	稲井	相田、堀江
B 第1 水曜日 ブロック	教務委員会 (シラバス検討小委員会)		◎浅見、宮崎 渡邊	北川	相田、矢部 島田
	紀要委員会		◎今野、秋山 内田	北川	荒川
	保健管理委員会		◎脇本、浅見 石川、榎本	久慈	佐藤、島田 本間
	学生部委員会	◎今野 学生部長	鈴木、清水 北田	久慈 (北川)	相田、島田 本間

C 第2月曜日 ブロック	防災委員会		◎清水、持田	久慈	相田、矢部 島田
	学生便覧検討委員会		◎蒲生	北川	矢部
	情報ネットワーク委員会		◎宮崎、増田	久慈	島田
	図書館運営委員会	◎内田 図書館長		久慈	荒川

②専門部会一覧

※任期：令和4年4月1日～令和5年3月31日（1年間）

※◎印は部会長

令和4年4月1日現在

専門部会区分	専門部会		看護学科	専攻科	事務系
改革総合支援事業専門部会	教員評価企画部会	◎丸木 学長 久保 副学長	霜田 浅見	稲井	相田 島田 矢部
	高大連携企画部会	◎丸木 学長 久保 副学長	霜田 今野 浅見	稲井	相田 堀江
SD 活動企画部会		◎丸木 学長 久保 副学長	今野	稲井	内田 相田
長期総合計画企画部会		◎丸木 学長 久保 副学長	霜田	稲井	相田
学習環境整備部会		◎丸木 学長 久保 副学長	鈴木 宮崎 石川	北川	相田 堀江
県民の日 高校生「学び」 “夢” プラン 企画部会		◎丸木 学長 久保 副学長	霜田	稲井	堀江 本間

③全学委員会活動総括

入試委員会

Plan

本学看護学科および専攻科のアドミッションポリシーに基づいて的確に入学試験を実施し、本学の学生としてふさわしい人材を確保する。

- i. 学生募集要項作成
- ii. 入学者選抜日程等の決定・実施
- iii. 入学試験に関する書類の作成（実施要領、面接・調査書評価表等）
- iv. 入学前の準備と課題に関するアンケート実施・分析、入学前課題の決定（看護学科）
- v. 学校推薦型指定校の決定（看護学科）
- vi. 新型コロナウイルス感染症対応の追試験の決定（看護学科）

- vii. 多様な入試形態の検討（看護学科）
- viii. 志願者の維持・増加、定員数の確保

Do

- i. 埼玉医科大学短期大学入試委員会規則（平成 30 年 11 月 16 日改正）に則って委員会を 11 回開催した。
- ii. 令和 5 年度（2023 年）学生募集要項について検討した。
- iii. 本学看護学科および専攻科の令和 5 年度（2023 年）入学者選抜日程の決定と令和 6 年度（2024 年）入学者選抜日程（案）について検討した。
- iv. 看護学科は、2023 年度実施要領に基づいて学校推薦型選抜、一般選抜を実施した。2023 年度入学者選抜から学校推薦型選抜を A 日程（指定校含む）・B 日程と 2 回実施し、一般選抜（Ⅰ期、Ⅱ期）とあわせて 4 回実施した。学校推薦型選抜の出願資格の変更に伴い、面接・調査書評価表の修正をした。専攻科は 2023 年度入学者選抜実施要領に基づいて、学内推薦選抜、一般選抜／社会人選抜を実施した。
- v. 入学前の準備と課題に関するアンケート結果は、本誌 P.92「入学前教育」を参照（看護学科）。
- vi. 令和 6 年度（2024 年）看護学科の学校推薦型選抜指定校について検討した。
- vii. 看護学科 2023 年度新型コロナウイルス感染症対応の追試験（一般選抜Ⅱ期）について、実施要領等を検討し作成した。
- viii. 多様な背景をもった学生の受け入れへの配慮について、選抜方法などの検討を開始した（看護学科）。
- ix. 志願者の内訳・推移による志願者減少の原因の分析と受験者へのアンケート結果から、今後の対策を考えた。

Check

- i. 入学試験実施結果は本誌 P.11 参照。

看護学科は昨年度よりも学校推薦型選抜の志願者数は増加したが、一般選抜の志願者数は減少しており、総数はほぼ横ばいである。学校推薦型選抜が増加した要因は、今年度 B 日程を追加したこと、学校推薦型の募集人員を増やしたこと、指定校数・指定人数の見直しや高校に準じた「全体の学習成績の状況」の設定、公募制推薦の出願資格の見直しを実施したことと考える。また、志願者が昨年とほぼ横ばい状態の要因は、18 才年齢人口の減少、4 年制看護系大学の増加に伴う大学志向という状況から考えて必然のことと考えられる。今年度、学校推薦型選抜 B 日程を追加したが、志願者が少なかった。この要因は学生募集要項やホームページなどによる周知が十分でなかったため認知度が低かったことや、願書受付期間が短期間であったこと等があげられる。志願者が少ないことで、専門科目を学習するための基礎学力が身についた入学生の選抜が困難になる。専攻科は志願者数が昨年度と比べ若干減少している。今後は、助産課程の増設や学修課程の大学院化がみられることから、大幅な増加は期待できない。看護学科・専攻科ともに志願者数を少しでも増加、維持できるように検討して

いく。

ii. 令和 6 年度（2024 年度）学生募集要項について

令和 6 年度の入学選抜は、令和 5 年度と大きな変更はないが、学校推薦型選抜 B 日程の出願期間の変更がある。5 月完成をめざし検討することとした。

iii. 令和 6 年度(2024 年度)看護学科の学校推薦型選抜指定校について

入学試験種別に看護学科の入学後の GPA や留年・退学率をみると、例外はあるものの指定校の入学者は他の入学試験種別入学者よりも GPA は高く、留年・退学者は少ない。また、モチベーションも高く、比較的基礎学力が保障されていると考えられる。看護学科では学校推薦型選抜の指定校の見直しを毎年行っている。令和 5 年度(2023 年)の学校推薦型選抜指定校については、指定校および人数、学習成績の状況を見直し大幅に変更した。指定校の見直しの基準から、令和 6 年度（2024 年）の指定校については変更せず継続することにした。

iv. 令和 6 年度（2024 年度）入学試験日程について

令和 5 年度（2023 年度）の看護学科の学校推薦型 A 日程は、関連校と重なっていたが特に調整せず実施した。令和 6 年度（2024 年）入学試験日程は、志願者数を確保するために看護学科および専攻科入学試験日時が関連校とできる限り競合しないよう調整しながらも、令和 5 年度の日程に準じた入学試験日程に設定した。

v. 令和 5 年度(2023 年度)新型コロナウイルス感染症対応の追試験について

新型コロナウイルス感染症対応について検討した結果、昨年同様の対応をすることにした。専攻科の一般選抜／社会人選抜は追試験を実施せず、看護学科の学校推薦型選抜と看護学科の一般選抜で対応することにした。看護学科の学校推薦型選抜 A 日程で感染のために受験できない場合、受験料は徴収せず B 日程へ振り替えて受験、一般選抜 I 期で感染のために受験できない場合も、同様、一般選抜 II 期へ振り替えて受験、一般選抜試験 II 期で感染のために受験できない場合は、受験料は徴収せず追試験を受験できるように実施要領を作成した。これらはホームページ上に公表し、受験生へは文書で通知した。結果として、学校推薦型選抜 A 日程を受験予定だった受験生が、B 日程に振り替え受験した。

vi. 多様な背景をもった学生の受け入れへの配慮について

私立大学等改革総合支援事業における「多様な背景をもった学生の受け入れへの配慮」については、継続課題とする。

vii. 志願者数の維持・増加について

志願者を増やすために、情報を整理し対策を考えた結果、入学試験改革は令和 5 年度（2023 年度）に検討したことを継続し、学生募集広報活動については、他の短期大学や看護系大学などの学生募集の方法を情報収集し参考にしていく必要がある。また、高校や地方に積極的に出向いたり、在学生に母校訪問を依頼したりするなどの活動を広報部委員会に依頼する。高校訪問だけでなく、近辺の中学校との連携を企画する。

Action

志願者を減少させず、本学のアドミッション・ポリシーに合った入学生を確保できるようにするため、以下の活動をしていく。

- i. 他の短期大学や看護系大学などの学生募集の方法や、IR委員会の情報を共有した上で、本学の特色をだした活動をする（魅力ある短大づくり）。
- ii. 地方を含む高校への説明会や入試用ポスターの配布、高校訪問・母校訪問など広報部委員会と連携して積極的に実施していく。
- iii. 入学試験方法（試験日、試験種別、試験方法）の見直しを継続していく。
- iv. 看護学科の学校推薦型選抜における指定校の見直しを継続していく。
- v. 多様な背景をもった学生の受け入れへの配慮についての検討を継続していく。

広報部委員会

Plan

本学の教育研究活動の取組を広く社会に発信するとともに、学生募集を円滑に行うことを目的とする。

- i. オープンキャンパス・ミニオープンキャンパスの企画、運営
- ii. 本学への個別相談、団体見学の調整
- iii. 高校訪問の企画、調整
- iv. 学外説明会への参加、担当者の調整
- v. 電子媒体、紙媒体による広報（受験生インフォメーションの改訂、入試用Q&Aの修正、本学ホームページの更新、ホームページリニューアルに向けての準備、進学関連の電子媒体と紙媒体への広告）
- vi. 受験生アンケート「志望校決定について」の実施
- vii. 本学の教育研究活動の取組の公開

Do

学校法人埼玉医科大学委員会運営規程（平成11年3月20日制定）に基づき、埼玉医科大学短期大学に設置する埼玉医科大学短期大学広報部委員会（平成30年11月16日）の運営に則って、定例会議を実施した。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策と広報活動の両立を目指した。

- i. オープンキャンパス・相談会（6月）は対面来校型の開催を予定した。3月、10月の相談会は昨年度と同様オンラインを活用して開催した。開催に関するお知らせと申し込みフォームはホームページに公表し、参加者と連絡を取った。オープンキャンパスは看護学科3回（5月・7月・8月）、専攻科2回（7月・8月）実施した。8月に予定したオープンキャンパスはコロナ感染症第7波の影響を受け、看護学科2回開催予定を1回へ変更し、さらに看護学科・専攻科ともに方法を対面来校型からオンラインへ変更した。

- ii. 本学への個別相談、団体見学に対しては可能な範囲で対応した。
- iii. 高校訪問は指定校27校と訪問の許可が得られた13校を教職員4名で分担し訪問した。コロナ禍における高等学校の授業や志願者の状況、オープンキャンパスに関する要望などについて意見交換した。高校から本学への要望も受け、これらの内容は入試委員会へ提供した。
- iv. 学外説明会（高校生・予備校生対象）は、可能な限り参加し県外（遠方）の場合は資料を送付した。
- v. 電子媒体、紙媒体の広報
 - a. 過去3年出願のあった高校を対象に、看護学科の募集要項を郵送した。
 - b. 近隣の病院や看護系大学を対象に、専攻科の募集要項を郵送した。
 - c. 資料請求を希望する個人に対して、2,000冊を超えるパンフレット等の資料を郵送した。
 - d. メディアプラン「看護の学びしごと」に学生の原稿を掲載した。
 - e. リクルートスタディサプリ進路のアプリ（フォト・ムービー）の更新を行った。
 - f. ホームページの「入試 Q&A」の掲載を継続した。
- vi. 受験生アンケート「志望校決定について」を集計した。
 - a. 本学のホームページに、受験生のほぼ全員がアクセスしていた。
 - b. 看護学科の結果から、オンラインオープンキャンパスに参加した受験生は、学校推薦型選抜試験で98.5%、一般選抜試験では100%であった。本学を志望で参考にしたこと（複数回答）は、学校推薦型選抜試験では「パンフレット、ホームページ、オープンキャンパス」が多く、受験の決め手（複数回答）は「埼玉医科大学関連病院への就職、関連施設での実習、奨学金制度、アドバイザー制度、」であった。一般選抜試験もほぼ同様の回答であった。
 - c. 専攻科の結果から、受験に際して最も参考にした内容（複数回答）は、学生募集要項、本学のパンフレット、ホームページが多かった。
- vii. ホームページの専任教員「研究活動内容」に掲載している「教育研究活動の取組」を更新した。

Check

オンラインオープンキャンパス、高校訪問、学外説明会等の参加人数を含めた詳細は、学生募集の広報P.6～8を参照する。

- i. オンラインオープンキャンパスは看護学科・専攻科共に参加者の満足度は高く、ニーズに一致した企画・運営であったと考える。
- ii. 個別相談と団体見学への対応は中止した。その理由は、新型コロナウイルス感染者数の急激な増加のため、感染防止対策を適切に行いながら対応するのが困難なためである。
- iii. 高校訪問、学外説明会について
 - a. 高校訪問では、指定校の内、在校生が多く訪問の許可が取れた17校を訪問した。高校生の進路に関する志向や本学への要望といった情報を収集し、これらの情報を入試委員会へ提

供した。

b.学外説明会は17件参加し、参加者158名に本学の教育活動を紹介し、学生募集の一翼を担った。

iv. 電子媒体、紙媒体の広報

a.パンフレットの内容は一部修正し、増刷した。希望者や高等学校、業者などに郵送し広報に努めた。

b.ホームページは、最新の情報が提供できるように適宜更新した。オープンキャンパスの開催に関わる通知は、時期を逸すること無く示せたことから、オープンキャンパスの企画・運営がスムーズに行えた。

c.進学関連の電子媒体と紙媒体の広告は、費用の関係もあり庶務と相談して調整できた。

v. 受験生アンケートの考察

a.受験者のほぼ全員がホームページを閲覧していることから、ホームページの内容を充実させたり、レイアウトを工夫したりすることが求められる。スマートフォンからアクセスする場合も閲覧しやすいように整える必要がある。

b.受験生のほとんどがオープンキャンパスに参加しており、動画の視聴回数からくり返し視聴していたと推察される。そのため、受験生のニーズと一致した情報提供になるよう更なる工夫が求められる。

Action

- i. 本学の特徴を明確にして、その特徴を社会に正しく発信することを継続する。配信方法としては、ホームページやパンフレット、ポスター及び進学関連業者の広告（紙媒体と電子媒体）を用いる。更に、可能であれば在校生が出身校を訪問する「母校訪問」を強化する。
- ii. 受験生のニーズ及び学校選択に関わる志向等の情報収集を継続する。
- iii. アドミッションポリシーに基づいた入学生の確保を実現するために、高校生の進路に関わる志望や高校からの要望など、広報活動で得た情報を入試委員会へ提供する。

IR 委員会

Plan

埼玉医科大学短期大学 I R (Institutional Research) 委員会規則（平成 30 年 11 月改正）に則って委員会を 9 回開催した。目的は、教育、研究、その他の運営に関して、データを調査・収集し、分析することで得た客観的エビデンスを教育、研究、学生支援、経営等に活用し、本学の質の向上を推進する。この目的のもと、主に教学 IR の運営の基本方針に関することや教学 IR の取組の目標・計画及び評価に関することについて審議する。具体的には次に示す。

- i. 各部署からのデータ収集（教育、研究、学生支援、経営等に関する）
- ii. 分析のためのデータの統合と資料作成・管理
- iii. データの分析と課題の考察

- iv. 分析結果の報告（教授会、関係各部署へ）
- v. 分析結果の活用の促進

Do

- i. 卒業生・修了生の動向調査と分析
 - a. 卒業時・修了時に動向調査を実施した。卒後・修了後 1 年目および卒後・修了後 3 年目、卒後・修了後 5 年目の卒業生・修了生に動向調査を実施した。
- ii. 看護学科 1 年次生にプレースメントテストを実施し、令和 4 年度入学生の基礎学力の傾向を分析した。
- iii. 看護学科・専攻科の学生にアセスメントテストを実施し、結果を分析した。
- iv. 看護学科卒業生に卒業時配布したディプロマ・サプリメントに対するアンケート(WebClass)を実施した。
- v. 入学試験種別 GPA 分布図、退学・留年数を確認し、分析・活用方法を検討した。
- vi. 高校・入学試験種別・プレースメントテスト（看護学科のみ）・アセスメントテスト・GPA 等の関連を確認した。
- vii. IR 機能強化に資する研修の受講に関しては、事務部が申し込み研修を受けた。
- viii. 本学における自己点検・評価体制図を検討した。

Check

- i. 卒業生・修了生の動向調査と分析

今年度の調査対象となった学生は、卒業時・修了時は 2023 年 3 月の卒業生・修了生、卒後・修了後 1 年目は 2022 年 3 月の卒業生・修了生、卒後・修了後 3 年目は 2020 年 3 月の卒業生・修了生、卒後・修了後 5 年目は、2018 年 3 月の卒業生・修了生であった。回収状況は表の通りである（表 3、表 4）。

表 3. 看護学科

	対象者数	回収件数	回収率(%)
卒業時	89	86	96.6
卒後 1 年	97	88	90.7
卒後 3 年	56	47	83.9
卒後 5 年	29	24	82.8

表 4. 専攻科

	対象者数	回収件数	回収率(%)
修了時	21	21	100
修了後 1 年	20	13	65.0
修了後 3 年	20	8	40.0
修了後 5 年	18	9	50.0

看護学科、専攻科ともに登校時に調査をしたため、回収率はアップした。

看護学科は卒後の年数が経つに連れて調査対象者数が減少している。特に卒後 3 年目の減少が目立つ。これは種々の理由により就職時の職場に在職していないためではないかと考えられる。法人関連施設における本学の卒後 3 年目の離職率は 35.1%（2022 年 4 月現在）であり、昨年

度の卒業後 3 年目の離職率 38.8%よりも低下した。2020 年度の厚生労働省の報告によると、短期大学卒業生の卒業後 3 年目の離職率は 41.4%、医療福祉系は 38.6%である。このことから考えると、3 年目で調査対象者が減少しているのは平均的な数値であるといえる。

専攻科の回収率は修了後の年数が経つに連れて下がっている。これは就職した施設における助産師としての業務内容が影響しているのではないかと考えられる。法人関連の施設は、正常分娩よりも、高度医療の対象となる異常分娩の援助が多い。このため、修了生は正常分娩の経過をとる対象への助産経験を希望し他施設へ異動する傾向があるため、容易に連絡がつかず回収率も低くなっているのではないかと考えられる。2020 年厚生労働省の報告では大学卒業後 3 年目の離職率は 31.2%である。専攻科は看護基礎教育プラス 1 年間と考え、大学卒業後 3 年目の離職率と比べて分析する必要があったが、修了生の回収率が低いため正確なデータが収集できなかった。

看護学科・専攻科ともに、結果を在学生に向けて卒業後・修了後のキャリアアップの参考にできるように周知していく。

ii. プレイスメントテスト

看護学科は 2019 年から、「学生自身が自己の基礎学力を客観視し、専門科目を効果的に学習する方法を身につけられるようにする」という目的でプレイスメントテストを実施している。教員はこの結果を活用し、学生個々の基礎学力に応じた指導方法を追究し、学習効果を高められるように支援している。

今年度のプレイスメントテストは、昨年度と比べると、2.5 ポイント低く、過去 4 年間で下から 2 番目であった。数学・国語・生物・化学の全科目が昨年度より低かった。

今年度の卒業生の他のデータ（受験した入試種別、3 年間の GPA、アセスメントテスト結果、国家試験対策模擬試験の結果等）とこのプレイスメントテスト結果と関連づけて分析した。プレイスメントテストで基礎学力の高い学生は、さらにモチベーションを高めレベルアップできるように支援し、低い学生は、基礎学力を補強しながら専門的な知識・技術が修得できるように早期から個別指導を行っていく必要がある。

iii. アセスメントテスト

a. 看護学科

看護学科は学年末に 1 回実施している。今年度の結果は、1 年次生の平均点は 70.2 点（昨年度 72.3 点）、2 年次生は 78.3 点（昨年度 77.6 点）、3 年次生は 96.6 点（昨年度 96.5 点）であった。1 年次生は、昨年度と比べ低下しているが、2,3 年次生は若干アップしている。緩やかではあるが学習が進むにつれて専門的な知識が身につけていることがわかる。

学生が不得意とする問題は、1 年次生で最も回答率が低かった問題は、「ホルモン」であり、次に低かったのは「正常産の定義」であった。2 年次生で最も低かったのも「ホルモン」であり、

次は「国民医療費」についてであった。3年次生で最も低かった問題は、「褥瘡分類」であり、「ホルモン」や「老年期の人口の割合」が次いで低かった。これらの知識は想起しながら看護専門分野で活用していくものである。看護教員一人ひとりが自分の担当分野の中で、学生個々が活用できるように具体的に指導していく必要がある。

また、1年次生よりも2年次生の正解率が低い項目が12項目あった。この時期、2年次生は臨地実習を除いて、すべての専門科目の講義・演習が終了していることから、既習の内容を復習し、看護専門科目の内容と関連づけて学習するということが不足しているのではないかと考えられる。アドバイザーと連携し学習方法の指導をしていく。

b. 専攻科

今年度は2回実施した。1回目の平均得点は31.3点（昨年度31.3点）、2回目は46.7点（昨年度46.8点）であった。1回目よりも2回目の平均得点はアップしている。昨年度の学生とほぼ同じである。2回とも看護師国家試験程度の問題は、得点が高い傾向であるが、助産師としての専門領域に関する難易度の高い問題は、得点が高い。択二問題は曖昧な記憶で回答していることがわかる。今年度の学生は、正解率が高い学生と低い学生の差が大きかった。

iv. ディプロマ・サプリメントに対するアンケート

学修成果を可視化したレーダーチャートについて、看護学科の卒業生にアンケートを実施した結果、「自己分析しやすい」、「良い点・不足点が明確になった」という回答がある一方で、「自己評価と他者評価の乖離についての疑問」や「見方がわからない」という回答もあった。

v. GPA 分布図の活用

入学試験種別 GPA 分布図、退学・留年数の資料を活かすため、分析・活用方法を IR 委員会から発信していく必要がある。

vi. 高校・入学試験種別・プレイスメントテスト（看護学科のみ）・アセスメントテスト・GPA 等の関連

今年度の卒業生の他のデータ（受験した入試種別、3年間のGPA、アセスメントテスト結果、国家試験対策模擬試験の結果等）とプレイスメントテスト結果と関連づけて分析した。その結果、プレイスメントテストで高得点の学生は GPA、アセスメントテスト、模擬試験結果ともに高いレベルを維持している。また、反対にプレイスメントテストの得点が低かった学生は、他のデータも低レベルに位置する傾向がみられた。これらのデータは、学生の傾向を入学時早期に把握し、教員も一連のデータを活用しながら、学習効果を高められるように個別支援をしていく必要がある。

- vii. 教育サポートスタッフの研修
受講に関しては、事務部が申し込み講習を受けた。
- viii. 本学における自己点検・評価体制図
自己点検・評価体制図に IR 委員会との関連性を追加した。

Action

- i. 卒業生・修了生の動向調査と分析
 - a.卒業時・修了時 b.卒後・修了後 1 年目 c.卒後・修了後 3 年目 d.卒後・修了後 5 年目
- ii. プレイスメントテスト実施（看護学科 1 年次生）、結果の分析、学生への周知・指導
- iii. 看護学科・専攻科アセスメントテスト実施、結果の分析、学生への周知・指導
- iv. 看護学科ディプロマ・サプリメントの活用状況の把握
- v. 入学試験種別 GPA 分布図、プレイスメントテスト（看護学科のみ）・アセスメントテスト・GPA 等の関連表の教員への周知・活用
- vi. IR 機能強化に資する研修の受講

研究倫理審査委員会

Plan

埼玉医科大学短期大学研究倫理審査委員会規定（平成 30 年 11 月改正）に則って、本学看護学科および専攻科における人を対象とする研究（教材も含む）に関し必要な事項について、倫理性及び科学的な観点から調査及び審議する。審議事項は、主に研究計画書の審査に関する事、研究成果の公表に関する事である。

Do

令和 4 年度は、合計 10 件の倫理審査の申請（表 5）があり申請受理後、その都度会議を開催し審査した。申請内容の内訳は以下の表の通りである。

表 5. 令和 4 年度 申請状況

		申 請 件 数 (件数)	
学内 (9)	教員 (6)	看護学科	(6)
		専攻科	(0)
	学生 (3)	看護学科	(3)
		専攻科	(0)
学外 (1)			(1)

表 6. 平成 28 年度～令和 4 年度 申請状況

(件数)

年度(西暦)		H.28	H.29	H.30		R.1	R.2	R.3	R.4	
		(2016)	(2017)	(2018)		(2019)	(2020)	(2021)	(2022)	
学内	教員	看護学科	8	7	6		2	6	4	6
		専攻科	1	4	3		1	0	0	0
	学生	看護学科	3	5	1		2	1	2	3
		専攻科	18	18	0		0	0	0	0
学 外		4	4	0		0	0	1	1	
合計		34	38	10		5	7	7	10	

Check

- i. 今年度は申請件数が昨年度と比べ、若干増加したが、平成 28 年、平成 29 年度と比べると減少した状態を維持している（表 6）。9 件は学内からの研究倫理審査申請であった。教員から申請された研究計画書 6 件のうち 1 件は、審査の結果、再審査と判定され、その後アンケート実施時期までに研究計画書の修正が間に合わず倫理審査取り下げの申請があった。審査の結果、8 件中 1 件は 1 回の審査で承認された。6 件は条件付き承認となり、計画書を修正し再提出されたものを委員会で確認した。1 件は再審査となり、再提出されたものを審査した結果、条件付き承認となり、再々提出された計画書を委員会で確認した。
- 条件付き承認や再審査となった研究は、研究方法や倫理的配慮等、十分に検討されないままの申請になっている傾向がみられた。今年度の申請中 1 件は、外部からの学生へのアンケート調査実施の依頼であった。申請内容を検討した結果、倫理的に問題ないということで承認の返事をし、調査に協力することになった。
- ii. 平成 27 年に研究倫理審査委員会規定が定められ、正式に委員会が発足してからの申請状況の推移をみると、大きな変化は専攻科生からの申請がなくなったことである。分娩介助例数の確保が厳しくなる状況下、実習と並行する「母子看護学研究Ⅱ」は選択科目であり、研究する時間を十分に確保することが難しく、履修者の優先度は低くなっていることが伺える。看護学科の学生からの申請は、個人研究でなくグループ研究になってきたものの、徐々に増加傾向ではある。看護研究を履修している学生のうち、人を対象としない文献研究を実施しているグループも多いことから、倫理委員会への申請には至っていないと考えられる。しかし、学生の状況を見ると、基礎学力の低下からか、臨地実習や国家試験に向けての学習と同時に看護研究をこなすことが困難であり、今後も看護研究を履修する学生の増加は期待できないのではないかと考える。
- iii. 教員の申請数は横ばいである。これは教員の欠員や、学生の基礎学力の低下が要因となって

いることが考えられる。基礎学力の低下により、学生への学習指導に時間を要するようになってきたことや新型コロナウイルス感染症予防への対応も加わり、研究活動が思うようにできなかったのではないかと考える。研究活動は教育活動や学生指導等、多忙な業務の中での活動ではあるが、大学教員としての責務であるので努力していく必要がある。

- iv. 委員の役割遂行のための活動として、今年度も学校法人埼玉医科大学主催の「公的研究費の適正使用」に関する研修会への参加や、研究倫理向上 e ラーニング受講などを行い学習してきた。より適正な倫理審査を行うためにも、さらに学習を継続していく。

Action

- i. 教員、学生に対して研究倫理の教育を強化する。(オーサーシップに基づいた研究分担の明確化など)
- ii. 審査委員のスキルアップのため研修を受講する。

教務委員会・シラバス検討小委員会

Plan

- i. 教育課程の編成及び授業計画
- ii. 授業成績の評価の基準
- iii. 学生に対する履修指導
- iv. 定期試験の調整・運営
- v. その他教務に関する事項への対応

Do

12回の定例会議を開催し、計画に沿って実施した。

- i. 教育課程の編成及び授業計画
 - a.2022年度新入生オリエンテーション、看護学科2,3年次生オリエンテーションを実施した。
 - b.2022年度新カリキュラム開始に伴う1,2年次生合同授業の方法を検討した。
 - c.2023年度授業日程・学事予定・学年暦を作成した。
 - d.2023年度時間割を作成した。
 - e.2023年度新入生オリエンテーション、看護学科2,3年次生オリエンテーション日程を作成した。
 - f.2023年度シラバスの編集と発行を行った。詳細はシラバス作成状況(P.66)参照
- ii. 授業成績の評価の基準
 - a.成績は多様な評価方法で行い、評価基準を学生に提示するようにした。
 - b.GPA実施規則に則り、前期GPA、年度末GPAを学生に提示した。成績不振者にはアドバイザーによる個別指導を行った。看護学科では、学生が学習状況や成績を確認し、学修管理できるように、科目ごとのPDCAを活用した。

- c. 教員・科目間の成績評価の平準化について検討し、科目 GPA を教員間で公開することとした。
- iii. 学生に対する履修指導
 - a. 前期・後期の開始時に履修登録に関するオリエンテーションを行った。
 - b. 履修登録の申請、確認を行った。
- iv. 定期試験の調整・運営
 - a. 2022 年度試験日程・試験監督者の調整を行った。新型コロナウイルス感染者及び濃厚接触者の試験期間の出席停止に対し、追試験の調整を行った。
 - b. 試験結果は学内掲示板と WebClass で伝達した。内容のフィードバックは、個別または集団で行った。非常勤講師担当科目の一部については、事務部と専任教員で協力してフィードバックを行った。
- v. その他教務に関する事項への対応
 - a. 2023 年度非常勤講師の異動状況の調査及び調整を行った。
 - b. 成績優秀者への学習上の配慮として、2 年次生は看護学セミナーの領域選択の優先、3 年次生は実習で活用できる記念品の贈呈を行った。

Check

- i. 教育課程の編成及び授業計画
 - ほぼ予定通り授業を実施できた。1, 2 年次生合同授業の方法は、対面集合授業からオンライン授業に変更して行うことで、学生の学習環境に配慮することができた。2023 年度時間割は、教室の調整に苦慮した。2023 年度シラバス記載要領の検討では、成績評価基準を学生に明示すること、小テストやレポート課題を実施する場合は、該当回の内容に明示すること、課題に対するフィードバック欄を追加した。
- ii. 授業成績の評価の基準
 - 看護学科では、科目ごとの PDCA について、アドバイザー教員から指導を行った。しかし、学生自身の学修管理につながったという評価ができていない。
- iii. 学生に対する履修指導
 - 予定通り実施できた。
- iv. 定期試験の調整・運営
 - 新型コロナウイルス感染者及び濃厚接触者の試験期間の出席停止に対する追試験の調整は、学生の不利益にならないよう配慮して実施できた。試験結果のフィードバックについては、十分に実施できなかった科目もあった。
- v. その他教務に関する事項への対応
 - 成績優秀者への学習上の配慮に対し、当該学生からは「うれしかった」、「看護学セミナーの領域選択が優先されたのはとてもよかったので続けてほしい」という感想があった。意見と

して、学習意欲につながらない、他の学生から課題を見せてほしいなどと言われる、学費の免除などがあると学習意欲につながる、などがあつた。

Action

i. 教育課程の編成及び授業計画

看護学科では、コロナ禍における学内実習の実施、新カリキュラムでの演習科目の増加により、教室（特に実習室）の調整が困難であったため、時間割と併せて継続検討する。1, 2 年次生が新カリキュラムでの授業となるため、旧カリキュラムの授業科目の読み替えを確認する。

ii. 授業成績の評価の基準

科目ごとの PDCA について、学生の学修管理への効果を確認する。教員・科目間の成績評価の平準化の整備に科目 GPA を活用する。

iii. 学生に対する履修指導

計画通り実施する。

iv. 定期試験の調整・運営

課題に対するフィードバックを全科目で十分に実施できるよう、調整する。

v. その他教務に関する事項への対応

成績優秀者への学習上の配慮について継続し、他の配慮について、学生からの意見を参考に検討する。

紀要委員会

Plan

i. 第 34 巻埼玉医科大学短期大学紀要の編集・発行

- a. 令和 4 年 2 月末、原稿募集メールを配信し、演題エントリーを 4 月末日とした。
- b. 原稿提出 8 月末日とし、原稿審査結果報告書提出を 10 月下旬とした。
- c. 訂正原稿提出とその原稿の確認は 11 月中に行う。
- d. 印刷依頼を令和 5 年 2 月に行い、3 月に発行する。

Do

- i. 9 月に委員会を行い、第 34 巻の演題エントリーを確認した。
- ii. 原稿の提出は 8 編(原著 1 編、報告 7 編)であったものの、原著 1 編は取り下げの申し出があり、報告 7 編のみ原稿審査や訂正原稿の確認を行った。
- iii. 第 34 巻埼玉医科大学短期大学紀要の編集を行い、発行に必要な手続きを行った。

Check

- i. 演題エントリーの追加募集はせず、第 34 巻埼玉医科大学短期大学紀要(報告 7 編)を令和 5 年 3 月に発行できた。

Action

- i. 第 35 卷埼玉医科大学短期大学紀要の編集・発行を継続する。
- ii. 埼玉医科大学関連施設、職員キャリアアップセンター、関連学校を通じて投稿を募集する。
- iii. 投稿しやすくするために、演題エントリー(投稿する意思の表明)を 10 月・1 月・3 月の年 3 回とする。

保健管理委員会

Plan

- i. 学生の保健相談
- ii. 定期健康診断
- iii. B 型肝炎抗体価検査およびワクチン接種（抗体陰性者）
- iv. 麻疹・風疹・ムンプス・水痘の抗体価検査：看護学科 1 年生、専攻科生対象
- v. インフルエンザワクチン接種：希望者対象（実費）
- vi. 学生の健康上の問題が生じた場合の対策協議
- vii. 新型コロナウイルス感染拡大防止対策

Do

- i. 定期健康診断の日程および役割調整（4 月メール会議）
- ii. インフルエンザワクチン接種の日程調整（9 月メール会議）
- iii. B 型肝炎抗体価検査および麻疹・風疹・ムンプス・水痘の抗体価検査の実施
- iv. B 型肝炎ワクチン接種の実施
- v. インフルエンザワクチン接種の実施
- vi. 新型コロナウイルス感染拡大防止対策の実施、注意喚起、健康管理シートの配付・チェック

Check

定期健康診断、B 型肝炎ワクチン接種、インフルエンザワクチン接種は予定通り行われた。インフルエンザワクチン接種の希望者は例年より減少した。新型コロナウイルス感染拡大防止対策については健康管理シートの配付を行った。臨地実習前後では体調チェックを徹底できたが、それ以外では昨年までのようなチェックを行わなかった。全国的な感染状況に比例して学生の感染者や濃厚接触者の数が増減した。学内での感染拡大は防止できた。

Action

- i. 新型コロナウイルス感染拡大防止対策に応じて実施スケジュールを調整する。
- ii. インフルエンザワクチン接種の必要性について、実習直前の 1 年次生、国試を控えた 3 年次生と専攻科生に強調して伝える。
- iii. 新型コロナウイルス感染拡大防止について、他の委員会と協力しながら対策を継続する。

学生部委員会

Plan

本学学生の有意義な学生生活をめざし、次の事項を協議する。

- i. 学生の学内外における事故、事件等への対応と処理
- ii. 学生会活動および諸行事の開催についての検討
- iii. 学生のルール・マナーの徹底
- iv. 学生の福利厚生に関する事項
- v. 学則 28 条の罰則に関する事項
- vi. 学生寮の生活指導に関する事項
- vii. 新型コロナウイルス感染症対策に関する事項
- viii. 教授会より委嘱された事項

Do

本年度は 11 回の定例会議と複数回の臨時会議を実施し、次の対応を行った。

- i. 学生の学内外における事故、事件等への対応と処理
今年度は、他者へ被害が及ぶ事故や事件は発生しなかった。
- ii. 学生会活動および諸行事の開催についての検討
 - a. Web 会議システムを活用した学生総会にむけて指導・支援を行った。
 - b. クラブ活動について、顧問と教職員の協力を得て活動の助言をした。
運動系等、活動を自粛する中、華道部、日本舞踊部、茶道部、軽音部が活動を継続するにあたり、感染対策とその実施を確認した。新入生への部活紹介や入部促進のためのアナウンスに協力した。
 - c. 学年ごとに交流を図る新入生歓迎ビンゴ大会やクリスマス会の企画に際しては、学生の主体性を尊重して助言した。
 - d. 遙光祭は看護学科の学生が企画・運営を務め開催した。謝恩会にかわる御礼状の発送が円滑に行えるように助言した。
 - e. エントランスホールにクリスマスツリーを飾って季節感を味わった。
 - f. 生活支援用品の補充を学生主体で継続できるように助言した。
- iii. 学生のルール・マナーの徹底
 - a. ポスター掲示の他、口頭で交通ルール、SNS 使用の注意、歩きスマホの注意を促した。
 - b. 校内の整理整頓（特にロッカールーム）と貴重品の管理について指導した。
 - c. 定期的に犯罪被害に遭わないための注意を促した。
- iv. 学生の福利厚生
昨年度と同様に昼食時間前後のウェルフェアの出張販売を行った。出張販売での商品購入や職員食堂の利用に必要なライトカードを配布した。

v. 学則 28 条の罰則に関する事項

20 歳未満の飲酒への対応や臨地実習中の感染防止行動の不履行について対応した。また、認定課題に対する不正行為に対応した。

vi. 学生寮の生活指導に関する事項

a. 学生寮の防犯対策、寮規約についての指導を強化した

b. 「学生寮における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対応について」を見直し、陽性者の養・濃厚接触者の待機が、学生寮内で安全に過ごせるように整え実施した。

c. 学生が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に感染したり、濃厚接触者になったりしたときに、教職員から共通の指導が受けられるように、教職員へ情報提供を行った。

vii. 新型コロナウイルス感染症対策に関する事項

a. 「新型コロナウイルス感染症対策における学生対応について」に基づいて指導した。

b. 「新型コロナウイルス感染対策に向けた報告書」を利用した報告を継続した。

c. アルバイトは原則禁止だが、学生の諸事情を考慮し 12 月から申請を受け付けた。申請した学生へは個別に面接を行い許可した。

d. 校舎利用時間（月～金：午後 6 時 30 分、土：午後 5 時、日・祭日：閉館）を継続し、校舎利用時間終了後に教職員が見回りを実施した。学生の帰宅を促し、施錠の確認を行った。

e. 学年別の昼食場所の調整、週番業務の①昼食時間の黙食の啓発、②環境清拭クロスの確認・補充、共有スペースの整理整頓について指導を行った。

f. 学内に環境清拭クロスを設置・管理した。エアドッグは看護学科の教員が定期的に点検・整備を行い正常に作動している。換気のタイミング・方法を教室毎に明示した。

g. 学内の椅子や机は、消毒してから利用するように指導した。

h. 教授会より委嘱された事項

主に、新型コロナウイルス感染防止対策(学生寮の指導や PCR 陽性者の対応等)を検討した。

Check

Plan ii, iii, iv, vi, vii について述べる。

学生会活動および諸行事開催については、Web 会議システムを活用した学生総会で、学生会則の改定や学生会役員を選出、学生会費の決算や遙光祭の決算報告などの承認を行った。諸行事も学生主体で工夫し運営している。ルール・マナーの徹底については、接遇指導内容は概ね守られているが、歩行時のながらスマホや学内の節電、犯罪被害に遭わない為の指導を継続した。

学生の福利厚生については、ウェルフェアの構内出張販売が再開された。職員食堂の利用も再開されたため必要なりライトカードも配付した。学生寮の生活指導については、例年から継続

して寮長と副寮長を中心に感染対策を講じた寮生活が継続できるように指導した。コロナ陽性者が発生した際は「施設療養」を希望するようにしたが、感染者数の増加に伴い寮内で療養するケースもあった。寮内で隔離を確実にいきクラスタの発生が予防できるように、病院感染対策室の助言を受けながら対応した。学生寮でクラスタは発生しなかった。

Action

- i. 学内外における事故、事件への対応：例年の指導を継続して実施する。
- ii. 学生会活動および諸行事の開催については、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけの変更に応じて学生主体で運用できるように指導する。
- iii. ルール、マナーの徹底として次の内容を継続指導する。
SNS の利用に関するルール、駐車場・駐輪場の使用、交通ルールの遵守、節電、歩行時のながら行為の禁止（スマホ）など。
- iv. 学生の福利厚生：出張販売内容（学生の希望する商品）についてウェルフェアと調整する。
- v. 学生寮について
 - a.寮生が安全に安心して勉学に取り組めるよう、寮生活のルールを継続して指導する。
 - b.新型コロナウイルス感染症は病院や保健所の指示に従う。
 - c.インフルエンザ等の感染性疾患の場合は、原則として自宅療養とする。
 - d.災害時の寮内一斉連絡方法を防災委員とともに考える。
- vi. 新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけの変更に応じた感染対策について、保健委員をはじめ関連委員と連携・協力し指導する。

その他

教員と学務課職員が密に連絡をとり、各情報を共有し話し合い、必要時役割を分担する。

防災委員会

Plan

活動目的：防災意識の向上を図る。

- i. 防災避難訓練
- ii. 学生寮（13 宿）の避難訓練
- iii. 防災標語の作成
- iv. 短期大学の備蓄品の点検、整備

Do

- i. 防災避難訓練は感染症対策のため、学科および学年毎、新年度オリエンテーション内で実施した。

目的：災害発生時において、迅速かつ適切な消防、避難および援助が実施できる。並びに防災意識の高揚を図る。

目標：火災または大規模な地震発生時に速やかに避難できる。

日程：3月30日（水） 新2・3年次生 5月2日（月）1年次生・専攻科

- 内容：a. 避難訓練前に、避難時の基礎知識の動画の視聴と講話を実施した。また、新 2・3 年次生には心肺蘇生法や AED の実演を加え実施した。
- b. 各教室での講話後、避難場所（憩いの広場）までの避難訓練を実施した。憩いの場では、学年毎に災害時の援助を実施した。1 年次生・専攻科は、西入間広域消防の協力を得て、消火器の使用方の説明と実演を実施した。2・3 年次生は、担架での避難を実施した。避難訓練後に課題を課した。
- ii. 学生寮（13 宿）の避難訓練は、大雨の影響で 7 月から後期に移動になった。1・2 年次生は 9 月 29 日（木）、3 年次生は 11 月 5 日（土）に実施した。避難訓練前に、「防災グッズ」の点検や動画の視聴、災害時の携帯トイレを紹介した。避難訓練は、ベランダから非常階段を利用した方法での避難を実施した。訓練終了後に、学びと感想、防災グッズの点検を課した。
- iii. 防災意識の向上をはかるため、学生から防災標語を募集し構内に掲示した。防災標語は、全部で 118 作品が集まった。構内に掲示する標語を、投票で 10 作品選び、毎月 1 枚ずつ掲示した。
- iv. 災害備蓄品（飲料水等）の数量と賞味期限を確認し、適宜追加購入した。
- v. 学科ごとに保管している危険物（火災の原因となる物、鋭利な物、薬品類）の設置、保管状況を点検した。
- vi. 「埼玉医科大学短期大学 災害時発生時避難マニュアル」、「学内での災害・事故・事件等発生時の緊急連絡先」、「火災・地震等における避難心得」の掲示を確認し、学生に周知した。
- vii. 地震発生後の教職員行動マニュアルを新任教職員へ配付した。
- viii. 学生便覧に記載されている「防災関連事項」について検討し、追加・削除等の修正を行った。
- ix. 消防設備について、法令点検を 2 回受けた。
- x. 火元責任者の確認、提示を行った。
- xi. 教職員の防災意識を図るため、職員対象に外部業者（大野消防）から、消火栓の使用方の説明を受けた。年度末の開催だったため、委員以外の参加はなかった。
- xii. 埼玉県からの「災害救助用備蓄食材の有効活用」の依頼時は、災害時の意識の向上を図る目的で缶入りパンやレトルト粥を申し込み、学生に配布した。

Check

- i. 防災避難訓練は、学生の態度が良好で、大きなトラブルなく終了した。避難後の説明時、消防車と学生の位置が近すぎたため、事前に打ち合わせをする必要があった。訓練後の学びや感想では、心肺蘇生や消火栓・避難梯子の使用方の動画、担架による搬送などに対し「実施して良かった」等の意見が多かった。中には「実際に避難梯子を体験したい」との意見もあり、防災意識の向上を図ることができた。

- ii. 学生寮の避難訓練は、ベランダからの避難や防災グッズの提示、携帯トイレの紹介などに対して、「避難経路が確認できて良かった」、「防災グッズの重要性や準備した分だけでは不足していることが分かった」、「トイレが使用できない時の対処方法を知ることができた」等の意見が多く、防災意識の向上を図ることができた。
- iii. 防災標語は、避難訓練後の課題と一緒に提示したため、例年よりも多くの応募があった。防災に対する意識づけに繋がった。
- iv. 災害備蓄品の数量と賞味期限の確認を行い、災害時の準備状況の確認ができた。また、薬品庫内の在庫確認を行い、危険物の点検と整理ができた。
- v. 学生への防災意識に関する啓蒙活動により、災害時の行動に役立つよう働きかけることができた。しかし、教職員対象の「消火栓の使用法の説明会」を開催したが委員以外の参加者はなく、防災意識の向上に繋げることができなかった。

Action

- i. 防災避難訓練は、新型コロナウイルスの状況により全学生同時の訓練も可能になる。今回の訓練内容をふまえ、学科や学年別に段階を踏んで目標が到達できるよう、訓練内容や方法を検討し実施する。
- ii. 学生寮の避難訓練は、各学年のカリキュラムの進度が異なるため予定を組むのが難しかった。今後は年度初めに実施予定日を決め、準備を進める。また、自治寮のため学生自身が身を守るための行動が図れるよう、学生の意見も取り入れ実施する。
- iii. 今後も、防災意識に関する啓蒙活動を行ない、災害時の行動に役立てられるよう働きかける。また、新型コロナウイルスに伴い全教職員参加の訓練が実施できていない。学生だけでなく、教職員の防災に関する知識や意識を高める方法を検討し企画・実施する。

学生便覧検討委員会

Plan

- i. 2022年度（令和4年度）学生便覧の掲載事項及び令和5年度学生便覧の発行に関する審議を行う。

Do

- i. 2022年度学生便覧を配付した。
 学生：新入生に対しては看護学科（4月4日）・専攻科（4月7日）ともにオリエンテーションの際に冊子を配付した。看護学科2年次生には4月7日、3年次生には4月6日に配付した。
 教職員：4月1日に配付した。
- ii. 2022年度学生便覧の正誤を確認し、以下の追加・訂正を行った。
 a.p.59 看護学科教員2名の研究室および電話番号を訂正した。（4/5 掲示・メール）
 b.p.6 ディプロマポリシーに係る文言、p.60 教員氏名に誤植があり、訂正した。

c.p.8、p.18、p.25、p.60に脱字があり、訂正した。

d.p.57 教職員一覧：科目「情報科学」が脱落しており、科目の担当者氏名・所属を挿入した。

e.p.59 看護学科非常勤：科目「病理学」が脱落しており、科目の担当者氏名・所属を挿入した。

以上、b～eについては6月24日～7月30日まで掲示板を利用し周知した。

f.p.65 緊急時における措置について：変更について全学生に掲示（8月4日～10月30日）およびメール（8月4日配信）で周知した。

iii. 2023年度版学生便覧の編集・発行を担当した。

a.各委員へ学生便覧内容の検討を依頼し、編集作業をおこなった。

各委員会への原稿依頼日：令和4年9月28日（締切日：11月30日）

初校正1月・第2校正2月・最終校正3月(人事の関係のみ)

b.発行部数：430部（内訳：看護学科学生350部，専攻科学生20部，教職員50部，予備部）

Check

- i. 学生便覧を事前に教員に配付し、オリエンテーション時には学生に配付したことで学生生活を送る際の一助として活用してもらえたことと考える。
- ii. 令和4年度学生便覧を配付と同時に誤植を確認し、修正を速やか伝達した。学生、教職員への周知が図れた。
- iii. 令和5年度(2023年度)学生便覧の編集について、各委員会、部署と連携し作業を行った。

Action

- i. 令和5年度(2023年度)学生便覧に訂正、追加等が生じた際には学生、教職員への周知を速やかに行う。
- ii. 今後も各委員会・部署と連携し、学生生活のサポートとなり、教職員が活用しやすい便覧の編集をめざす。

情報ネットワーク委員会

Plan

- i. 学生・教職員のネットワーク・メール利用に関する運用・管理
- ii. 学習管理システム WebClass および動画配信システム、Zoom の運用・管理
- iii. 共有フォルダの運用・管理
- iv. ネットワーク環境の整備・管理
- v. コンピューター実習室の管理

Do

- i. 学生・教職員のネットワーク・メール利用に関する運用・管理
 - a. 教職員のメールサーバーを SMS ネットワークから Google サーバーへ移行するにあたり、移行作業のサポート、移行状況の確認・報告を行った。また、学生メールサーバーの Google サーバーへの移行に向けて準備した。
 - b. 学生・教職員のメールアドレス登録や削除を情報技術支援推進センターへ依頼した。また、本学で利用している IP アドレスを報告した。
 - c. 入学生へメールの利用案内、転送設定、送受信確認を行った。
 - d. 在学生へネットワークやメール利用におけるマナーを随時、指導した。さらに、教育コンテンツ利用に関する誓約書の内容を見直し、学生の誓約書を管理した。
 - e. 教職員および学生の本学における電子メール・インターネット利用状況を情報技術推進センターから収集し集計した。
 - f. メール利用における諸問題について、看護学科内で検討し対応いただけるよう依頼した。
- ii. 学習管理システム WebClass, 動画配信システム, Zoom の運用・管理
 - a. WebClass は、情報技術支援推進センターへコースや利用者 ID の登録を依頼し、教職員と学生が利用できるように環境を整えた。学期ごと学年ごとに使い方や注意事項を説明し、定期的にメールによる案内を通知し、個別に相談に応じた。教職員へは年度開始時に、利用方法と注意事項を周知し、随時、学生の利用状況の情報提供をしながら利用に関する連絡を行った。
 - b. 動画配信システムとして、YouTube を利用した動画配信ができる環境（看護学科 2 か所、専攻科 1 か所）の管理・運用を行った。学生へは、入学生対象に動画視聴の練習をした上で受講が問題なくできているか確認しサポートした。教職員へは、運用状況を知らせ、配信サポートや配信トラブルの対応を随時行った。
 - c. オンラインミーティングのシステムとして Zoom のアカウント 5 つを確保し、利用方法を検討して教職員へ周知し、運用した。教職員が Zoom を利用する際に、必要時、相談に応じサポートを行った。
- iii. 共有フォルダの運用・管理
 - a. 教職員共有フォルダの使用方法的案内、新任教職員の ID 登録を行った。
 - b. 年度末に共有フォルダ内を点検し、必要時フォルダ管理者に連絡調整した。
- iv. ネットワーク環境の整備・管理
 - a. パソコン機器類のネットワーク接続状況を確認し、IP アドレス等を情報技術支援推進センターへ報告した。
 - b. ウイルス対策に関して、定期的に Windows update、ウイルスソフトの更新を教職員に促した。
 - c. 入学生と保護者向けに学業におけるネットワーク利用について書面で通知し、準備を促

した。入学後は、個別の相談に応じた。看護学科は、学生各自のネットワーク環境および機器類の所持状況を調査し、教職員へ情報提供と学生への配慮を依頼した。

d. 学内および学生寮に設置された Wi-Fi のネットワーク通信状況の確認を行った。

v. コンピューター実習室の管理

a. コンピューター実習室の利用方法について新入生にオリエンテーションし、ルールを守れるよう定期的に指導した。

b. コンピューター実習室の機器や備品の故障や破損、使用状況を確認し対応した。

c. コンピューター機器類の入れ替えを 2 月 24～29 日に実施した。学生が使いやすく、トラブル発生を防げるように、業者と機器の配置や設定について複数回打ち合わせした。

Check

i. 学生・教職員のネットワーク・メール利用に関する運用・管理

a. メール利用数は教職員・学生ともに多く、看護学科では「メールが多すぎて困る」「送信しても返信がこない」等のメール利用に関する問題が生じていたが、検討・調整後は、学生や教員からのメール利用に関する相談はなくなった。

b. ウイルス対策については、学生・教職員ともに随時注意を促し、問題は発生しなかった。

ii. 学習管理システム WebClass および動画配信システム、Zoom の運用

a. WebClass は、看護学科入学生へは入学前の 2 週間で練習を行い、入学後は概ねスムーズに利用開始できていた。専攻科入学生へは、入学時オリエンテーションで使い方の説明を行い、問題なく利用できた。

学生からは「困ったことはない」「使い慣れた」という意見があった。

b. 動画配信システムは、昨年度と比較すると今年度利用頻度は減少した。動画配信の中断等のトラブルは発生しなかった。

c. 今年度からオンラインミーティングのシステムとして、5 つの Zoom アカウントをとって運用したが、利用回数は月 1～2 回と少なかった。

iii. 共有フォルダの運用・管理

a. 共有フォルダの利用頻度は多く、情報共有の場として有効活用している。

b. 情報漏洩などのトラブルはなく、データを共有ができた。しかし、誤ってデータを削除してしまうことがあった。

iv. ネットワーク環境の整備・管理

a. 入学生へ、入学前からネットワーク環境や機器類の整備を学生へ促したことで、大多数の学生は準備を整えることができた。しかし、入学前後で学生や保護者へ個別に相談に応じる件数が多く、その相談内容はパソコンの使い方や設定など多岐にわたっていた。

b. 学生寮の Wi-Fi は通信状況に問題なく利用できた。校舎内の講義室の Wi-Fi は、未だ整備されていないため不便な状況は続いている。

v. コンピューター実習室の管理

- a. 利用方法のオリエンテーションや定期的な指導を行った結果、概ね適切な利用ができていた。
- b. 2012年から利用していた Windows7 のパソコンを、4～5年間申請を続け今年度ようやく Windows11 のパソコンに入れ替える工事が実施できた。

Action

- i. 学生・教職員のネットワーク・メール利用に関する管理・運用
 - a. ID とパスワードの管理等のセキュリティー強化、ウイルス対策について、引き続き学生・教職員ともに定期的に注意を促し、周知徹底していく。
 - b. メールの利用状況を把握しながら、適切に利用できるよう連絡調整や学生指導を行う。
- ii. 学習管理システム WebClass および動画配信システムの運用
 - a. 学生向け・教員向けの利用案内方法（時期・内容・方法）を見直し、利便性を高め、使い方の質が向上するよう運用する。
 - b. 動画配信と動画管理方法について、利用状況を把握し、機器の設置場所や管理方法を見直す。
 - c. オンラインミーティングシステムの Zoom の利用状況を把握し、利便性を向上できるように運用・管理する。
- iii. 共有フォルダの運用・管理
 - a. 教職員共有フォルダの利用状況を把握し、セキュリティー管理を含め、適切に有効利用できるよう運用・管理する。
- iv. ネットワーク環境の整備・管理
 - a. 学生寮の Wi-Fi の管理・適切な運用を行う。
 - b. 講義室等の Wi-Fi 整備ができるよう、引き続き関係部署との連絡調整を行う。
- v. コンピューター実習室の管理
 - a. 利用者が有効に適切に利用できるよう、オリエンテーションや定期的な指導を行う。
 - b. コンピューター機器類の入れ替え後に利用状況を把握し、学生がルールを守り、学業において有効利用できるよう運用・管理を行う。

図書運営委員会

図書運営委員会に関する計画と実施状況

Plan

- a. 令和 3 年度図書利用統計報告
- b. 令和 3 年度図書館予算決算報告、令和 4 年度図書館予算の説明
- c. 令和 3 年度購入図書リスト作成、令和 4 年度購入希望図書の受付
- d. 入館者数等及び開館日数
- e. 年間受入図書冊数

- f. 学生支援「学内外 Web 上での EVO 教材の映像コンテンツ」配信
- g. 図書、雑誌及び視聴覚資料等の充実
- h. 年 2 回の希望図書受付
- i. 学生対象の「図書希望のリクエスト」
- j. コロナ感染対策
- k. 川越実習時の図書返却延長
- l. 新入生オリエンテーション
- m. 製本雑誌の発注 13.
- n. 書籍の出張販売
- o. その他

Do

- a. 年間の入館者数等及び開館日数をデータにまとめた。
 入館者数:3052 人 貸出者数:884 人 貸出冊数:1813 冊 開館日数:229 日
- b. 年間受入図書冊数
 - ・単行本 360 冊 ・製本雑誌 71 冊 ・AV 16 巻
 - ・製本雑誌 71 冊 (和:62、洋:6、紀要等3)
- c. 学生支援 (EVO 教材の映像コンテンツの配信)

教員等からの要望もあり、継続及び新規に追加で 3 タイトルを契約した。

(年間契約配信コンテンツ 継続:○ 新規:◎)

 - 最新 基礎看護技術シリーズ (全 24 タイトル)
 - 臨床看護技術シリーズ (全 26 タイトル)
 - 映像で考える! 看護のための情報リテラシー (3 タイトル)
 - ◎日常生活における高齢者のヘルスアセスメント
 - ◎老年看護援助技術シリーズ
 - ◎見て知るリハビリテーション看護
- d. コロナ感染対策

コロナ感染対策として、昨年度と同様に図書館利用について以下のことを継続していく。

さらに今年度には図書貸出・返却する場所に、アクリル板を設置した。

 - ・感染予防のため、手指消毒してからの入館とする。
 - ・座席数を 42 席から 18 席に減席し、対面にならないようにする。
 - ・換気のため、窓を 2 箇所オープンにする。
 - ・アクリル板の設置 (図書貸出・返却時) (5 月上旬設置)
- e. 図書購入の優先順位は学生の利用頻度の高い図書を購入した。また、利用頻度の高い経年劣化した図書を補充した。継続図書(参考図書)及び雑誌購読・国家試験関係の見直しを行った。

f.前後期と年2回に希望図書の受付をした。

前期の締め切りを6/21(火)とし、後期の締め切りを10/21(金)とした。

g.学生対象に「図書希望のリクエスト」を継続して行った。

h.川越実習時の図書返却延長について

川越実習期間中、返却期日に図書を返却できない学生に対して、申請により延長を認めた。

i.今年度から新入生オリエンテーション(図書館利用)を7F講堂にて、スクリーンを活用して説明を行った。

j.図書館利用案内について学生便覧の見直しを行った。

k.図書館掲示板に新着図書リストを掲示した。

l.専門雑誌を6月中旬頃に製本発注した。製本後、8月末迄に整理・登録した。

m.文光堂書店から出張販売に来てもらい、7Fホールにて展示形式で販売を行った。

欲しい書籍を注文書に記入し、後日業者が持参する形で行った。

展示販売期間：5月2日～17日迄

Check

a.利用状況については、過去2年間を比較してみると若干上昇傾向になった。

前年度と比べコロナの影響も次第に収まり増加傾向に転換した。年間総数では前年度より若干増加傾向にあった。

b.学生支援のため、学内外で看護・医学系DVD教材の映像コンテンツ(EVO)をWeb上で視聴できるようにした。学内外Web上でのEVO教材の映像コンテンツ(EVO)配信については、学生の学習に最適な環境を提供することができた。コロナ渦での在宅期間中に学外(自宅)からの映像コンテンツを視聴できることは便利となった。また、内容が充実していて遠隔授業(自宅学習)教材としての用途もあるため高評価の意見が多く聞かれた。学生の利用度は他大学に比べて上位にあり非常に利用率が高いと報告を受けた。教員等からの要望もあり、継続及び新規に追加で3タイトルを契約した。さらに、学生の意見などを参考にしながら、他の分野の配信が必要なものを今後検討していく予定である。

c.コロナ対策による図書館利用に関しては、学生はルールを守り利用していた。

d.国家試験問題集を利用する学生が増えたため、さらに教材等の充実を図った。

e.利用頻度の高い雑誌に切り替えることで、雑誌の利用頻度が増えた。今後も継続して行っていく。

f.今年度も各学科内で予算内での運用ができた。

g.書籍の出張販売について、業者に依頼し展示形式で販売を行った。初めてにしては各学年の学生が書籍を見に来た。45人の学生が購入し、延べ購入冊数は83冊である。

Action

- a. 本学図書館は、特に看護に特化した図書の充実を図る必要がある。利用者のニーズを把握し、講義や実習に役立つ図書の充実を図る。
- b. 予算内での購入ができるよう確認する。
- c. 引き続き、教員や学生が購入希望しやすい環境作りを行っていく。
- d. 相互貸借や文献検索のアドバイスなど、利用しやすい図書館の運営を心がける。
- e. 図書館内にパソコンの増設を計画する。
- f. 古い図書及び雑誌のバックナンバーを保管できる場所を確保する。
- g. EVO コンテンツ及び視聴覚教材の充実を考える。

学習環境整備専門部会

Plan

- i. 学生の自主学習・協同学習のスペースを設け、自主的・自律的な学習を支援し、知識の創造を促進する。
- ii. フリースペースでの教員と学生の学習活動が他の学生の学習意欲を高め学力の向上につながるることができる。
- iii. 安全・安心な学習および生活環境を確保する。

上記 i ~ iii の具体的な計画を下記に示す。

<自主学習スペース・指導環境の充実>

- | | |
|----------------|---------------|
| a. 個別指導スペースの確保 | b. 図書館開館時間の延長 |
|----------------|---------------|

<安全・安心な環境の確保>

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| a. 各教室のカーテンの交換またはクリーニング | b. 各講義室・廊下・階段の壁の修繕 |
| c. 4階・地下1階使用交渉 | d. ロッカー室の靴箱設置 |

<教室整備・視聴覚機器・教材の充実>

- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| a. 5階コンピュータの入れ替え | b. Wi-Fi環境の整備(2階・3階・4階・7階講堂) |
| c. 7階講堂の机、椅子の改修とモニターの設置 | d. 2階実習室のリネン類の新調 |
| e. 専攻科演習室の物品の劣化防止対策 | f. シミュレータ等の教材の購入 |

Do

委員会は4回開催し、随時、委員間で情報交換しながら実施した。自己点検・評価委員会主催の学生参画会議から提案された事項についても検討した。活動した内容は次の通りである。

<自主学習スペース・指導環境の充実>

- i. 1階保健室は利用者がいない場合、個別指導スペースとして利用可能であることを教員に周知した。
- ii. 図書館開館時間は、新型コロナウイルス感染症拡大防止により、週3回17:30まで、週2回18:30までであるが、特に学生から延長の希望はなかったため変更しなかった。

<安全・安心な環境の確保>

- i. 各講義室のカーテンの交換またはクリーニングを今年度末休業中に実施できるよう要望した。
- ii. 各講義室・廊下・階段の壁で修繕が必要と思われる所の写真を撮影し、施設課に依頼し一部修繕した。水道の水漏れも修繕した。
- iii. 4階・地下1階の講義室を短期大学で使用できるように、講義室や演習室等不足であることを文書で示し、地下1階の使用状況の実際を法人関係者に見てもらった。
- iv. ロッカー室の靴箱は学生部委員会で検討し、看護学科は卒業記念品として購入することになった。
- v. 学生参画会議で出された内容を示す。
 - a. 昨年度、校舎玄関の傘立てを学年毎、専攻科に区分して使用できるようにしたが、一気に傘立てに入れるため傘が壊れやすいという意見があったことからクラス別に整理した。
 - b. 専攻科の更衣室内にカーテン設置の要望があったが衝立を購入することになった。
 - c. 専攻科の講義室への虫の侵入に関する対策として、窓に防虫剤を設置する案が出された。
 - d. 専攻科の廊下の照明が暗いが、緊急性はないので節電等の状況に合わせて対応した。

<教室整備・視聴覚機器・教材の充実>

- i. 5階パソコン56台の入れ替えを2023年1月に終了した。5階学修ホール1,2それぞれにパソコン4台、学生が自由に使用できるように設置した。
- ii. 2階・3階・4階・7階講堂のWi-Fi環境については、要望はあるものの今年度も改善にいたらなかった。
- iii. 7階講堂の机・椅子の改修、モニターの設置は予算との関係で実現できなかった。モニター画面の見える位置に移動可能なように前方に机を配置したが、希望者はいなかった。
- iv. 2階実習室のリネン類の新調にあたって購入か借用か購買課と相談した結果、借用することに決定した。
- v. 9号館の演習室の物品の劣化防止対策として、9号館のエアコンを演習開始1時間前に設定してもらうよう依頼したがコスト面で実現しなかった。短期大学内には現在のところ保管場所はなく、移動することによる破損の危険性も大きいいため、現状のままである。
- vi. 研究助成金により購入できたシミュレータ等がある。昨年度同様、同窓会からの寄付によるゴーグルを新入生（看護学科・専攻科）に購入した。2023年度からゴーグル手続担当を看護学科実習委員会に依頼した。
- vii. 学生参画会議で出された内容を示す。

専攻科で講義中、マイクの混線があるが現状以上に改善できないため、その都度、事務部で対応した。

Check

<自主学習スペース・指導環境の充実>

1 階保健室はカウンセリング等で使用していることがあるため、事務部に事前にカウンセリングの有無を確認し予約するよう教員に周知する。急遽、指導が必要で使いたいときには予約が困難なため、今後も指導スペースの検討をしていく。

<安全・安心な環境の確保>

- i. 各講義室のカーテンの交換またはクリーニングを要望している。
- ii. 各講義室・廊下・階段の壁で修繕が必要と思われる所は施設課に依頼し一部修繕したが、今後オープンキャンパス等の来校者の印象をよくするためにも修繕を徐々に実施する必要がある。
- iii. 4 階・地下 1 階の教室を短期大学で使用できるように継続して交渉していく。各領域による演習室等の重なりについては、他の施設の借用も検討する。
- iv. 玄関の傘立てをクラス別に整理したことで学生は利用し易くなり、玄関が整然とし美観もよくなった。
- v. 専攻科更衣室内の衝立を申請している。
- vi. 専攻科の講義室の虫対策は、次年度から実施し状況を確認する。

<教室整備・視聴覚機器・教材の充実>

- i. 5 階パソコンの入れ替えをし、5 階学修ホール 1,2 にパソコンを設置したことで学生が有効に活用している。活用方法でトラブルが生じた場合、検討する。
- ii. 短大校舎内の Wi-Fi 環境が悪い場所は、Wi-Fi の使用できる場所に移動して活用するよう促す。
- iii. 7 階講堂の机・椅子の改修、モニターの設置は予算との関係で実現できなかったが、椅子を優先的に改修していく。モニターの設置がすぐ可能でないため、パワーポイントの資料画面を後方の席でも見えるように作成するよう教員に周知する。
- iv. 2 階実習室のリネン類は 2023 年 3 月から借用可能となった。
- v. 9 号館の演習室の劣化物品（乳房マッサージモデル 2 台のみ）を修理依頼したが、修理と購入がほぼ同額のため、現在購入申請中である。
- vi. シミュレータは優先度を考えて徐々にそろえていく。ゴーグルは、学内や臨地実習で活用されている。令和 5 年度入学生のゴーグルは、看護学科の実習委員会で購入手続きをした。

Action

- i. 自主学習スペース・指導環境を充実する
 - a. 自主学習・個別指導スペースの確保
- ii. 安全・安心な環境を確保する
 - a. 各講義室、廊下・階段等の壁の修繕
 - b. 地下 1 階、4 階の医学部実験室を短大で使用可能にするための継続交渉
 - c. 現在短期大学で使用している地下 1 階講義室の椅子・カーペットの修繕
 - d. 9 号館 6 階演習室のカーテン劣化の改善
 - e. 他施設の教室借用依頼

- iii. 教室の整備・視聴覚機器・教材の充実
 - a.7階講堂の机・椅子の改修とモニターの設置の継続依頼
 - b.短大校舎内 Wi-Fi 環境の充実の継続
 - c.看護学科の古い教材モデルや模型の活用

看護学科

国家試験委員会

Plan

1年次生

- a. 国家試験について理解する
- b. 国家試験に必要な学習方法を習得する-各科目を関連付けて学習できる-

2年次生

- a. 自分の全国での学力・実力を知る
- b. 国家試験に関する学習方法を体得する

3年次生

- a. 夏休みまでに必修8割以上を目指す
- b. 実習終了時までに必修8割以上を継続・一般状況6割以上を目指す
- c. 最終模擬試験までに必修9割・一般状況7割以上を目指す
- d. 第112回看護師国家試験全員合格

Do

1年次生 <活動実施内容>

- a. 4月13日：国家試験委員の役割、活動目標、活動内容についてのガイダンス実施
- b. 5月2日：さわ研究所解剖ノート購入（配付・集金）、使用方法の説明
- c. 8月22日～9月2日：オンラインさわ研究所「国家試験対策ガイダンス」「解剖ノートを使用した体験講座」WebClass 確認テスト a. 国家試験対策ガイダンス b. 体験講座、解剖ノートを使った学習
- d. 9月14日：解剖ノート回収しチェック。その後学生へ返却
- e. 9月22日～9月29日：WebClassで解剖ノートのテストを実施。各問題の選択肢の正答・誤答の根拠を調べてまとめる（各自調べ学習）
- f. 10月20日：再度解剖ノートのテストを実施。アドバイザーグループ毎に調べ学習の方法について共有
- g. 12月2日：実習病棟に関連した解剖生理・疾患、看護についてのグループワークを実施
- h. 2月22日：医教「人体の構造と機能」模擬試験と模擬試験についての解説講義3時間実施

2年次生 <活動実施内容>

- a. 4月27日：国家試験学習活動についてガイダンス
- b. 5月24日：解剖ノートからの試験（試験1）
- c. 7月11日：解剖ノートからの試験を再試験（試験2）・解剖ノートからの試験の復習と自己学習の解説
- d. 8月22日：9月5日 低学年模擬試験（試験3）
- e. 10月5日：低学年模擬試験 再試験（試験4）・自己採点后 自己学習
- f. 10月12日：自己学習による試験問題の解説を実施 冬季休暇中 キャリタス看護予想問題の自己学習
- g. 「2023年1月19日：キャリタス看護予想問題の自己学習試験（試験5）
- h. 2023年2月24日・2月27日：基礎学力 UP チャレンジテスト（試験6）

3年次生 <活動実施内容>

- a. 国家試験オリエンテーション（第111回看護師国家試験問題の傾向について・年間の学習計画の作成等）
- b. 4月6日：第1回模擬試験 テコム第1回プレテスト
- c. 5月7日：第2回模擬試験 学研第1回看護師国家試験合格チャレンジテスト
- d. 7月16日：第3回模擬試験 テコム必修スピードテスト
- e. 8月8日：夏対策【各国試サポーター教員毎での zoom 対応】（のびしろ大の学生対象）
- f. 9月3日：第4回模擬試験 学研第2回看護師国家試験合格チャレンジテスト
- g. 11月5日：第5回模擬試験 テコム第2回プレテスト
- h. 冬の補講【11/22～12/21】・朝対策【11/22～1/26 毎朝8：30】（のびしろ大の学生対象）
- i. 12月19日：第6回模擬試験 テコム第3回プレテスト
- j. 2023年1月6日：第7回模擬試験 学研必修問題チャレンジテスト
- k. 2023年1月23日：第8回模擬試験 学研第3回看護師国家試験合格チャレンジテスト
- l. 12月1日・12月7日：テコム出張講座
- m. 2023年1月27日：外部講師特別講義

Check

1年次生

- a. 看護師国家試験について理解できる

看護師国家試験対策業者のガイダンスと、ガイダンス後の確認テストを実施したことで、看護師国家試験の概要についての理解は図れた。学生のアンケートで「国試がどういう問題なのか、必修で8割以上取らないといけないことを知ることができた」ということから国家試験の概要については理解できたと考える。

- b. 看護師国家試験に必要な学習方法を習得する-各科目を関連付けて学習できる-

解剖ノートを購入し、使い方の説明→実際に使う→小テスト→復習→小テストと段階的に一年間使用したことや学習方法の共有等により学習方法の習得に繋がった。また、実習の前に実習グループ毎に関連する国家試験問題をまとめることで、学生が今まで学習してきた科目間の関連を理解しながら学習できたのではないかと考える。しかし、解剖ノートをうまく活用できなかったという意見があることから、サポートが必要な学生の見極めと早期の介入が必要であると考える。また、グループワークの共有がうまく図れなかったという意見もあり、効果的なグループワークの構成についても再考する必要がある。

2年次生

a. 自分の全国での学力・実力を知る

アンケートの集計および模擬試験の結果より、目標達成度 8 割と考える。学生自身が、学習が不足していることを自覚しており領域は分散している状況にある。

b. 国家試験に関する学習方法を体得する

教材としての解剖ノートの活用状況は、やや不十分だったように思われる。活用方法について課題が残った。また 2 年次生は学習課題が多い学年であるため、国家試験の学習に取り組む時間を持つことが難しいと考える。そのことも踏まえ次年度は、国家試験に関する学習の機会を提供するだけでなく、取組み方法を検討する必要があると考える。また学生の国家試験委員会の役割を認識し学習活動に積極的に取り組めるような働きかけが必要であった。

3年次生

今年度は年間目標を 4 つに設定し、国家試験の学習サポートを実施した。年間計画で予定した模擬試験の際にも、適宜、目標を再認識しながら活動を行った。到達目標に未達成の学生がいたものの、国家試験の受験までの取り組みの中で、時期ごとに目標を意識づけさせたことが効果的に働いたのではないかと考える。臨地実習終了後より実施した朝テストや補習講義に関しては、多くの学生から感謝の言葉が聞かれ、アンケートも満足度の高い結果を得られた。国家試験対策を受けたことにより、模擬試験の成績が上がる等の学習成果を学生自身が経験することによって、自己肯定感を高めることができ受験に挑めたのではと考える。自信を持たせることが、学生にとっては大切な事だと再認識することができた。全ての学生に公平な学習サポートを実施するには難しい状況ではあるが、国家試験委員の活動の意義が伝わるように、説明しながら理解を促す必要がある。今年度は、臨地実習終了後より、5 階学修ホール 2 を 3 年次生の学習スペースとして確保し提供することができた。学習環境を整え提供できたことも、学習成果を上げる一要因になったのではないかと考える。

Action

1年次生

国家試験の概要については、全員の学生が理解できていると評価できないこと、忘れてしまうことも考え、次年度は、国家試験を想起させるガイダンスを実施する必要があると考える。また、国家試験活動を行う中で、サポートが必要な学生を早い段階で把握し、対応方法を検討して行く

必要がある。国家試験委員の学生委員の活動内容を、明確にしていくことも課題とする。

2年次生

国家試験に関する意識づけを行えるように、学習計画を立案する。最終学年になった時に、スムーズに国家試験の学習に取り組めるように支援を行う必要がある。

3年次生

次年度の課題として、学生が国家試験の学習にいかに関わり早く取り掛かることができるかが重要と考えている。年間の学習計画を作成しても上手く活用ができていない学生が多く、成績が伸び悩む学生はその傾向が顕著にあらわれている。国家試験委員の教員だけで学生の学習サポートをするのではなく、アドバイザー教員と連携を図りながら学生の学習を支援していく必要があると考える。

臨地実習委員会・看護学実習協議会

<臨地実習委員会>

Plan

- i. 地域・在宅看護実習Ⅰ、基礎看護実習Ⅰ・Ⅱのオリエンテーション、フィードバック等の実施
- ii. 領域別看護実習・総合実習に関するオリエンテーション、中間・最終フィードバック等の実施
- iii. 令和5年度実習ローテーション作成とグループ編成表の作成
- iv. 「看護実習要項」、「看護実習評価表」の作成、印刷発注、配付
- v. インシデント報告書、アクシデント報告書、物品管理報告書の管理、指導・評価
- vi. 実習方法の検討
- vii. その他

Do

各学年の臨地実習開始前オリエンテーション及びフィードバックについて3年間の一連の流れを整理し、看護学科の学修成果や臨地実習のねらいの達成度を基に目的・目標・内容を検討した。各実習開始前に、諸手続きとして実習部署へ申請書類（個人情報保護に関する誓約書、電子カルテ利用申請書、e-ラーニング登録、抗体検査及びワクチン接種自己申告書）の提出を行い、診療マニュアルを配付した。

- i. 1年次生臨地実習（地域・在宅看護実習Ⅰ、基礎看護実習Ⅰ）及び2年次生臨地実習（基礎看護実習Ⅱ）のオリエンテーション、フィードバック等の実施
 - a. 1年次生臨地実習

2022年度の入学生から新カリキュラムが適用となり、初めて地域・在宅看護実習Ⅰを実施した。地域・在宅看護実習Ⅰは6月15日に対面で、基礎看護実習Ⅰは12月に動画でオリエンテーションを実施した。埼玉医科大学病院では、12月から実習開始前に理念

と基本方針等、実習 生向け e-ラーニング研修の受講が必要となり、学生と担当教員が基礎看護実習 I の開始前に受講した。基礎看護実習 I の実習施設に新たに埼玉医科大学国際医療センターが加わった。埼玉医科大学国際医療センターでの実習期間が 3 日以内であったため、担当教員のみ e-ラーニング研修を受講した。実習後のフィードバックは、1 月 13 日に対面で実施した。3 年間の自己成長を継続的に把握できるよう実習用ファイルを 1 年次生へ配付し、管理方法を説明した。

b. 2 年次生臨地実習

基礎看護実習 II のオリエンテーションは 7 月 15 日に実施した。実習後のフィードバックは、新型コロナウイルス感染症の影響により 2 月末に 65 名が追実習となったため、3 月下旬の 3 年次実習開始前の全体オリエンテーション時に実施した。

上記 a.b のフィードバックでは、出欠席報告とインシデント、アクシデント、物品管理報告と臨地実習のねらいに対する振り返りと今後の課題についてディスカッションをした。

ii. 3 年次生臨地実習（領域別看護実習・総合実習）に関する全体オリエンテーション、中間・最終フィードバック等の実施

a. 領域別看護実習・総合実習に関する全体オリエンテーションは 3 月 28 日に実施した。

b. 中間フィードバックは、8 月 9 日に実施した。最終フィードバックは、11 月 24 日に実施した。出欠席報告とインシデント、アクシデント、物品管理報告及び臨地実習のねらいの達成状況と今後の課題についてディスカッションを行った。

iii. 令和 5 年度実習ローテーションは、実習予定人数を把握し、各領域の意見を基にグループ編成表を作成した（3 月に実施）。埼玉医科大学総合医療センターと埼玉医科大学病院等の実習施設での実習回数が、実習グループにより偏りが最小限となるよう調整した。

iv. 「看護実習要項」の共通編を見直した。1・2 年次生と 3 年次生の共通編の統一ができるよう検討し、修正した。

v. 各学年のインシデント、アクシデント、物品管理報告書のデータ収集及び分析を実施した。インシデント報告では、各学年ともに「情報の漏洩」が最も多かった。インシデントに学生自身が気づいたという報告件数は少なかった。アクシデント報告は 0 件であった。物品管理報告では、物品の管理不足や忘れが数件あった。今年度の集計結果から傾向を分析し、今後の課題としてインシデントに学生自身が気づけ、個人情報の取り扱いに留意できるよう指導した。

vi. 実習方法の検討

実習施設の実習受け入れ条件に合わせ病院の実習人数を 5 名以下／病棟／日とし、健康観察・行動管理を継続する等の制約下で、臨地実習を実施した。新型コロナウイルスの感染拡大による実習受け入れ施設の受け入れ中止や PCR 検査の依頼等があり、その都度対応し追実習の日程調整や実習方法の検討を行った。実習病棟の学生受け入れ人数制限があるため、講義室や実習室の利用調整を実施し、学内やオンラインで代替実習を行った。

vii. その他

- a. 臨地実習で感染予防対策を徹底する必要があるため、ゴーグル（1年次生のみ）、携帯用手指消毒剤と実習用不織布マスクを配付した。健康管理シートを用いて健康状態を確認しながら実習を行った。
- b. 臨地実習の手引き（第7版）を第5次カリキュラム改正に合わせて改訂し、令和4年6月に発刊、配付した。

Check

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、各学年の臨地実習において病棟閉鎖や学生自身の体調不良、濃厚接触により実習停止となったことが多かった。しかし、実習施設と相談し、臨地で振替の実習ができるように調整し、臨地実習を行うことができた。次年度も新型コロナウイルスの社会的状況をふまえ、臨地での実習だけでなく、学内やオンライン実習を組み合わせることで効果的に実習が進められるよう工夫が必要である。

フィードバックでは、実習を通しての自己成長を具体的に振り返ることができない学生もいた。次年度は、学生が3年間の自己成長を振り返ることができるような臨地実習開始前オリエンテーション及びフィードバックの目的・方法を検討する。

インシデント、アクシデント、物品管理報告では、学生の傾向をふまえた上で対策を考え、危険予知行動を実施・評価できるよう指導する必要がある。

領域別看護実習・総合実習のローテーション作成では、川越や毛呂山等実習場所による実習回数について、実習グループによる偏りをなくす努力をしたが限界があった。学生に他校や病院・病棟との調整等、複数調整する必要があることを説明し、理解を得る必要がある。

Action

次年度も、カリキュラム改正の趣旨を理解した上で学修成果の評価を行い、臨地実習の目的・目標が達成できるよう実習内容や方法を検討する。また、学生が3年間の臨地実習を通して成長できるような実習指導方法を継続して検討する必要がある。

<看護学実習協議会>

Plan

看護学実習を円滑に実施するために実習指導に関する連絡・協議を行う。①看護学実習協議会開催：6月（2022年度委員・規約の確認と検討、年間計画等）、②埼玉医科大学グループ臨地実習合同調整会議へ代表者参加、③臨地実習指導者会議の開催：2023年2月（2022年度看護実習評価と2023年度看護実習計画）を計画する。

Do

i. 看護学実習協議会

看護学実習協議会は、2022年6月30日に開催した。2022年度委員、規約及び組織図、協議会の年間計画の確認を行った。領域別看護実習の途中経過報告（出欠席、インシデント及びアクシデント・物品管理報告の途中経過）と情報交換を行った。

ii. 埼玉医科大学グループ臨地実習合同調整会議

9月下旬に埼玉医科大学グループ関連4校間で、2023年度看護学実習の事前病棟調整を実施した。埼玉医科大学グループ臨地実習合同調整会議は10月14日に開催され、学科長と実習委員長が参加した。

iii. 臨地実習指導者会議

看護学実習協議会の際に、2022年度の臨地実習指導者会議の開催日程を決定した。臨地実習指導者会議は、主に毛呂山・日高の実習施設が2月20日に埼玉医科大学短期大学、川越の実習施設が2月22日に埼玉医科大学総合医療センターで開催した。全体会議では、2022年度臨地実習の総括、2023年度の臨地実習計画を報告した。各看護領域分科会では、領域ごとに計画し、会議の運営を行った。

Check

看護学実習協議会の年間計画に沿って活動した。看護学実習協議会は年1回の開催であるが、実習の情報交換や学生の傾向等について、臨地と学校側で積極的に意見交換ができた。

埼玉医科大学グループ臨地実習合同調整会議前に、埼玉医科大学グループ関連4校で事前に実習病棟調整を行った。学校間で実習期間や病棟の重なりが多かったが、話し合いにより調整できた。

Action

新型コロナウイルス感染の影響を考慮し、今後も実習施設等との密な連携と感染対策として予防行動の徹底指導の継続が必要である。

主たる実習病院は高度な先進医療を提供しているため患者の在院日数の短縮、在宅医療への移行、他大学の臨地実習参入等、実習期間を通して一人の患者を継続して受け持つことや実習病棟の確保が困難な状況にある。2024年度は、新カリキュラムの学生が3年次生となり、実習科目や方法が大きく変更となることに加え、一部旧カリキュラムの学生も臨地実習を同時に行うことになる。このため、2023年度は実習病棟の確保に加え、実習施設の協力や実習方法の検討が重要となる。今後も、臨地実習施設と密な連絡・協議を行い、臨地実習施設の質の保証の確保が必要と考える。

専攻科

臨地実習科内委員会

今年度からの新カリキュラムにより、臨地実習においては、「周産期援助実習」「分娩期援助実習」「地域母子保健実習」「助産管理実習」の4つの必修科目と「健康教育実習」の選択科目で構成されている。健康教育実習は、前期科目の「健康教育」を履修条件としていることや新型コロナウイルス感染拡大の影響により実習施設での受け入れも困難な状況があった。そのような中、今年度は、「健康教育実習」を除く4つの必修科目を21名の学生が履修した。

周産期医療を取り巻く状況は、新型コロナウイルス感染の影響により出生数の減少となった。分娩介助の実習を展開する施設での妊婦のハイリスク化と正常分娩の減少もあり分娩介助例数の確保は難しい状況であり施設により学習進度に影響している。今年度は、分娩介助の平均は一人8.9例であり、昨年を前回下回った。今後は、新型コロナウイルスが5類に引き下げられても出生数の減少は続き、実習施設での分娩介助例数の確保が困難である状況は続くであろう。今年度のその活動内容を示す。実習施設は、「学外実習施設一覧」(P.102)に記した。

Plan

- i. 専攻科実習における学生への学習支援：臨地実習オリエンテーション企画、分娩介助の技術確認、臨地実習記録の事前確認等
- ii. 臨地実習関連の準備：専攻科臨地実習会議の調整、外部実習施設との調整及び打ち合わせ、実習要項、評価表の作成、臨地実習記録の見直し、実習ローテーション作成、グループ編成、臨地実習調整会議の参加（埼玉医科大学グループ主催、愛和病院主催）

Do

- i. 専攻科実習における学生への学習支援
 - a. 臨地実習オリエンテーションは、前期2回と後期の1回に分けて実施した。各実習施設により制約があり人数変更や実習体制は随時変更のあることを学生に伝えた。実習前から学生の行動や感染対策、健康観察や体調不良時の対応について指導した。
 - b. オリエンテーションでは、施設ごとの特徴や実習の方法について担当教員が実施した。前期実習から教員の欠員があり、法人内から総合医療センターと埼玉医科大学病院に非常勤講師、外部実習施設には非常勤講師を雇用し、指導体制を整えた。
 - c. 講義終了後と夏季休業中に学生が分娩介助技術の確認が分散してできるよう演習できる場所の確保や演習物品を増やし準備した。
- ii. 臨地実習関連の準備
 - a. 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、臨地実習会議は、開催せず、直接担当者が実習施設に出向き調整をした。周産期援助実習は、小川産婦人科小児科5名、埼玉医科大学病院10名、総合医療センター6名の学生が実習を行った。埼玉医科大学病院・総合医療センターにおいては学生2名で1名の帝王切開を予定する妊婦を継続ケースとして選定した。小川産婦人科では施設の要望があり経膈分娩のケースを選定した。7月の周産期援助実習（NICU見学実習）は、直接施設と実習方法・内容を調整した。地域母子保健実習については、コロナ禍であり保健センターとメールや電話の相談で対応し進めた。

後期実習開始前の打ち合わせは、教員が施設の実習指導者および法人内の非常勤講師と電話やメールで実習内容の確認をし、実習が円滑に行くように調整した。また、分娩期援助実習を行う外部実習施設は、複数の非常勤講師が担当するため、実習中も実習指導者と担当教員間で随時調整を行った。

- b. 分娩期援助実習における実習施設は、実習開始から小川産婦人科小児科 5 名、埼玉医科大学病院 5 名、総合医療センター 3 名、吉田産婦人科 3 名とした。さらに、愛和病院では 10 月 3 日～11 月 11 日までの期間に 4 名実習した。学生の異動について 10 月上旬から分娩介助例数と周産期援助実習の実習進度に合わせて検討した。施設実習は、人数制限があり 2 名ずつの実習を行い、分娩介助例数の 10 例を目標にし、介助できない場合は、間接介助事例も展開することを学生に伝え進めた。
- c. 埼玉医科大学病院、総合医療センター、愛和病院、清水病院では、実習にあたり「抗体検査及びワクチン接種自己申告書」を提出した。新型コロナワクチン接種についても推奨した。
- 小川産婦人科小児科、愛和病院では、実習生と担当教員の PCR 抗体検査が求められ実習開始前に準備実施した。

Check

- i. 周産期援助実習は 3 施設で実施した。埼玉医科大学病院や小川産婦人科小児科の継続ケース選定では、前期実習期間中に面接ができなかったり、対象者がおらず決定できなかったりした。そのため後期実習になり初めて継続ケース妊婦と面接・問診となるケースもあった。埼玉医科大学病院では学生 10 名が妊娠中期から産後 2 週間から 1 ヶ月健診までを受け持つ予定であったが、実習期間の関係で 4 名の学生は産褥入院期間までの受け持ちとなった。総合医療センターでは学生 6 名が 2 人一組となりそれぞれ 3 名が帝王切開予定の継続ケースを産褥 1 か月まで受け持ち実習した。小川産婦人科小児科では、一人ずつの継続ケースをもち 2 例経膈分娩、1 例帝王切開予定、1 例緊急帝王切開の事例であった。紙面上の展開を含め妊娠中期から産褥 2 週間もしくは 1 か月までの経過を学ぶことができた。
- 7 月に行われたハイリスク新生児を対象にした NICU 見学実習は、新型コロナウイルス感染拡大に移行する時期であったため短時間の見学実習となった。
- ii. 分娩期援助実習では、7 ヶ所の実習施設に学生を配置した。助産管理実習と継続ケースの予定日を加味してスケジュールを組んだ。学生の実習施設の異動については、分娩介助進度と周産期援助実習状況を検討し、11 月に小川産婦人科小児科から瀬戸病院に 3 名、総合医療センターから清水病院に一人ずつ計 3 名、吉田産婦人科から清水病院に 1 名を異動した。
- 分娩介助例数は、10 例を目標としていたが施設の数や時間制限もあり合計 187 件であり、一人 8 例の分娩介助例数は確保し、一人当たりの平均は 8.9 例だった。10 例に満たない学生は、間接介助事例の助産過程の展開を行い、学内実習を行うことで分娩介助事例として補った。学内実習では間接介助事例合計 25 例を行った。

助産管理実習は、3カ所の助産所で実習が行われた。助産院もりあねでは、感染対策として実習時間短縮の要請があり午前中のみの実習となったが、おおよそ予定通りの実習を行うことができた。

地域母子保健実習では、県内4カ所の保健センターで感染予防のため実習人数を制限し、2つのグループに分かれて3～4日間計画した。不足する実習時間は、母子健康手帳の交付演習を学内で行い対応した。コロナ禍の実習計画として予定通り進めることができた。

各実習において、少人数での実習となりカンファレンスを実施できず経過した。受胎調節に関するカンファレンスは、12月に各グループで実施した。様々な対象に対しどのような指導が望ましいのかディスカッションすることができた。

臨地実習会議は、今年度開催できず、実習担当教員が実習指導者と打ち合わせをして随時対応をして進めた。実習終了後に実習施設からは、文書でご意見を頂き、法人内で実習指導を担当した施設管理者と非常勤講師からは直接ご意見等を頂き振り返りをおこなった。それらを含め、実習総括・評価、次年度に向けた課題をまとめ、周産期援助実習と分娩期援助実習をした施設に文書で送付した。

- iii. 実習ローテーションは、各実習施設での条件を調整しながら施設毎に作成した。また、学生の健康状態を守るため、休養がとれるように9月中は、原則土日祝日は休日にした。夜間実習の開始や土日祝日実習は、介助例数の確保のため学生の実習状況を施設と相談し調整した。臨地での実習は12月9日に終了し、学内実習に切り替えた。清水病院での一部の学生は、介助例数を確保するため12月14日まで実施した。

Action

新型コロナウイルス感染の影響や出生数の減少、高度な医療や合併症妊婦、高齢妊婦等ハイリスク妊婦が多い現状がある。学生が「周産期援助実習」や「分娩期援助実習」で事例を確保することが難しくなっている。また、妊産婦や家族から分娩介助実習への同意が得られにくい状況がある。次年度は、本学の実習を受け入れてくれた施設でも分娩を取り扱わない施設がある。

これらのことを踏まえ、次年度も、周産期援助実習では、継続妊婦を学生2名で受け持つことで実習目標を到達できるようにしなければならない。コミュニケーションや一人一人の学習ができるように支援が必要である。分娩期援助実習では、実習期間内に正常分娩を10例介助することは、非常に困難である。分娩介助できる実習施設を確保すると共に、1例1例を丁寧に振り返り、次の分娩介助につなげていくことが大切である。学内実習を有効に活用し、学生の思考過程を整理しながら助産過程の展開の指導やカンファレンスを運営する必要がある。教員も少ないため、教員間の連携や実習施設の実習指導者との連携・調整・協力体制が必要である。

受け持つ対象がハイリスクであることや無痛分娩の希望や分娩時の異常を想定し、個人の学習を深め、知識を確認しておくようにする。分娩介助については学内での学習を十分に行い、基本的な技術を自分自身の時間で繰り返し鍛錬できるよう準備する。

臨地実習において、施設の協力は不可欠である。有意義な実習とするために、指導体制を含め連携を図るために実習前からの準備が必要となってくる。実習中のインシデントやアクシデントの対応についても学生や非常勤講師がすぐに対応できるように明確にしておく。

助産師国家試験対策委員会

Plan

看護師国家試験 Level の修得状況テストを計画
助産師国家試験の部分体験による出題タイプの把握
助産師国家試験出題基準の把握
模擬試験の実施と面接指導
国家試験対策の補習講義の実施

Do

4月：看護師国家試験（母性看護学・小児看護学領域レベル）の修得状況の確認〔確認テスト〕
助産師国家試験の部分体験
助産師国家試験出題基準の周知

7月：助産師国家試験出題基準と学修状況の再確認

7～1月：模擬試験の実施と面接指導〔全5回〕

模擬試験① 2022.7.19 第1回さんもし
模擬試験② 2022.10 第1回クォリス（自宅で開催）
模擬試験③ 2022.11.24 第2回さんもし
模擬試験④ 2023.1.6 第2回クォリス
模擬試験⑤ 2023.1.16 第3回さんもし

1月：国家試験対策の補習講義の実施〔8コマ〕

Check

入学時の確認テストは、筆記問題のため、無回答部分も多く、数値データにはばらつきがあった。模擬試験は国家試験対策委員会を中心として、模擬試験を5回（7月、10月、11月、1月は2回）に決定し実施した。第1回は、前期科目がほぼ終了した時であるが科目試験は4科目のみ修了時である。第2回は、実習期間中に実施期間を10日間とし、自宅受験で自己管理の下実施し、学内実習時に全員が提出できるようにした。第3回は、実習期間の11月24日の帰校日に実施した。第4回は、1月の冬季休業明けに実施し、第5回は、すべての後期科目試験終了後の1月16日に実施した。すべての模擬試験を予定通り受験した。実習期間中の模擬試験は全員受験してい

るものの国家試験対策の取り組みは全くできていない状況であった。第3回の模擬試験までの結果として得点率6割以上の学生は、4~5名であった。第4回、第5回の結果は1月下旬に結果が届き国家試験対策の指導としての対応が十分に取れなかった。第5回の結果は、得点率6割以上の学生は12名と増加したが合格得点に届かない学生も半数近くおり本番に向けて再度面接を行い対応した。予定通りの全員が模擬試験5回を受験することができたが、結果到着が4回目と5回目が同時期となった

国家試験対策として、1月17日(火)から1月20日(金)までの4日間に1日2コマのみの計画でスケジュールした。「周産期の健康科学」妊娠期2コマ・分娩期2コマ、「新生児期の健康科学」2コマ、「地域母子保健学」2コマの計8コマを法人内非常勤講師に依頼し設定した。国家試験前となり集中して講義を聞くことができていた。

Action

入学時の確認テストの内容を再検討し、学生のレディネスの把握を行い、前期から学生が国家試験対策を意識して取り組めるようにする。机上の学習と臨地実習での学びを国家試験と関連付けて学習し、模擬試験に取り組めるようにする。入学時のガイダンスで出題基準を周知し、国家試験までの計画を学生自らが考えて実践できるように働きかけていく。年間5回の模擬試験を実施することは、国家試験の出題傾向を知り、教科書で確認することにも繋がるため続けていく。第4回と第5回の結果では、学生への対応が十分にできないと考え、第4回模擬試験は、12月に実施し、その結果から1月初めから国家試験対策の修正等や学生支援につなげていく。1月に行う補習講義は、学生にとって知識の確認や不明な点を明確にできる有意義な時間であるため続行する。講義内容については、模擬試験結果や学生の意見を取り入れていく。

(3)教育・研究活動（実績）

①埼玉医科大学短期大学特別助成金制度

Plan

本学の専任教員の優れた独創的・先駆的な研究の発展に資するための研究助成（以下「特別研究費」）により、本学の学術研究の振興・推進を図ることを目的としている。埼玉医科大学短期大学特別研究助成規則、埼玉医科大学短期大学研究審議委員会規則に則って、特別研究費を助成する研究を審議する。

Do

- i. 埼玉医科大学短期大学研究審議委員会規則（平成30年11月16日改正）に基づいて、本年度は5回の委員会を開催した。
- ii. 2023年度の助成金申請の募集は以下のスケジュールで行い、交付について審議した。
申請期間：2022年10月31日（月）～2023年1月27日（金）17時まで
- iii. これまでの研究報告書（実績報告書・論文報告書）の提出状況を確認し、未提出者には提出を促した。

- iv. 2022 年度に助成を受けた研究費の執行状況を確認した。2022 年度に採択された 3 件の中で、研究方法の変更に伴い、申請した物品を一部取り下げる必要性が生じた研究が 1 件あったため再申請の審議をした。
- v. 2021 年度特別研究費の助成を受けた研究に関して、研究代表者を変更する申請が 1 件あった。2022 年度特別研究費の助成を受けた 3 件のうち 1 件、企業から消耗品の支援の申し出があったため、利益相反に関することを明文化した研究について確認した。
- vi. 直近 5 年間で申請時の課題名と研究実績報告書・研究成果論文報告書の課題名に相違があった 4 件について変更依頼を確認した。

Check

- i. 2023 年度の申請件数が 1 回目の募集期間内では 0 件であったため再募集することになった。再募集期間を 2023 年 2 月 17 日（金）17 時まで延長した。その結果、共同研究 1 件の申請があった。審議の結果、採択が決定し教授会の承認を得て交付することになった（表 7）。

表.7 2023 年度の助成対象研究

研 究 課 題	助成金額	研究種目
基礎看護技術演習の事前・事後学習における看護学生の学習の動機づけの変化	¥961,000	共同研究
合計	¥961,000	

昨年度に引き続き再募集によって申請があった。申請件数が少ない状況が続いている要因として、教員欠員による研究への取り組み困難や、大学教員としての研究に対する意識の希薄さ等が考えられる。より多くの申請(特に若手教員の申請)を受け付け助成できるように検討する必要がある。

- ii. これまでの研究報告書の提出状況について確認（令和 5 年 2 月 24 日）した結果、令和 3 年度助成対象 1 件の研究実績報告書が未提出であった。実績報告書は年度末または研究期間終了後 1 年以内に報告することになっているため、提出するように指導した。
- iii. 研究方法の変更に伴う物品取り下げについては、研究経費の変更を確認し、教授会の承認を得て手続きを経理課と購買課に依頼した。研究計画書を十分検討した上で、設備備品を申請するよう教員に周知する必要がある。
- iv. 研究代表者の変更、利益相反に関する追記について承認した。利益相反が生じる場合は、その都度、申請するよう全教員に周知する。
- v. 4 件の課題名変更について、メール会議で承認された。課題名は、申請時と変更しないことを周知するとともに今後、実績報告書などの提出時にその都度、課題名を確認する。

Action

- i. 教員の研究を推進するための方法を検討する。
 - a. 業務改善により研究時間を確保する。
 - b. 教員の研究に対する意識改革を行う。
 - c. 授業の学習教材の購入に役立てる。
 - d. 研究経験が少ない教員に対して研究取り組みの方向を指し示す。
- ii. 埼玉医科大学短期大学特別研究助成規則を読解する。
 - a. 新任教員にはオリエンテーション時に説明する。

②研究誌の発行状況と編集方針

「埼玉医科大学短期大学紀要」が紀要委員会の編集により、1990年以來毎年1巻発行されている。

i. 発行状況

令和5年3月に第34巻(報告7編掲載)が刊行された。300部発行し、学内91部(図書館、教職員、関連施設)、学外209部(医療系の大学・短期大学・専門学校、その他)に配布した。

ii. 編集方針

他雑誌に未発表の原著論文、総説、報告などを掲載する。投稿者は本学および埼玉医科大学、丸木記念福祉メディカルセンターの教職員(非常勤を含む)および紀要委員会が特に認めた者とする。10月・1月・3月の年3回演題エントリー(投稿する意思の表明)を受け、8月末を入稿の締め切り日としている。

③研究業績

看護学科

i. 原著

該当なし

ii. 著書

蒲生 澄美子. 学習スキルと看護実践能力評価. 応用心理学ハンドブック編集委員会. 応用心理学ハンドブック 初版. 東京: 福村出版; 2022年: 510-511.

小池 啓子. 第2章2節<基礎看護学>, 第3章2節<在宅看護技術>. まるカン編集委員会. まるカン2023: ここは絶対〇をとる! 看護師国家試験頻出ポイント(看護師国家試験対策ブック). 第1版. 東京. 株式会社メディカ出版. 2022.

iii. 総説

該当なし

iv. 報告、その他

内田 貴峰,石川 裕貴、増田 睦美.シミュレーション学習を活用した妊婦健康診査の演習と学習モチベーション評価.埼玉医科大学短期大学紀要,2023;34:11-17.

小池 啓子.LMS を利用した代替実習の作り方.ICT を活用した講義・演習・代替実習-看護教育のための情報サイト NurSHARE.南江堂.2022.9.

北田 良子,布施 好朗,霜田 敏子.看護基礎教育における視覚情報の活用に関する研究の動向と小児の観察力育成教育の検討.埼玉医科大学短期大学紀要,2023;34:55-63.

石川 裕貴,山口 智.冷え症に対する三陰交刺激に関連した文献検討.埼玉医科大学短期大学紀要 2022;33:1-9.

杉本 真弓,秋山 千恵子,久保 かほる,浅見 多紀子,鈴木 夕岐子.慢性期看護実習におけるシミュレーション学習を実践した学生の自己評価と今後の課題.埼玉医科大学短期大学紀要.2023;34:35-54.

小野 真央.新任教員が授業リフレクションを行って得られた気づきと次の授業実践への手がかり.埼玉医科大学短期大学紀要 2023 ; 34:65-86.

v. 学会発表

脇本 直樹,坂本 朋之,奥田 糸子,島田 恒幸,伊藤 善啓,照井 康仁,森 茂久,別所 正美,中村 裕一.骨髄中に faggot 様細胞の出現を認めた CBFb-MYH11 を有する急性骨髄性白血病.第 84 回日本血液学会学術集会.福岡国際会議場・福岡サンパレス・マリンメッセ福岡 B 館.2022.10.14-16.

中村 裕一,坂本 朋之,奥田 糸子,伊藤 善啓,掛川 絵美,内田 優美子,脇本 直樹,森 茂久,別所 正美,照井 康仁.Biclonal gammopathy を呈した症例の検討.第 84 回日本血液学会学術集会.福岡国際会議場・福岡サンパレス・マリンメッセ福岡 B 館.2022.10.14-10.16.

奥田 糸子,脇本 直樹,坂本 朋之,島田 恒幸,伊藤 善啓,内田 優美子,森 茂久,別所 正美,照井 康仁,中村 裕一,三村 尚也,堺田 恵美子.後腹膜に amyloidoma を合併した POEMS 症候群.第 84 回日本血液学会学術集会.福岡国際会議場・福岡サンパレス・マリンメッセ福岡 B 館.2022.10.14-16.

伊藤 善啓,脇本 直樹,坂本 朋之,奥田 糸子,照井 康仁,掛川 絵美,内田 優美子,森 茂久,中村 裕一.免疫性血小板減少症を合併した H 鎖病の一例.第 84 回日本血液学会学術集会.於福岡国際会議場・福岡サンパレス・マリンメッセ福岡 B 館.2022.10.14-16.

瀧山 文恵,持田 奈穂美,荒川 みひろ.ICT を活用した高齢者のフィジカルアセスメント技術演習の効果.日本老年看護学会第 27 回学術集会.2022 年 6 月 25 日.オンライン.

内田 貴峰,米山 万里枝.育児期にある妻からみた夫に対する葛藤のプロセス.第 63 回日本母性衛生学会総会.2022.9.9-10.神戸.

内田 貴峰,石川 裕貴.シミュレーションを用いた母性看護実習の実践報告.第 4 回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会.2023.2.18.西明石.

高野 直美,山岸 智子,小池 啓子,宮島 祐.放課後児童クラブにおける児童の緊急時対応に関する

教育プログラムの開発(第2報).第15回日本医療教授システム学会総会・学術集会. 2023.3.16-17. 東京.

船木 淳,小池 啓子,西村 礼子,納谷 和誠,太田 雄馬,宮下 ルリ子,内田 千恵,瀧澤 紘輝.交流集会4「シミュレーション教育における指導者の positive な失敗」.第4回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会一般企画.2023.2.18.明石市.

石川 裕貴,米山 万里枝.三陰交への円皮鍼・灸による刺激が成人女性の冷えに対する症状緩和の効果の測定.第63回日本母性衛生学会学術集会.2022.9.9-10.神戸.

石川 裕貴,内田 貴峰.母性看護学演習「妊婦の健康診査」にシミュレーション教育を取り入れた学習方法の実践報告.第4回日本看護シミュレーション学会学術集会.2023.2.18.明石.

杉本 真弓,秋山 千恵子,久保 かほる,浅見 多紀子,鈴木 夕岐子.慢性期看護実習におけるシミュレーション学習の実践と今後の課題.日本看護学教育学会第32回学術集会.WEB開催,2023.8.6-7.

vi. 学術講演

脇本 直樹(パネリスト).ダラキューロ webinar.ウェスタ川越.2022.6.1.

小池 啓子.看護師基礎教育における LMS 活用事例と今後の展望.大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム「教育機関 DX シンポ」.国立情報学研究所.2022.4.15.オンライン

小池 啓子.看護師の得意とやる気を支えるキャリアラダー活用のご提案.病院経営セミナー～人材確保のために今取り組むべきこと～.マインヘルスケア株式会社.2022.12.6,2023.1.11. オンライン

vii. 公的研究費

高野 直美,山岸 智子,小池 啓子,宮島 祐.放課後児童クラブにおける児童の緊急時対応に関する教育プログラムの開発.科学研究費助成事業,基盤 C(一般),研究分担.2020-2022.

荒川 みひろ,瀧山 文恵,持田 奈穂美.ICT(情報通信技術)を活用した老年看護学実習における高齢者の活動の場と健康支援に関する学び.埼玉医科大学短期大学特別研究費.埼玉医科大学短期大学.令和4年度.

石川 裕貴,内田 貴峰.三陰交への灸刺激による女子大学生の冷えと月経随伴症状に対する症状緩和の効果の測定.埼玉医科大学短期大学特別研究費.埼玉医科大学短期大学.令和4年度.

持田 奈穂美,瀧山 文恵,荒川 みひろ.仮想現実体験による高齢者の看取り研修と臨地実習をとおして得た看護学生のエンドオブライフケアへの認識.埼玉医科大学短期大学特別研究費.埼玉医科大学短期大学.令和4年度.

viii. 学外との共同研究

所 ミヨ子.看護と介護の連携シートの開発-V.ヘンダーソン看護論を基盤にして-.2020.12~2022.12.菅谷洋子.庄司幸恵.東北文化学園大学

小池 啓子.放課後児童クラブにおける児童の緊急時対応に関する教育プログラムの開発. 2020-2022.
高野直美,山岸智子.宮島祐.科学研究費助成事業,基盤 C(一般).日本医療科学大学 研究分担.

ix. 調査活動

該当なし

専攻科 母子看護学専攻

i. 原著

該当なし

ii. 著書

該当なし

iii. 総説

該当なし

iv. 報告、その他

稲井 洋子,北川 典子.新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 禍における助産学実習の実践報告～
分娩介助実習の例数確保に向けた取り組み～.埼玉医科大学短期大学紀要. 2022,34,19-25.

北川 典子,稲井 洋子.コロナ禍における地域母子保健実習の実践報告.埼玉医科大学短期大学紀
要.2022,34,27-33.

v. 学会発表

該当なし

vi. 学術講演

該当なし

vii. 公的研究費

該当なし

viii. 学外との協働研究

該当なし

ix. 調査活動

斎藤 益子,濱崎 真由美,稲井 洋子,他.日本助産診断実践学会 診断名の開発「分娩期の診断名の開発」; 継続中

(4)社会活動

教員の活動

看護学科

i. 講義

所 ミヨ子.V.ヘンダーソン看護論.埼玉医科大学大学院看護学研究科.2022.6.25.

久保 かほる.教育評価.埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会.2022.7.1,7.8,7.15.

久保 かほる.看護研究の実際.埼玉医科大学中堅看護師研修.2022.8.2-2023.7.1.

浅見 多紀子.看護研究の進め方.秩父市立病院.2022.5-2023.3.

蒲生 澄美子.実習指導方法演習(実習指導案の作成).埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会.2022.8.5-6.8.12.8.18.8.20.

今野 葉月.教材の活用.令和4年度埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会.2022.6.30.

今野 葉月.ファシリテーション.埼玉医科大学認定看護管理者教育課程ファーストレベル.2022.9.24.

霜田 敏子.看護教育課程論(小児看護学),実習指導方法論(小児看護学).埼玉医科大学職員キャリアアップセンター.2022.7.22.

内田 貴峰.立川市パパママ学級講師 2022.5.14.

内田 貴峰.中堅看護師研修「看護研究の実際」.学校法人埼玉医科大学職員キャリアアップセンター.2022.8.2.

内田 貴峰.看護研究研修.埼玉医科大学病院 看護研究委員会.2022.8.24,9.28,10.26.計3回.

内田 貴峰.立川市子育てひろば育児参加促進講座の講師「子育てをパパママとともに楽しむために」.2023.1.21,3.18.計2回.

瀧山 文恵.看護教育課程論(老年看護学),実習指導方法論(老年看護学).埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会.2022.7.23.

小池 啓子.WEBセミナー「LMSを活用するWEB授業のコツ-看護教育における授業設計の観点から-」.株式会社日総研出版.2022.6-8.オンデマンド配信.

小池 啓子.WEBセミナー「看護師国家試験対策苦手科目を克服し解く力を鍛える<必修問題編><一般・状況設定問題編>」.株式会社日総研出版.2022.8-2023.1.オンデマンド配信

小池 啓子.WEBセミナー「LMSを活用するWEB授業のコツ-フォローアップ講座」.株式会社日総研出版.2022.8.WEB

平岡 斉士,小池 啓子.令和4年度教務担当者研修会-魅力ある授業をめざして.インストラクショナルデザインを活用した授業改善への第一歩-静岡県自治体立看護学校協議会.2022.8.23.WEB.

平岡 斉士,小池 啓子.インストラクショナルデザインを用いた効果・効率・魅力的な授業設計(アドバンスト編).愛知県立大学看護学部FD研修会.2022.8.31.WEB.

平岡 齊士, 小池 啓子. 令和4・5年度愛知県教務主任養成講習会「ID理論」全4回.愛知県看護研修センター. 2022.8. WEB, 名古屋市.

小池 啓子. ICT を活用した授業展開と評価. 沼津市立看護専門学校教職員研修 全2回. 2022.12.26, 2023.1.26. WEB, 沼津市.

清水 百子. 令和4年度埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会非常勤講師実習指導方法演習. 8.5-8.6, 8.12, 8.18, 8.20.

石川 裕貴. 助産師相談. 越生町子育て世代包括支援センター. 育児期の母親とその家族を対象. 2022.8.25. 2023.2.24. 3.23.

石川 裕貴. 令和4年度東京医療保健大学大学院医療保健学研究科公開講座. WEB 開催. 一般公開. 2022.7.3.

ii. 講演、その他

秋山 千恵子. 埼玉県看護協会第2支部第37回看護研究発表会. 坂戸グランドホテル. 講評. 2022.12.17.

iii. 所属学会

所 ミヨ子. 日本教育学会. 日本看護学教育学会. 日本教育技術学会. 日本応用心理学会.

久保 かほる. 日本看護学教育学会, 日本看護研究学会.

浅見 多紀子. 日本看護学教育学会, 日本看護研究学会.

蒲生 澄美子. 日本看護学教育学会, 日本応用心理学会, 日本教育工学会, 日本教育学会.

今野 葉月. 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護診断学会, 日本看護管理学会, 日本応用心理学会.

霜田 敏子. 日本小児看護学会, 日本看護科学学会, 日本小児保健学会, 日本笑い学会.

脇本 直樹. 日本内科学会(内科認定医, 総合内科専門医, 指導医) 日本血液学会(血液専門医, 指導医). 日本癌学会.

内田 貴峰. 日本看護管理学会, 日本看護研究学会, 日本母性衛生学会、東京母性衛生学会、日本母子看護学会, 日本教育工学会、日本助産学会.

秋山 千恵子. 日本看護研究学会, 日本看護学教育学会.

鈴木 夕岐子. 日本看護研究学会, 日本看護学教育学会.

瀧山 文恵. 日本老年看護学会, 日本看護科学学会, 日本高齢者虐待防止学会, 日本認知症ケア学会.

荒川 みひろ. 日本看護学教育学会, 日本高齢者虐待防止学会.

海野 文子. 日本在宅看護学会, 日本在宅ケア学会, 日本看護科学学会, 日本医療教授システム学会.

勝久 淳. 日本精神保健看護学会, 日本看護学教育学会.

北田 良子. 日本小児看護学会.

小池 啓子. 日本教育工学会, 日本医療教授システム学会, 日本看護管理学会, 日本看護学教育学会, 日本看護シミュレーションラーニング学会.

清水 百子.日本応用心理学会,日本看護科学学会,日本看護研究学会,日本健康医学会,日本保健福祉学会.

宮崎 素子.日本看護学教育学会,日本看護技術学会,日本応用心理学会.

渡邊 あゆみ.日本精神保健看護学会.

石川 裕貴.日本母性衛生学会.日本看護シミュレーションラーニング学会.

榎本 佑美.日本看護シミュレーションラーニング学会.

布施 好朗.日本小児看護学会.

持田 奈穂美.老年看護学会,日本高齢者虐待防止学会.

杉本 真弓.日本看護学教育学会.

増田 睦美.日本母性衛生学会,日本「性とこころ」関連問題学会,GID(性同一性障害)学会.

小野 真央.日本看護学教育学会.

iv. 役員歴

瀧山 文恵.社会福祉法人藤和会特別養護老人ホーム四季の郷上尾・越生(評議員).

瀧山 文恵.日本高齢者虐待防止学会選挙管理委員長.

v. 出席学会

所 ミヨ子.日本看護倫理学会.第 15 回年次大会.WEB 開催.2022.5.28-7.22.

所 ミヨ子.日本看護学教育学会.第 32 回学術集会.WEB 開催.2022.8.6-9.11.

所 ミヨ子.日本応用心理学会.第 88 回大会.対面と WEB 併用開催.2022.9.17-10.18.

所 ミヨ子.第 36 回日本教育技術学会.対面と WEB 併用開催.2022.12.11.

久保 かほる.日本看護学教育学会第 32 回学術集会.WEB 開催.2022.8.6-9.10.

久保 かほる.日本看護研究学会第 48 回学術集会.WEB 開催.2022.8.27-8.28.

久保 かほる.日本看護技術学会第 20 回学術集会.WEB 開催.2022.11.5-11.30.

久保 かほる.第 30 回埼玉看護研究学会.WEB 開催.2022.12.3.

浅見 多紀子.日本看護学教育学会第 32 回学術集会.WEB 開催.2022.8.6-7.

浅見 多紀子.第 30 回埼玉看護研究学会.WEB 開催.2022.12.3.

蒲生 澄美子.日本看護学教育学会.WEB 開催.開催期間 2022.8.6-9.11.

蒲生 澄美子.日本応用心理学会第 88 回大会.WEB 開催.開催期間 2022.9.18-10.18.

今野 葉月.第 26 回日本看護管理学会学術集会.2022.8.19-9.30.WEB 開催.

今野 葉月.日本看護学教育学会第 32 回学術集会.2022.8.6-9.11.WEB 開催.

今野 葉月.第 28 回日本看護診断学会学術大会.2022.7.16-7.31.WEB 開催.

霜田 敏子.日本小児看護学会第 32 回学術集会.WEB 開催.2022.7.9-10.

霜田 敏子.日本看護科学学会第 42 回学術集会.WEB 開催.2022.12.3-4.

脇本 直樹.第 119 回日本内科学会総会・講演会.2022.4.15-4.17.WEB 開催.

脇本 直樹.第 84 回日本血液学会学術集会.福岡国際会議場・福岡サンパレス・マリンメッセ福岡 B 館.2022.10.14-10.16.

内田 貴峰.第 39 回東京母性衛生学会学術集会.2022.5.15.東京.

内田 貴峰.第 56 回分娩監視研究会.2022.6.26.埼玉.

内田 貴峰.第 21 回日本ウーマンズヘルス学会学術集会.2022.8.13. WEB 開催.

内田 貴峰.第 36 回日本母乳哺育学会学術集会.2022.9.17-18.WEB 開催.

内田 貴峰.第 38 回日本分娩研究会.2022.9.8.神戸.

内田 貴峰.第 38 回埼玉母性衛生学会学術集会.2022.11.12.埼玉.

内田 貴峰.第 42 回日本看護科学学会学術集会.2022.12.3-12.4.WEB. 配信期間 2022.11.19-12.28.

秋山 千恵子.日本看護学教育学会 第 32 回学術集会,WEB 開催,2022.8.6-8.7.

秋山 千恵子.日本看護研究学会 第 48 回学術集会,WEB 開催,2022.8.27-28.

秋山 千恵子.日本看護技術学会 第 20 回学術集会,WEB 開催,2022.11.5-6.

秋山 千恵子.第 30 回埼玉看護研究学会,WEB 開催,2022.12.3.

鈴木 夕岐子.日本看護学教育学会 第 32 回学術集会,WEB 開催,2022.8.6-8.7.

鈴木 夕岐子.日本看護研究学会 第 48 回学術集会,WEB 開催,2022.8.27-28.

鈴木 夕岐子.日本看護技術学会 第 20 回学術集会,WEB 開催,2022.11.5-6.

鈴木 夕岐子.第 30 回埼玉看護研究学会,WEB 開催,2022.12.3.

瀧山 文恵.日本老年看護学会.日本老年看護学会第27回学術集会.2022年6月25・26日.WEB開催.

瀧山 文恵.第18回日本高齢者虐待防止学会.2022年9月10日.WEB開催.

瀧山 文恵.第30回埼玉看護研究学会.2022年12月3日.WEB開催.

荒川 みひろ.第 27 回老年看護学会学術集.WEB 開催.2022.6.25-26.

荒川 みひろ.一般社団法人日本看護教育学会第 32 回学術集.WEB 開催.2022.8.6-7.

荒川 みひろ.第 18 回日本高齢者虐待防止学会足立大.WEB 開催.2022.9.10.

海野 文子.第 41 回日本看護科学学会学術集会.2022.12.3-4.WEB 開催.

勝久 淳.日本精神保健看護学会第 32 回学術集会・総会.WEB 開催,2022.6.4-5.

勝久 淳.第 18 回日本高齢者虐待防止学会足立大会.WEB 開催,2022.8.25

勝久 淳.第 30 回埼玉看護研究学会.WEB 開催,2022.12.3.

北田 良子.日本小児看護学会第 32 回学術集会.WEB 開催. 2022.7.9-10.

北田 良子.日本看護科学学会第 42 回学術集会. WEB 開催. 2022.12.3-4.

小池 啓子.日本教育工学会 2022 秋季全国大会. 2022.9.11-13.WEB.

小池 啓子.第 4 回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会. 2023.2.18. 明石市.

小池 啓子.第 15 回日本医療教授システム学会総会・学術集会. 2023.3.16-17. 東京都.

小池 啓子.日本教育工学会. 2023 春季全国大会. 2023.3.25-26. 東京都.

清水 百子.第 32 回日本看護教育学会学術集会.WEB 開催.2022.8.6-7.

清水 百子.第 42 回日本看護科学学会学術集会.WEB 開催.2022.12.3-4.

宮崎 素子.日本看護学教育学会第 32 回学術集会.WEB 開催.2021.8.6-8.7
宮崎 素子.日本看護技術学会第 20 回学術集会.WEB 開催.2022. 11.5-6
宮崎 素子.第 42 回日本看護科学学会学術集会.WEB 開催.2022.12.3-4
渡邊 あゆみ. 第 14 回日本医療教授システム学会学術集会. WEB 開催. 2022.3.17-3.18.
渡邊 あゆみ.第 32 回日本精神保健看護学会学術集会.WEB 開催. 2022.6.4.-6.5.
渡邊あゆみ.第 19 回日本うつ病学会総会.第 5 回日本うつ病リワーク協会年次大会.WEB 開催.
2022.7.16-7.17.
渡邊 あゆみ. 一般社団法人 日本看護学教育学科第 32 回学術集会. WEB 開催. 2022.8.6-8.7.
渡邊 あゆみ.第 15 回日本医療教授システム学会学術集会.東京. 2023.3.16-3.17.
石川 裕貴.第 21 回日本母子看護学会学術集会.WEB 開催.2022.8.6.
石川 裕貴.第 21 回日本ウーマンズヘルス学会学術集会.WEB 開催.2022.8.13.
石川 裕貴.第 63 回日本母性衛生学会学術集会.2022.9.9-10.神戸国際会議場.
石川 裕貴.第 42 回日本看護科学学会学術集会.WEB 開催.2022.12.3-4.
石川 裕貴.第 4 回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会.2023.2.18.兵庫県立大学明石
看護キャンパス.
布施 好朗. 日本小児看護学会第 32 回学術集会. WEB 開催. 2022. 7.14-8.31.
布施 好朗. 第 41 回日本看護科学学会学術集会. WEB 開催. 2022. 12.19-2023.1.19.
持田 奈穂美.日本老年看護学会第 27 回学術集会.WEB 開催.2022.6.25-7.25.
持田 奈穂美.第 30 回埼玉看護研究学会.WEB 開催.2022.12.3.
杉本 真弓.日本看護学教育学会第 32 回学術集会.WEB 開催.2022.8.6-9.11.
杉本 真弓.第 10 回日本シミュレーション医療教育学会学術大会.WEB 開催.2022.11.1-11.30.
杉本 真弓.第 30 回埼玉看護研究学会.WEB 開催.2022.12.3.
増田 睦美.第 21 回日本母子看護学学会学術集会.WEB 開催.2022.8.6.
増田 睦美.第 63 回日本母性衛生学会学術集会.WEB 開催,2022.9.9-9.10.
増田 睦美.第 42 回日本看護科学学会学術集会.WEB 開催,2022.12.3-12.4.
小野 真央.日本看護学教育学会第 32 回学術集会.WEB 開催.2022.8.6-7.
小野 真央.第 30 回埼玉看護研究学会.WEB 開催.2022.12.3.

vi. 受賞

令和 4 年度埼短賞 清水百子

vii. ボランティア活動

該当なし

viii. その他

[研修会企画・運営]

今野 葉月. 実習指導方法演習「実習指導の実際」. 埼玉医科大学職員キャリアアップセンター. 2022.9.6-9.

霜田 敏子. 埼玉医科大学中堅看護師研修「看護研究の実際」非常勤講師. 2022.8.-2023.7.

内田 貴峰. 公立昭和病院運営協議委員会委員

秋山 千恵子. 実習指導方法演習「実習指導の実際」. 埼玉医科大学職員キャリアアップセンター. 2022.9.5-8.

小池 啓子. 埼玉医科大学短期大学看護学科 FD「LMS を効果的に活用する」全 4 回. 内容設計・運営・進行. 2022.4-2023.3.

小池 啓子. 熊本大学教授システム学研究センター. 連携研究員(一般), 2022.4-2023.3

小池 啓子. 文部科学省委託事業「高等教育段階における遠隔教育の実態に関する調査研究」調査協力. 株式会社リベルタス・コンサルティング. 2023.1.

清水 百子. 実習指導方法演習「実習指導の実際」. 2022.8.29-9.2.

荒川 みひろ. 埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会. 2022.8.5,6,12,18,20,26.

海野 文子. 令和 4 年度埼玉県私立短期大学協会教職員研修会分科会. 座長. 2022.8.16-9.13. 埼玉

持田 奈穂美. 持田奈穂美.ACPiece 研修会 ファシリテーター.WEB 開催. 2022.10.29.

[認定・資格等]

小池 啓子. ELC 認定 E-LEARNING PROFESSIONAL / E-LEARNING マネージャー, E-LEARNING エキスパート. 資格更新. 日本イーラーニングコンソーシアム. 2023.3.

小池 啓子. 教育改善スキル修得 WEB プログラム-FD 設計編-0 期版修了. 熊本大学教授システム学研究センター. 2022.4-2022.8.

海野 文子. 人生会議(ACP)ファシリテーター養成研修修了. 2022.7.31

石川 裕貴. 第 8 回看護シミュレーション教育指導者養成ベーシックコース修了. 2022.7.

持田 奈穂美. 人生会議(ACP)ファシリテーター養成研修修了. 2022.4.24.

専攻科 母子看護学専攻

i. 講義

稲井 洋子. 埼玉医科大学中堅看護師研修「看護研究の実際」. 学校法人埼玉医科大学職員キャリアアップセンター. 2022.8.17.

稲井 洋子. 排泄機能. 生殖機能. 免疫機能に障害のある成人の看護(女性生殖器). 独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校. 2022.9.9, 9.16.

稲井 洋子. 母性看護学概論. さいたま看護専門学校. 2023.2.7, 2.21, 2.28.

ii. 講演、その他

稲井 洋子.北本市マタニティセミナー(後期)「安心して出産・育児を迎えるために、助産師への質問タイム、赤ちゃんをお風呂に入れてみよう」(各回 15 組程度). 北本市保健センター. 妊娠 28 週以降の妊婦とその家族を対象. 2022.4.15, 8.20, 12.10, 2023.2.18.

稲井 洋子.助産師国家試験直前セミナー2023.WEB 開催. 2023.1.9, 1.21.

稲井 洋子.人権教育講演「大切な命」について.三芳町立竹間沢小学校,三芳町立藤久保小学校.2023.1.18.

稲井 洋子.人権教育講演「大切な命」について. 三芳町立上富小学校.,三芳町立藤久保中学校.2022.1.23.

稲井 洋子.公益財団法人性の健康医学財団第 11 回生の健康カウンセラー養成講座〔基礎コース〕.「共に学ぶ性の健康～DV/性暴力～」東京. 2023.1.29.

iii. 所属学会

稲井 洋子.日本母性衛生学会,埼玉県母性衛生学会,東京母性衛生学会,日本助産学会,日本母子,看護学会,日本助産診断実践学会,日本生殖心理学会,日本「性とこころ」関連問題学会,日本周産期メンタルヘルス学会.

北川典子. 日本助産学会,日本母性衛生学会,日本母子看護学会,日本助産診断実践学会,日本生殖心理学会.

iv. 役員歴

稲井 洋子. 日本母子看護学会 (理事)

稲井 洋子. 日本助産診断実践学会 (常任理事)

稲井 洋子. 埼玉県母性衛生学会 (理事)

稲井 洋子. 日本分娩監視研究会 (常任幹事)

稲井 洋子. 日本生殖心理学会 (評議委員)

v. 出席学会

稲井 洋子.第 21 回日本母子看護学会学術集会. WEB 開催 .2022.8.6.

稲井 洋子.第 63 回日本母性衛生学会学術集会.神戸. 2022.9.9-10.

稲井 洋子.日本助産診断実践学会第 5 回学術集会.WEB 開催.2022.9.24.

稲井 洋子.第 38 回埼玉県母性衛生学会学術集会・学術講演会. 埼玉. 2022.11.12. (午後)

北川 典子.第 21 回日本母子看護学会学術集会. WEB 開催.2022.8.7～16.

北川 典子.第 63 回日本母性衛生学会. WEB 開催.2022.9.23～10.30.

北川 典子.第 5 回日本助産診断実践学会学術集会. WEB 開催.2022.10.3～31.

北川 典子.第 38 回埼玉県母性衛生学会.2022.11.12.

vi. 受賞

令和 4 年度埼短賞 北川典子

vii. ボランティア活動

該当なし

viii. その他

[研修会企画・運営]

稲井 洋子. 第 21 回日本母子看護学会学術集会.一般演題(口演)座長. WEB 開催.2022.8.6.

稲井 洋子. 第 63 回日本母性衛生学会学術集会. 一般演題(口演)座長.神戸.2022.9.10

稲井 洋子. 日本助産診断実践学会第 5 回学術集会.会長講演座長. WEB 開催.2022.9.24.

稲井 洋子. 日本助産診断実践学会 査読協力委員.

[認定・資格等]

該当なし

3)学生の学習成果の獲得が向上するような事務組織の整備

当該短期大学事務部は学務課 3 名、庶務課 3 名、図書館 1 名、短大事務部顧問 1 名、学校群統括部長 1 名、事務部長 1 名を配置し、責任体制を明確にしている。事務部は学生の教育環境や生活支援体制を整備しており、窓口は午前 8 : 30 から午後 5 時まで、図書館の開館時間は午前 9 : 00 から午後 5 : 30 または 6 : 30 まで開館し学生の利用に便宜を図っている。

事務職員は学生との接遇、コミュニケーション能力、事務処理能力等の向上のため種々の研修会に参加できる体制が作られている。物品等の環境も整備されている。さらにSD活動は当該法人の「職員研究規程」、「FD・SD統括委員会運営規則」に則り実施している。

SD活動の詳細は下記に示す。

Plan

教員個々人の教育・研究能力の向上のみならず、図書館司書や事務系職員の職能開発も含めた短大教職員の資質の向上を図るために、SD活動を平成 22 年度から開始した。この取り組みが円滑に行えるように、SD活動の目的と目標を次のとおり定め、研修会を企画し開催する。

(1)SD活動の目的

学生の学習と生活の支援の充実および教職員の資質向上をはかる。

(2)SD活動の目標

Your Happiness is our Happiness を達成させるための 5 つの C みんなで実践して
Happiness に！

- Communication いつも笑顔で、丁寧にかかわりましょう
- Compassion 思いやりをもって接しましょう
- Courtesy 他者への礼儀を大切にしましょう
- Corporation 互いに力を合わせとりくみましょう
- Challenge 自分の成長のため、組織向上のために挑戦し続けましょう

Do

- (1)SD 活動企画メンバーは学長、副学長、顧問、学校群統括部長・事務部長、入試部長・広報部長・学生部長、専攻科代表(1名)、看護学科代表(2名)で編成(表8)した。
- (2)SD 活動メンバーのグループ編成は、職種や職位に片寄りが無いグループを6つ編成した。

表 8. SD 活動メンバーのグループ

G	グループメンバー
1	相田 香 蒲生澄美子 瀧山文恵 荒川みひろ 石川裕貴 佐藤 真 (6名)
2	久保かほる 内田貴峰 鈴木夕岐子 小池啓子 榎本佑美 増田睦美 荒川浩明 (7名)
3	堀江浩子 稲井洋子 浅見多紀子 秋山千恵子 渡邊あゆみ 北田良子 (6名)
4	島田典明 本間美咲 宮崎素子 勝久 淳 清水百子 布施好朗 (6名)
5	霜田敏子 北川典子 今野葉月 海野文字 持田奈穂美 (5名)
6	所ミヨ子 矢部則昭 伊東明日香 杉本真弓 櫻井邦恵 小野真央 (6名)

(3)企画会議は2回開催した。

(4)研修会1の開催

埼玉県私立短期大学協会教員研修会で示された6つのテーマを表1のグループに割り当てた。テーマは「学生募集」、「入学前教育」、「専門教育・実習教育」、「学生生活支援」、「キャリア支援」、「地域・中高大連携」であった。意見交換はグループ毎に司会と書記を決め、「現状」と「課題(問題)」、「課題解決に向けた意見・提言」を話し合った。この成果は「令和4年度埼玉県私立短期大学協会教職員研修会報告書」に掲載された。

(5)研修会 2 の開催

研修会 2 は「神経発達症（発達障害）の診療と支援 ―教育現場での対応について―」をテーマとし、講義とグループ（表 1）による意見交換を行った。講義は埼玉医科大学病院神経精神科・診療内科の教授である松岡孝裕先生に依頼した。講義の内容は神経発達症（発達障害）の診療の基本と教育現場での対応・支援について事例を含めた内容で、45 分程度の動画にまとめた。この動画は本学教職員を対象に期間限定でオンデマンド配信をした。

講義の動画を視聴した後、主体的な学習ができる学習環境の整備に向けて、学生への対応に関する本学が抱えている課題（抱える可能性のある課題）について話し合い、その結果を報告書にまとめ提出してもらった。

(6)研修の成果は、「埼玉医科大学短期大学 SD 活動・FD 活動報告書」に掲載する。

Check

本学で企画した研修会 2 を中心としたアンケートを準備し、研修が終了したタイミングで実施したところ 23 名の協力が得られた。この結果（表 9）を踏まえて評価する。

表 9. 項目毎の回答の結果

n=23

項目	回答
時期は適切か	はい：13、いいえ：7、その他：3
研修会 2 の講義は満足したか	はい：21、いいえ：1、その他：1
研修会 2 の意見交換は満足したか	はい：18、いいえ：2、その他：3
研修会 1.2 は自己研鑽に有益か	はい：19、いいえ：2、その他：2

(1)時期について

約半数が「適切」と回答しているものの「年度末は避けてほしい」という回答もあったことから、実施する時期の検討は継続する。

(2)プログラムについて

i. 講義について

「満足」の回答が多数を占めている。「発達障害」をテーマとした講義は、学生の指導や対応に苦慮している教職員にとって関心のあるテーマであったと考える。さらに、講義はオンデマンド配信のため、各自のスケジュールで繰り返し視聴できることもこの結果につながったと考える。

ii. グループ毎の意見交換

意見交換では、全員が参加し十分意見交換ができるようにグループ毎に工夫をしていた。話し合う前に、個別に意見をまとめ確認し、意見交換を複数回行っていった。このことから「満足」の回答が多かったと考える。

(3)研修会 1.2 は自己研鑽に有益か

大多数が「有益」と回答している。研修会 1.2 共に、日頃から課題と感じていたテーマであったため、講義はもちろん意見交換を繰り返し行ったことが「自己研鑽に有益」という結果につながったと考える。

今年度も各グループの研修成果を全教職員が共有できる場が設定できなかった。アンケートの意見にも研修成果の共有を望む意見が複数あり、教職員の一人一人が自身の資質向上につとめ協働性を高め合うには、全員で意見交換ができるように企画する必要がある。

Action

- (1)研修の時期は年度末を避ける日程で計画する。
- (2)研修方法は対面集合研修で、全員で意見交換ができるように計画する。
- (3)テーマは「広報活動」に関わる内容の希望が多く、今年度の研修の継続として「学習障害」に関する内容の希望もあった。これらを踏まえて企画する。

4)労働基準法等の労働関係法令を遵守した人事・労務管理の適切な実施

教職員の就業に関する諸規定を当該法人の「就業規程」に整備している。教職員の就業に関する諸規定を教職員に周知している。教職員はいつでも個人のパソコンからウェブサイトに掲載されている規程集を閲覧できる。教職員の就業は当該法人の「就業規程」に基づいて適正に管理している。庶務課で出勤管理等を行っており、毎月人事課へ報告している。

2. 物的資源

1)教育課程編成・実施の方針に基づいた校地、校舎、施設整備、その他の物的資源の整備と活用

校地の面積は共用で 372,248 平方メートルであり短期大学設置基準を充足している。校舎の面積は 6,126 平方メートルで他に 9 号館の 404 平方メートルもあり、短期大学設置基準を充足している。校舎は車いすの利用者が使用できるよう、エレベーターやトイレを整備している。カリキュラムポリシーに基づいて授業を行う講義室 9 室、演習室 2 室、実験実習室 1 室を用意している。

施設整備の詳細は以下の通りである。

(1)施設設備の整備・運用状況

①学内ネットワークの整備

学校法人埼玉医科大学 IT 化推進委員会と協調して短期大学の IT 化の一環として進めてきたネットワーク基盤強化は平成 17 年度までにほぼ整備され、以下の様に運用と保守を継続して行っている。

- i. 事務部のネットワークは、強化されたセキュリティの下で共有サーバーを用いて教職員間の情報交換に有効に利用されている。
- ii. コンピューター実習室の学生用機器は、コンピューター活用の授業以外の教育にも広く利用されている。コンピューター実習室の機器は令和 5 年 3 月に全て更新した。新たに学修ホール 1 および 2 に PC を各 5 台ずつ設置し、コンピューター実習室使用時でも PC を利用できるよう整備した。
- iii. 学生のノート PC 用に盗聴防止策を施したアクセスポイントを配備し、安全な接続が可能である。

(2)令和 4 年度購入教育備品

品 名	規 格 等	数 量
コンピューター実習室機器更新 サーバー ノートパソコン ほか	DELL PowerEdge T350 Server DELL BASE NBK LAT CTO 3520	3 台 6 7 台

(3)図書利用状況

① 令和4年度単行本受入冊数

	購入分	寄贈分	研究費分	合計
和書	360	0	0	360
洋書	0	0	0	0
A V	16	0	0	16
合計	376	0	0	376

② 令和4年度製本雑誌受入冊数

	購入分	寄贈分	合計
国内雑誌	62	3	65
外国雑誌	6	0	6
合計	68	3	71

③ 令和4年度現行受入雑誌数

	購入分	寄贈分	合計
国内雑誌	46	109	155
外国雑誌	4	0	4
合計	50	109	159

④ 平成元年度(開学年度)からの累積冊数

	和書	洋書	合計
単行本	19,559	51	19,610
製本雑誌	3,082	550	3,632
A V	247	0	247
合計	22,888	601	23,489

⑤ 令和3年度 図書貸出状況

	貸出者数	貸出冊数
教職員	98	262
短大:看護	749	1,484
専攻科:母子	35	65
その他	2	2
合計	884	1,813

⑥ 令和4年度 入館者数

	入館者数
教職員	242
短大:看護	2,583
専攻科:母子	126
その他	101
合計	3,052

⑦ 令和4年度 開館日数 229 日

2)施設整備の維持管理の適切な実施

(1)建物・設備

校舎・学生寮としては、短大本校舎・専攻科棟の2棟と学生寮1棟を、施設部と短大事務部により日常の保守管理を行っている。その他、施設・設備・衛生設備・電気設備・防火設備に関する保守管理については、法令に基づき定期的に専門業者により実施されている。

(2)危機管理体制

防災委員会に拠る教職員の防火・防災体制については、フローア責任者及び各室に責任者を置き、防火・防災体制を敷いている。消防訓練・避難訓練については学事に組み入れ、地区の消防組合の指導の下、年2回実施している。

(3)防犯体制

キャンパス内の防犯体制については、警備会社による、夜間の立ち入り検問、校内巡回等により、厳重に行われている。

3. 技術的資源をはじめとするその他の教育資源

1)教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるための技術的資源の整備

(1)学術情報システムの整備

カリキュラムポリシーに基づいて技術サービス、専門的な支援、施設の向上・充実を図っている。コンピューター実習室の利用については学生にパスワードを付与しいつでも利用できるようにしている。令和4年度は5階学修ホールでも学生が利用できるパソコンを複数台設置した。学生は情報技術の向上に関するトレーニングを情報科学の授業で行っている。技術的資源と設備の維持・整備については必要に応じて埼玉医科大学ITセンターへ相談し適切な状態を保持している。

4. 財的資源

1)財的資源の適切な管理

資金収支及び事業活動収支は、過去3年間にわたり均衡して順調な運営がなされている。平成28年度から令和4年度の第4次長期総合計画を策定し、計画的な事業運営に取り組んでいる。収支バランスも良く健全な運営がなされている。

IV. リーダーシップとガバナンス

1. 理事長のリーダーシップ

理事長は、当該法人の運営全般にリーダーシップを適切に発揮している。法人の寄附行為を基に、学校行事、特別講義等で学生及び教職員に講和し、意識づけることによって、本学の発展に寄与している。理事長は、本学の学長を兼務し、自己点検・評価委員会の委員長として、リーダーシップの下、全専任教職員で教育の質保証を図る査定の仕組みが機能している。

2. 学長のリーダーシップ

学長は、人格高潔で、学識が優れ識見に富み、かつ教学運営の最高責任者として、その権限と責任において、教授会の意見を参酌して最終的な判断を行っている。寄附行為及び建学の精神に基づき教育研究を推進し、本学の向上・充実に向けて努力している。また、校務をつかさどり所属職員を監督している。

3. ガバナンス

理事長のリーダーシップのもと、医療人としての意識改革に努めている。学校法人埼玉医科大学の基本理念『限りなき愛』を基本にして、5年ごとに長期総合計画を策定し実施し、現在は第4次長期総合計画を実行中である。この法人全体の理念を引き継ぎ、本学においても、建学の精神及び教育目標、三つの方針を明確にした「行動のしおり」を作成し、教職員及び全学生が携帯し意識改革に努めている。

令和4年度自己点検・評価委員

丸木 清之 (学長)
久保 かほる (副学長・委員長)
小室 秀樹 (短大事務部顧問)
内田 和利 (学校群統括部長)
相田 香 (事務部長)
霜田 敏子 (看護学科)
稲井 洋子 (専攻科)
今野 葉月 (SD活動企画代表)
鈴木 夕岐子 (看護学科)
持田 奈穂美 (看護学科)
島田 典明 (学務課)
佐藤 真 (庶務課)

令和4年度報告書編集委員

鈴木 夕岐子 (看護学科)
持田 奈穂美 (看護学科)
島田 典明 (学務課)
佐藤 真 (庶務課)

学校法人 埼玉医科大学
埼玉医科大学短期大学

令和4年度自己点検・評価報告書
(2022年度年報)

令和5年3月31日発行

埼玉医科大学短期大学
自己点検・評価委員会
〒350-0495

埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049-276-1512

FAX 049-294-8604

E-mail : tangakumu@saitama-med.ac.jp

